

TIBCO FOCUS[®]

Db2 Web Query Report Broker 利用ガイド

バージョン 2.3.0

January 2022



目次

1. Report Broker の使用	9
Report Broker について	9
Report Broker の概要	9
Report Broker ユーザの認可	10
Distribution Server 機能	10
Distribution Server のスタートアップ.....	11
リカバリ.....	11
スキャンバック.....	12
Report Broker 構成ツール.....	13
Report Broker Distribution Server 構成設定の確認.....	14
2. Report Broker ステータスの使用	15
サーバステータス	16
Distribution Server ステータスの表示.....	16
データサーバ別のジョブキュー.....	19
サーバパフォーマンス	19
ジョブステータス	20
ジョブログ	21
Report Broker の構成	22
構成タブのアイコン.....	22
構成タブのフォルダ.....	24
構成設定の変更.....	25
Distribution Server の設定.....	26
Distribution Server へのアクセスを特定の IP アドレスリストに制限.....	33
設定 - 全般.....	35
スケジュールタスク設定の指定.....	36
スケジュールフォーマット設定の指定.....	37
スケジュール配信方法の設定.....	38
Email 配信.....	39
許可する Email ドメインおよびアドレスの確認.....	45

無効な Email アドレスおよびドメインの例.....	46
無効な Email アドレス.....	47
無効な Email ドメイン.....	47
Email ドメインおよびアドレスの制限.....	47
Email アドレスの選択ダイアログボックス.....	49
Email アドレスのみのリスト.....	50
Email ドメインとアドレスのリスト.....	51
Email ドメインのみのリスト.....	52
通知.....	52
FTP の設定.....	56
圧縮 (ZIP) の設定.....	60
ZIP 暗号化保護デフォルトプラグインの使用.....	62
デフォルトスケジュール.....	65
ログ削除.....	65
データサーバの設定.....	66
スケジュール禁止期間の使用	71
週単位スケジュール禁止期間の構成.....	75
週単位スケジュール禁止期間の設定.....	76
月単位スケジュール禁止期間の構成.....	78
月単位スケジュール禁止期間の設定.....	79
1 日スケジュール禁止期間の構成.....	80
1 日スケジュール禁止期間の設定.....	80
毎日スケジュール禁止期間の構成.....	80
毎日スケジュール禁止期間の設定.....	81
スケジュール禁止期間のインポート.....	83
スケジュール禁止期間インポートファイルフォーマット.....	85
1 日スケジュール禁止期間インポートファイルのエントリレイアウト.....	85
週単位スケジュール禁止期間インポートファイルのエントリレイアウト.....	85
月単位スケジュール禁止期間インポートファイルのエントリレイアウト.....	86
毎日スケジュール禁止期間インポートファイルのエントリレイアウト.....	86

スケジュール禁止期間プロファイルのエクスポート.....	91
ファイルフォーマットのエクスポート.....	91
グローバル更新	92
3. 配信リストの作成と保守	97
配信リストの作成	97
配信リストの編集と削除	100
レポートのバースト	101
バーストのガイドラインと制限.....	103
複数 Email アドレスの指定	106
4. スケジュールの作成	109
ベーシックスケジュールツールの概要	109
ベーシックスケジュールツールのクイックアクセスツールバー.....	110
ベーシックスケジュールツールのリボン.....	110
ベーシックスケジュールツールによるスケジュールの作成	111
ベーシックスケジュールツールのタスクの概要	114
ベーシックスケジュールツールのタスクオプション.....	114
アラートスケジュールの遅延設定.....	117
パラメータ値の指定.....	119
パラメータ値による Active Dashboard および複合レポートのバースト.....	132
フィルタ設定済みおよびフィルタ未設定レポートを含む Active Dashboard	
または Excel 複合レポートのバースト.....	137
フィルタ設定済みレポートのみを含む Active Dashboard または Excel 複	
合レポートのバースト.....	139
パラメータの削除.....	143
新規パラメータの作成.....	143
レポートフォーマットの選択.....	145
タスクの詳細設定.....	146
ベーシックスケジュールツールの配信オプション	147
ベーシックスケジュールツールでの Email 配信オプションの使用.....	147
埋め込み Email メッセージとして DHTML レポートを配信する際の考慮事項....	153

ベーシックスケジュールツールでの FTP 配信オプションの使用.....	156
ベーシックスケジュールツールでのプリンタ配信オプションの使用.....	158
ベーシックスケジュールツールでのリポジトリ配信オプションの使用.....	160
ベーシックスケジュールツールでのリポジトリ配信方法によるファイルシステム配信.....	163
ベーシックスケジュールツールの通知オプション	163
ベーシックスケジュールツールでのエラー時通知と常に通知の設定.....	164
ベーシックスケジュールツールのプロパティの概要	165
ベーシックスケジュールツールの実行間隔の概要	166
1 回だけ実行.....	167
分単位.....	167
時間単位.....	168
日単位.....	168
週単位.....	168
月単位.....	168
年単位.....	169
カスタム実行間隔.....	169
詳細設定	170
5. CL コマンドによるスケジュールの実行	173
Report Broker スケジュールの実行	173
6. スケジュールの保守	177
ここから ベーシックスケジュールツールによるスケジュール保守の概要	177
ベーシックスケジュールツールによるスケジュールの編集	179
スケジュールのコピー	180
ベーシックスケジュールツールによるスケジュールの削除	180
スケジュールの公開	180
7. Report Broker エクスプローラ	183
Report Broker エクスプローラの使用	183
エクスプローラのツールバー	185
エクスプローラのツリー	186
エクスプローラの項目リストパネル	187

エクスプローラのスケジュール詳細情報	187
エクスプローラの配信リスト詳細情報	187
エクスプローラの項目オプション	188
サブフォルダの検索	190
8. スケジュールのトラッキング	193
ログレポート	193
コンソールによるスケジュールのトラッキング	193
スケジュールログの使用	193
ジョブステータスの確認	194
Report Broker のパフォーマンスログによるスケジュール実行のトラッキング	196
9. トレースの使用	199
トレースの有効化	199
Servlet トレース	199
Distribution Server スタートアップトレースファイル	200
スケジュールトレースおよびレポートトレース	200
特定のジョブに関連付けられたトレースファイル	201
トレースエラーファイル	201
スケジュールトレースファイルのクリーンアップ	202
Report Broker ジョブトレースファイルのダウンロード	202
Distribution Server 初期化トレース	203
Reporting Server のトレース	203
10. スケジュール出力の Report Broker フォーマット	205
AHTML	205
APDF	206
DHTML	206
DOC	207
EXL07	207
EXL2K	208
EXL2K FORMULA	208
EXL97	209

HTML209

HTML5211

JPEG 211

PDF 212

PNG 213

PPT 213

PPTX 213

PS 214

SVG 214

WP 215

Legal and Third-Party Notices 217

1

Report Broker の使用

Report Broker はスケジュールおよび配信ツールで、組織で必要とするユーザに、重要な情報を最新の状態で自動配信するための機能を提供します。

トピックス

- ❑ [Report Broker について](#)
 - ❑ [Report Broker の概要](#)
 - ❑ [Report Broker ユーザの認可](#)
 - ❑ [Distribution Server 機能](#)
-

Report Broker について

Report Broker を使用して、特定の時間や間隔でレポートを実行し、Email、プリンタ、または Web Query リポジトリに配信することができます。レポートは、単一のアドレスや配信リストの受信者グループリストに配信することができます。

レポート全体を配信することや、Report Broker のバースト機能を使用してレポートを分割して配信することができます。レポートをバーストすると、指定したユーザに関連するレポートセクションのみが送信されます。

スケジュールを作成するには、Report Broker のスケジュールツールを使用します。このツールには、スケジュールのパラメータを定義するために必要なスケジュールオプションがすべて含まれています。

Report Broker の概要

権限を所有するユーザは、BI Portal、ダッシュボードのリポジトリツリー、および Developer Workbench から、Report Broker ツールにアクセスすることができます。Client セキュリティ認可モデルにより、Report Broker スケジュールツールへのアクセス許可が制御されます。指定したユーザによる Report Broker ツールへのアクセスを可能にするには、ユーザが Web Query グループ、folder-sched に所属している必要があります。

注意： 指定したユーザとは、ベース Db2 Web Query 製品のライセンスマネージャに入力されているユーザ ID を指します。

- ❑ **スケジュールツール** ベーシックスケジュールツールは、レポートプロシジャ (FEX) の実行日時、出力フォーマット、出力の配信方法など、スケジュールのパラメータを定義します。ベーシックスケジュールツールについての詳細は、109 ページの「[スケジュールの作成](#)」を参照してください。
- ❑ **配信リスト** リポジトリに格納されるリストで、スケジュールのレポート出力が配信される際に、複数の受信者を指定することができます。詳細は、97 ページの「[配信リストの作成と保守](#)」を参照してください。
- ❑ **ログレポート** ジョブが正常に実行されたかどうか、レポート出力がいつ配信されたか、レポートがどのフォーマットで送信されたか、どの配信方法で配信されたかなどの配信ジョブについての情報を表示することができます。ログレポートについての詳細は、193 ページの「[スケジュールのトラッキング](#)」を参照してください。
- ❑ **Report Broker エクスプローラ** エクスプローラのインターフェースを使用して、Report Broker の特定のタイプの項目を、すべて一度に表示して確認することができます。特定の項目タイプ (スケジュール、配信リスト) を選択すると、その項目タイプに特化した情報が表示されます。
- ❑ **Report Broker ステータス** このコンソールからは、Report Broker 管理ツール (サーバステータス、ジョブステータス、構成、グローバル更新) および Report Broker スケジュール管理ツール (ジョブログ、スケジュール禁止日) にアクセスします。

Report Broker ユーザの認可

指定したユーザによる Report Broker ツールへのアクセスを可能にするには、ユーザが Web Query グループ、folder-sched に所属する必要があります。

注意： 指定したユーザとは、ベース Db2 Web Query 製品のライセンスマネージャに入力されているユーザ ID を指します。

Distribution Server 機能

権限を所有するユーザは、次の Distribution Server のアクティビティおよび機能についての説明を参照してください。

- ❑ 11 ページの「[Distribution Server のスタートアップ](#)」
- ❑ 11 ページの「[リカバリ](#)」

- ❑ 12 ページの「[スキャンバック](#)」
- ❑ 13 ページの「[Report Broker 構成ツール](#)」
- ❑ 14 ページの「[Report Broker Distribution Server 構成設定の確認](#)」

Distribution Server のスタートアップ

Distribution Server は、開始時に IBFS システムを呼び出して、Db2 Web Query リポジトリとの通信方法に関する情報を取得します。リポジトリと通信できない場合、Distribution Server は開始されません。Distribution Server が開始されない場合は、Distribution Server スタートアップトレースファイルおよびログファイルに記録されたエラーメッセージを確認してください。

初期化に成功すると、Distribution Server は、[リカバリ] パラメータおよび [スキャンバック] パラメータに基づいて回復処理が必要なジョブを確認し、各スケジュールの NEXTRUNTIME に基づいて実行が必要なジョブを確認します。

リカバリ

リカバリパラメータの目的は、Distribution Server キューに送信されたが、スケジュールの実行処理が完了しなかったジョブの回復処理を行うことです。この状況は、Distribution Server または Reporting Server が停止されていた場合などに発生します。リカバリ機能を有効にするには、[Report Broker Distribution Server の構成] インターフェースで [リカバリ] パラメータを [オン] に設定します。

スケジュールを作成し、[リカバリ] パラメータを [オン] に設定すると、スケジュールの [RECOVERY] の値は、[N] に設定されます。スケジュールが実行キューに送信されると、[RECOVERY] の値は [Y] に設定されます。つまり、ジョブがキュー内に存在する状態で Distribution Server が利用不可になった場合、Report Broker は、[リカバリ] パラメータが [オフ] に設定されている場合でも、Distribution Server が利用可能になった時点でジョブの回復処理を実行します。ジョブが実行され、すべてのレコードが書き込まれた後、[RECOVERY] の設定は [N] に戻されます。

[リカバリ] パラメータが [オン] に設定されているために実行するジョブはすべて、一度だけ実行されます。ジョブの実行キューへの送信後、その [次回実行時間] の値は、現在の時間の後に実行される時間に変更されます。たとえば、ジョブが毎時間実行されるようスケジュールされており、Distribution Server が 4 時間利用不可となる場合、Distribution Server が利用可能になると、ジョブは一度だけ実行され、その後毎時間実行されます。

注意

- ❑ スキャンバックオプションは、リカバリの設定とは無関係に動作します。スキャンバックオプションについての詳細は、12 ページの「[スキャンバック](#)」を参照してください。
- ❑ スケジュール済みジョブのみがリカバリできます。オンデマンドで送信されたジョブはリカバリできません。

参照

ジョブのリカバリ

スケジュール済みジョブのリカバリは、次の方法で実行されます。

1. Distribution Server は、起動時に Report Broker の構成で [リカバリ] パラメータが [オン] に設定されていることを確認します。
2. [リカバリ] パラメータが [オン] に設定されている場合は、レコードのスケジュール情報や [次回実行時間] の値に関係なく、Distribution Server は [RECOVERY] の値が [Y] に設定されているレコードをすべて読み取り、それらのレコードを実行キューに送信します。
3. Distribution Server はポーリング処理を開始し、[RECOVERY] の値が [Y] に設定されているジョブをすべてキューに送信した後、実行するジョブを検索します。
4. スケジュール済みジョブが Distribution Server キューに送信された後、その [次回実行時間] の値は、現在の時間の後の次回実行時間に変更されます。

注意

- ❑ [リカバリ] パラメータが [オフ] に設定されている場合、Distribution Server は、[RECOVERY] の値が [Y] に設定されているジョブすべてのこの値を [N] に変更します。これにより、すべてのジョブのリカバリは行われなくなります。
- ❑ [リカバリ] パラメータの設定が [オン] に戻されると、その時間より後の [次回実行時間] の値を持つジョブのみが有効になります。

スキャンバック

Distribution Server が、ある期間利用不可になることが考えられます。この間、スケジュール済みジョブは実行されません。デフォルト設定では、Distribution Server が再び利用可能になった際に、次回実行時間の値が現在の時間よりも前の時間に設定されているすべてのジョブの検索と実行が行われ、さらに、ジョブの次回実行時間に応じて、スケジュールが再設定されます。Distribution Server が長時間利用不可になる場合は、この動作を変更することをお勧めします。スキャンバックパラメータを使用して、特定の停止時間内に見つかったジョブのみを実行することや、実行されなかったジョブすべてを実行せずに、その次回実行時間を再設定することができます。

スキャンバックパラメータには、次の 2 つがあります。

- ❑ スキャンバックタイプ (オン、オフ、次回実行時間)
- ❑ スキャンバック間隔 (日数)

[スキャンバック間隔] は、[スキャンバックタイプ] が [オン] の場合にのみ有効になります。

[スキャンバックタイプ] パラメータは、次のように設定することができます。

- ❑ **オン ([スキャンバック間隔] として 0 より大きい整数値を指定した場合)** Distribution Server が再開した時間から数えた 24 時間間隔の時間を表します。Distribution Server は、この時間を使用してスキャンバックを実行し、次回実行時間が現在の時間よりも前のジョブを検索して実行します。

たとえば、Distribution Server が 3 日間利用不可で、スキャンバックが 2 に設定されている場合、Distribution Server は、サーバが再開する 48 時間前までに見つかったジョブのみを実行します。

有効な値は、1 から 365 までの任意の整数です。デフォルト値は、15 日間です。

- ❑ **次回実行時間** 次回実行時間の値が現在の時間よりも前の時間に設定されているすべてのジョブを検索し、次回実行時間を次回スケジュールされているジョブの実行時間に再設定します。
- ❑ **オフ** スキャンバックを無効にします。Distribution Server は、デフォルトの動作を実行します。つまり、現在の時間よりも前の時間に設定されているすべてのジョブを検索して実行し、スケジュールの再設定を行います。

注意

- ❑ スキャンバックオプションはリカバリの設定とは無関係に動作します。リカバリオプションについての詳細は、11 ページの「[リカバリ](#)」を参照してください。
- ❑ スキャンバックパラメータを設定する場合、夏時間を考慮します。詳細は、<http://webexhibits.org/daylightsaving/b.html> を参照してください。

Report Broker 構成ツール

Report Broker 構成ツールは管理ツールの 1 つで、権限を所有するユーザはこのツールを使用して、Report Broker の構成を定義するさまざまな設定を確認して変更することができます。たとえば、Distribution Server のポーリング間隔を変更することや、Reporting Server ごとの接続数を制御する最大スレッド数を定義することができます。これらの構成設定には、Report Broker ステータスの [構成] タブからアクセスします。

Report Broker Distribution Server 構成設定の確認

Web Query 管理者は、管理コンソールを使用して、Distribution Server の構成設定を管理することができます。

注意： Report Broker を使用する前に、これらの設定を確認することが重要です。

2

Report Broker ステータスの使用

コンソールからは、次のツールにアクセスすることができます。

- ☐ サーバステータス
- ☐ サーバパフォーマンス
- ☐ ジョブステータス
- ☐ ジョブログ
- ☐ 構成
- ☐ スケジュール禁止期間
- ☐ グローバル更新
- ☐ リフレッシュ

Report Broker のライセンスが供与されている構成では、権限を所有するユーザは [ツール] メニューから [Report Broker ステータス] を選択して、ステータスにアクセスすることができます。

コンソールが、新しいブラウザウィンドウに表示されます。リボンには、ユーザにアクセスが許可されたツールのボタンが表示されます。

トピックス

- ☐ [サーバステータス](#)
 - ☐ [サーバパフォーマンス](#)
 - ☐ [ジョブステータス](#)
 - ☐ [ジョブログ](#)
 - ☐ [Report Broker の構成](#)
 - ☐ [スケジュール禁止期間の使用](#)
 - ☐ [グローバル更新](#)
-

サーバステータス

管理者は、サーバステータスツールを使用して、選択した Distribution Server を再起動、中断、停止することができます。また、このツールを使用して、複数のサーバの切り替え、トレースの表示、データのリフレッシュを行うこともできます。

Distribution Server ステータスの表示

サーバステータスツールにアクセスするには、コンソールの [サーバステータス] タブを選択します。このツールでは、Distribution Server のステータスを確認することができます。サーバステータスツールには、ホスト名、ポート番号、ステータス、実行中および実行待ちのジョブ数など、Distribution Server の詳細が表示されます。Distribution Server 情報には、次のものがあります。

❑ **Distribution Server** コンソールで、サーバの識別に使用する名前です。

注意：Distribution Server がメールサーバとの SMTP 接続を試行する場合、メールサーバとの接続は、5 分後にタイムアウトします。

❑ **ホスト、ポート** Distribution Server のインストール先のホスト名とポート番号です。

- **モード** Distribution Server の状態および機能です。次のオプションがあります。

マネージャ マネージャとして動作する Distribution Server は、オンデマンドジョブのリクエストをモニタするとともに、スケジュールジョブのリポジトリをポーリングします。マネージャは、スケジュールジョブおよびオンデマンドジョブを、ワーカとして動作する Distribution Server に送信します。マネージャがジョブを実行することはありません。マネージャは、ワーカ上で実行中のジョブをモニタし、Client および Report Broker API との間でジョブのステータス情報を通信します。

ワーカ ワーカとして動作する Distribution Server は、マネージャからジョブを受信して実行します。ワーカは、Client と通信してリポジトリに格納されているプロシジャを取得し、Reporting Server と通信してスケジュールジョブプロシジャを実行します。また、ワーカは、HTTP リクエストを送信したり、ファイルシステムや FTP サーバと通信して配信用のファイルを取得したりします。ワーカは、Reporting Server から返された結果 (HTTP リクエストまたはファイルリクエスト) を、スケジュールで指定された方法 (Email、FTP、リポジトリ) で配信します。また、ワーカは、ジョブ情報が記録された Report Broker ログを更新したり、スケジュールの次回実行時間を更新したりします。

- **フルファンクション** Distribution Server が実行中で、機能していることを示します。
- **停止中** Distribution Server が停止していることを示します。
- **実行中** 現在実行中のスケジュール済みジョブおよびオンデマンドジョブの数です。
- **待機中** ジョブキュー内のスケジュール済みジョブおよびオンデマンドジョブの数です。
- **サービス** Distribution Server で現在実行中のサービスです。次のオプションがあります。
 - **キャッシュクリーナ** Distribution Server は、このサービスを使用して、IBFS キャッシュのリフレッシュを実行します。キャッシュのリフレッシュを実行する頻度は、管理コンソールの IBI_Repository_Sync_Interval 設定で制御します。
 - **コンソール** Distribution Server は、このサービスを使用して、Report Broker アプリケーションまたは API からの情報を受信します。
 - **ディスパッチャ** Distribution Server は、このサービスを使用して、スケジュール済みジョブを実行します。

注意: サーバ構成によっては、[サーバステータス] ウィンドウに 1 つまたは複数の追加ディスパッチャが表示される場合があります。
- **リーダー** Distribution Server は、このサービスを使用して、リポジトリのポーリングを実行します。

- ❑ **ステータス** Distribution Server で現在実行中のサービスのステータスです。次のオプションがあります。
- ❑ **準備完了** サービスが利用可能であることを示します。
- ❑ **スタンバイ中** サービスがスタンバイ中であることを示します。
- ❑ **中断** サービスが中断していることを示します。
- ❑ **リスナモード** コンソールサービスがリスナモードになっていることを示します。
- ❑ **ポーリング** リーダサービスが有効になっていることを示します。
- ❑ **モニタ中** リポジトリモニタが有効になっていることを示します。
- ❑ **待機中** 実行キューに送信されたジョブが Reporting Server 接続を待機している際に表示されます。この待機状態は、複数タスクのスケジュールが開始され、1 つ目のタスクで Reporting Server に接続できるが、2 つ目のタスクで Reporting Server 接続が可能になっていない場合に発生します。

[サーバステータス] インターフェースでは、次のタスクを実行することができます。

- ❑ **リフレッシュ** 最新情報を取得し、それに基づいて Distribution Server ステータスを更新します。
- ❑ **再起動** Distribution Server と Application Server を再起動します。
- ❑ **中断** フェールオーバー Distribution Server が構成されているかどうかに関係なく、このオプションは常に利用可能になっています。Distribution Server サービスは中断されますが、サーバが停止することはありません。サーバを中断すると、[中断] ボタンは [再開] に変わります。
- ❑ **停止** Distribution Server を完全に停止します。

注意：このオプションを使用して Distribution Server を停止した場合、Distribution Server がインストールされているマシンで Distribution Server を再起動する必要があります。Distribution Server をリモートで再起動することはできません。

- ❑ **サーバログ** scheduler.log、main.trc、reader.trc、console.trc、dispatcher.trc ファイルのトレース情報を表示することができます。また、Distribution Server トレースのオンとオフを切り替えることもできます。詳細は、19 ページの「[Distribution Server トレースのオンとオフを切り替えるには](#)」を参照してください。

注意：この機能を使用すると、Distribution Server トレースが、ジョブトレースとは別にトラッキングされます。Distribution Server トレースを確認するためにジョブトレースをオンにする必要はありません。

- ヘルプ サーバステータスのオンラインヘルプを開きます。

手順

Distribution Server トレースのオンとオフを切り替えるには

1. Report Broker ステータスで、[サーバステータス] をクリックします。
2. Distribution Server のリストからサーバを選択します。
3. リボンの [サーバログ] ボタンの下向き矢印をクリックします。
4. [サーバトレースオン] を選択して、Distribution Server トレースを有効にします。

Distribution Server トレースを無効にするには、上記の手順 1 から 3 を実行し、[サーバトレースオフ] を選択します。

データサーバ別のジョブキュー

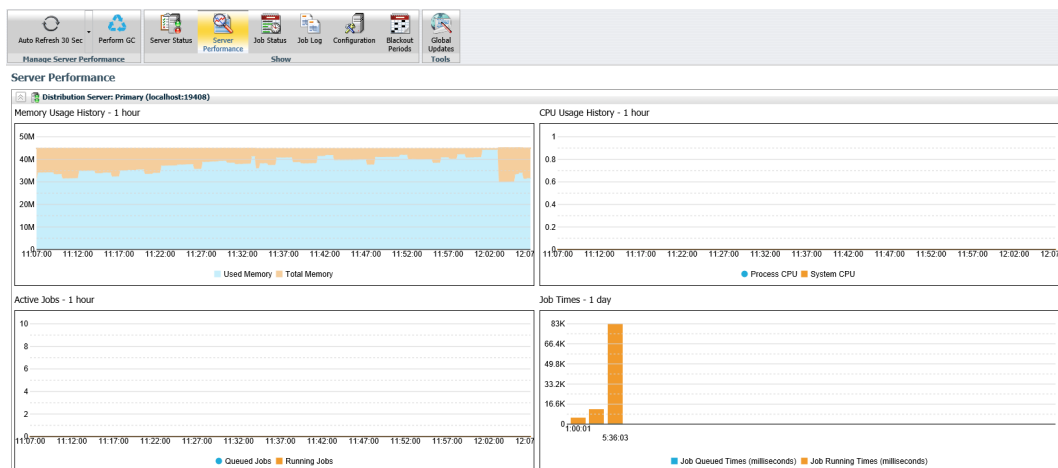
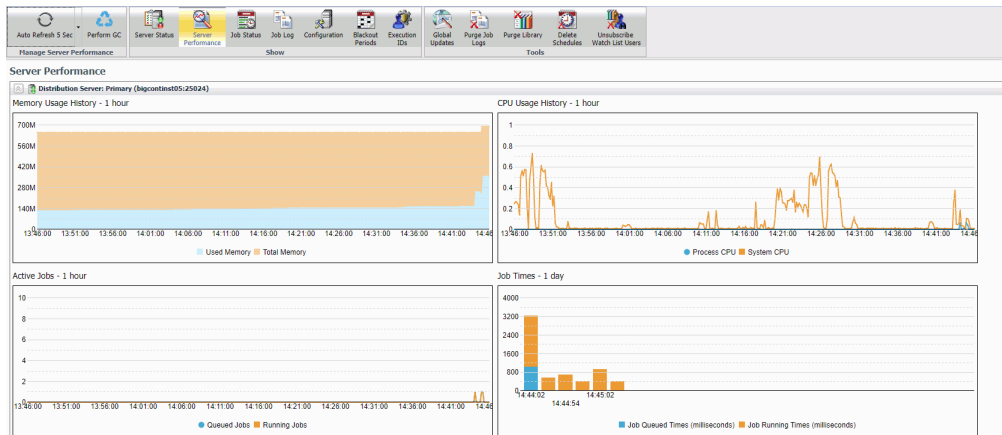
Distribution Server では、Reporting Server ごとに個別のジョブキューが使用され、Reporting Server を必要としないタスクにも別のキューが使用されます。そのため、Reporting Server ごとに少なくとも 1 つのジョブスレッドが常に存在するほか、サーバに関連しないジョブにも少なくとも 1 つのスレッドが存在します。利用可能なすべてのジョブスレッドを、特定の Reporting Server に関連するジョブに限定して使用することはできません。

各 Reporting Server に割り当てられたジョブスレッド数は、それぞれの Reporting Server で利用可能な接続の合計数に等しくなります。[最大スレッド] 設定には、各 Reporting Server のスレッド合計数に、残りのタスクに割り当てられたスレッド数を加えた数になります。

サーバパフォーマンス

[サーバパフォーマンス] タブには、選択した Distribution Server の 1 時間メモリ使用履歴、1 時間アクティブジョブ、1 時間 CPU 使用履歴のそれぞれがグラフとして表示されます。また、アクティブジョブの 1 日履歴も表示されます。

下図は、[サーバパフォーマンス] タブの例を示しています。



ジョブステータス

スケジュールのトラッキングを行うには、ジョブのステータスを確認する方法もあります。スケジュールステータスは、Distribution Server で実行待ち中の、スケジュール済みジョブリストを提供します。ステータス情報には、スケジュール ID、スケジュールの開始時間、ジョブのステータスなどがあります。

スケジュール情報には、次のものがあります。

- ☐ **ジョブ ID** ジョブに割り当てられた ID です。
- ☐ **説明** スケジュールを作成する際に入力された説明です。

- ❑ **優先度** スケジュールの優先度です。1 は優先度が最も高く、5 は優先度が最も低いことを示します。
- ❑ **開始時間** スケジュールの実行が開始された時間です。
- ❑ **オーナー** スケジュールのオーナーのユーザ名です。
- ❑ **ステータス** スケジュール済みジョブの名前です。次のいずれかの値が格納されます。
 - ❑ **実行中** スケジュール済みジョブは、現在実行中です。
 - ❑ **待機中** スケジュール済みジョブは、リクエストを実行するためのスレッドを待機中です。
- ❑ **サーバ名** ジョブの送信先 Reporting Server です。
- ❑ **ディスパッチャ名** ジョブを送信した Distribution Server のディスパッチャです。
- ❑ **フルパス** Db2 Web Query リポジトリ内のスケジュールのフルパスです。

ジョブログ

[ジョブログ] タブでは、ユーザ自身が実行したジョブのログを表示したり、権限を所有している場合は他のユーザが実行したジョブのログを表示したりできます。[ジョブログ] タブでは、ログおよびトレース情報を表示する以外に、トレースファイルのダウンロード、ジョブログを開く、ジョブログの削除、ジョブログのリフレッシュ、ジョブログに関連するヘルプの表示も行えます。また、日単位やオンデマンドで実行されたログ削除ジョブおよびスケジュール削除ジョブに関するログおよびトレース情報を表示することもできます。ログ削除ジョブおよびスケジュール削除ジョブに関するログには、[system] フォルダからアクセスすることができます。その他のジョブのログには、各ジョブが属するユーザのフォルダからアクセスすることができます。

注意：[ジョブログ] タブでは複数選択機能がサポートされるため、複数のファイルを同時に開いたり、削除したりできます。

ジョブログ情報には、次のものがあります。

- ❑ **ジョブ ID** ジョブに割り当てられた ID です。
- ❑ **開始時間** スケジュールが実行された時間です。
- ❑ **継続期間 (秒)** ジョブを完了するまでの所要時間です。

- **ジョブステータス** ジョブの処理が完了した際のステータスです。
- **成功** スケジュール済みジョブの処理中に、エラーは発生しませんでした。
- **エラー** スケジュール済みジョブの処理中に、1 件以上のエラーが発生しました。レポートの生成や配信は行われませんでした。
- **警告** スケジュール済みジョブの処理中に、1 件以上の警告が発生しました。レポートは生成され、配信されました。

Report Broker ジョブのトレースファイルのダウンロードについての詳細は、202 ページの「[Report Broker ジョブトレースファイルをダウンロードするには](#)」を参照してください。

Report Broker の構成

管理者は、構成ツールを使用して、Distribution Server、Servlet (Db2 Web Query Web アプリケーションに展開) インターフェースおよびツールの表示と管理を行えます。管理者が変更可能なオプションには、[Distribution Server]、[設定 - 全般]、[Email 配信]、[通知] などがあります。

注意：構成設定を変更した場合は、このイベントが管理コンソールの監査ログファイルに記録されます。構成イベントは、デフォルト設定で記録されます。

構成タブのアイコン

管理者は、Report Broker ステータスリボンの [構成] タブに表示される一連のアイコンを使用して、次のタスクを実行することができます。

注意：Report Broker ステータスリボンの [構成] をクリックすると、リボンの左端に [構成の管理] グループが表示されます。[サーバステータス]、[サーバパフォーマンス]、[ジョブステータス]、[ジョブログ]、[スケジュール禁止期間] オプションのいずれかをクリックすると、選択したオプションに応じて、このグループの名前および機能が変わります。これらのオプションはすべて、リボンの [表示] グループに表示されます。

□ 構成の管理グループ

- **保存** 構成設定に加えた変更を保存します。この場合、保存を確認するメッセージが表示されます。構成設定に加えた変更を有効にするには、変更を保存する必要があります。詳細は、25 ページの「[構成設定の変更](#)」を参照してください。
- **新規作成** 新しい Reporting Server 接続を作成します。このオプションは、[データサーバ] フォルダで作業中にのみ有効になります。
- **削除** Report Broker の構成から Reporting Server を削除します。この場合、削除を確認するメッセージが表示されます。このオプションは、[データサーバ] フォルダで作業中にのみ有効になります。

- ❑ **テスト** 選択したサーバまたはリポジトリとの接続をテストします。このオプションは、[データサーバ] フォルダまたは [LDAP の設定] フォルダで作業している場合にのみアクティブになります。指定したサーバに接続する際、ユーザ ID とパスワードの入力が要求される場合があります。その後、テストの結果を示すメッセージが表示されます。
- ❑ **再起動** Distribution Server および Report Broker を再起動し、Distribution Server の構成に加えた変更を有効にします。[アクション] メニューの [再起動] を選択することもできます。詳細は、25 ページの「[構成設定の変更](#)」を参照してください。
- ❑ **構成ファイル** Report Broker 構成ファイルを表示およびダウンロードするオプションが選択できます。矢印をクリックして、次のファイルにアクセスします。
 - ❑ **dserver.xml** 現在の Report Broker 構成設定のレコードが格納されています。
 - ❑ **sendmodes.xml** MIME 出力ファイルフォーマットに関する情報が格納されています。
 - ❑ **rc_preference.xml** ユーザインターフェースの各種オプションの表示に関する情報が格納されています。

上記のファイルオプションのいずれかを選択すると、ブラウザウィンドウにファイル情報が表示されます。[構成ファイルのダウンロード] を選択して、すべてのファイルを単一の ZIP ファイルとしてダウンロードすることもできます。

❑ ツールグループ

- ❑ **グローバル更新** 権限を所有するユーザは、スケジュールおよび配信リストに格納される値をグローバルに更新することができます。[グローバル更新] インターフェースで更新可能な設定には、次のものがあります。
 - ❑ メールサーバ
 - ❑ FTP サーバ
 - ❑ プリンタ
 - ❑ Email アドレス
 - ❑ Email 送信者
 - ❑ データサーバ
 - ❑ 通知タイプ
 - ❑ 通知返信 Email アドレス

- ☐ 通知件名
- ☐ 通知簡易メッセージの宛先
- ☐ 通知詳細メッセージの宛先
- ☐ 第 1 実行前プロシジャ
- ☐ 第 2 実行前プロシジャ
- ☐ 第 1 実行後プロシジャ
- ☐ 第 2 実行後プロシジャ
- ☐ **スケジュールの削除** すべての非アクティブスケジュールまたは再実行なしのスケジュールを、オンデマンドで削除することができます。さらに、トレースオプションとして [デフォルトトレース]、[トレースなし]、[トレースオン] のいずれかを指定することもできます。
- ☐ **アクショングループ**
 - ☐ **リフレッシュ** 最後に保存した構成設定を反映する設定です。

構成タブのフォルダ

[構成] タブでは、次のフォルダからさまざまな構成設定にアクセスすることができます。

- ☐ **Distribution Server** Distribution Server を定義、構成します。また、このフォルダには、バックアップとして機能するフェールオーバー Distribution Server の定義や、ワークロードを共有する複数の Distribution Server を構成するための設定も用意されています。このフォルダ下には [その他の設定] フォルダもあります。これらの設定についての詳細は、26 ページの「[Distribution Server の設定](#)」を参照してください。
- ☐ **設定 - 全般** ユーザがスケジュールを作成する際に使用可能にする、配信フォーマット、配信方法を指定します。このフォルダでは、スケジュール禁止期間を設定することもできます。これらの設定についての詳細は、35 ページの「[設定 - 全般](#)」を参照してください。
- ☐ **Email 配信** デフォルトメールホスト、メールホストへの配信試行回数、セキュリティ情報など、Email 設定を構成します。これらの設定についての詳細は、39 ページの「[Email 配信](#)」を参照してください。
- ☐ **通知** 通知メールホスト、デフォルト通知タイプなど、通知設定を構成します。これらの設定についての詳細は、52 ページの「[通知](#)」を参照してください。

- ❑ **FTP の設定** デフォルトの FTP ホスト、ユーザ ID、セキュリティプラグインを指定します。また、サーバにセキュア SFTP 接続が必要かどうかを指定したり、認証方法を指定したりできます。これらの設定についての詳細は、59 ページの「[FTP 設定を構成するには](#)」を参照してください。
- ❑ **圧縮 (ZIP) の設定** 圧縮 (ZIP) ファイルの作成および命名方法を構成するための設定があります。これらの設定についての詳細は、60 ページの「[圧縮 \(ZIP\) の設定](#)」を参照してください。
- ❑ **デフォルトスケジュール** Report Broker スケジュールのデフォルト終了日時を定義します。これらの設定についての詳細は、65 ページの「[デフォルトスケジュール](#)」を参照してください。
- ❑ **ログ削除** ログファイルを自動的に削除する時間と期限を指定します。詳細は、65 ページの「[ログ削除](#)」を参照してください。
- ❑ **データサーバ** 複数の Reporting Server (クラスタサーバを含む) を構成します。これらの設定についての詳細は、66 ページの「[データサーバの設定](#)」を参照してください。

構成設定の変更

Report Broker Distribution Server の構成設定への変更を有効にするには、変更を保存してから、Distribution Server および Report Broker Web アプリケーションを再起動する必要があります。構成に加えた変更を保存するには、次の手順を実行します。

1. [構成] フォルダ下でいずれかの構成設定を変更した後、[構成] タブの [構成の管理] グループで [保存] アイコンをクリックします。
保存を確認するウィンドウが開きます。
2. [OK] をクリックします。
確認メッセージのウィンドウが表示されます。保存した変更を有効にするには、Distribution Server および Report Broker Web アプリケーションを再起動する必要があります。
3. [OK] をクリックします。
4. [構成の管理] グループの [再起動] アイコンをクリックします。
実行中のジョブをすべて停止して再起動することを確認するウィンドウが開きます。
5. [はい] をクリックします。

6. 現在ログイン中のすべてのユーザに対して、現在のセッションを再起動して新しい構成情報を有効にするよう通知します。ユーザセッションには Report Broker 構成に関連する情報がキャッシュされるため、ユーザインターフェースを再起動して、更新された構成情報を取得する必要があります。

Distribution Server の設定

[Distribution Server] フォルダには、Distribution Server を定義、構成する設定があります。リボンの [サーバステータス] オプションを使用して、Distribution Server の再起動、配信の中断と停止、サーバの切り替え、データのリフレッシュを実行することができます。

[Distribution Server] フォルダには、次の構成設定が格納されています。

設定	オプションまたは必須/ デフォルト値	説明と有効値
第 1 Distribution Server セクション		
ホスト	必須	第 1 Distribution Server のホスト名です。
ポート	必須	第 1 Distribution Server のポート番号です。
制限する IP アドレス	オプション	Distribution Server へのアクセスを 1 つまたは複数の IP アドレスに制限します。詳細は、33 ページの「 Distribution Server へのアクセスを特定の IP アドレスリストに制限 」を参照してください。

最大スレッド

Report Broker Distribution Server がスケジュール済みジョブの処理に使用できる同時接続 (スレッド) の数を制御します。デフォルト値は 3 です。この設定は、管理コンソールで構成することもできます。

サーバ名	必須 (1 つまたは複数のサーバが構成されている場合)	サーバの名前を表示します。
------	-----------------------------	---------------

設定	オプションまたは必須/ デフォルト値	説明と有効値
スレッド数 (接続数)	必須。デフォルト値は 3 です。	各サーバの同時接続数 (スレッド数) を表示します。
その他のタスク		サーバベース以外のタスクです。
[読み込み間隔]、[リカバリ]、[配信レポートが存在しない場合の処理]、[スケジュール禁止 期間ジョブ停止処理]、[タスクあたりの最大データサーバメッセージ数] オプション		
読み込み間隔	必須 デフォルト値は 1 分 です。	<p>スケジュール済みジョブを確認する Report Broker Distribution Server のポー ーリング間隔 (分) です。</p> <p>受容可能な値は、1 から 999999 の正 の整数です。負の数および 0 (ゼロ) は許可されません。</p> <p>注意： この設定は、管理コンソールで 行うこともできます。</p>
リカバリ	デフォルト値は [オフ] です。	<p>オン Report Broker Distribution Server は、スタートアップ中に、スケ ジュール済みのジョブのうち、処理さ れ完了していないものの回復処理を行 います。</p> <p>オフ (デフォルト値) Report Broker Distribution Server は、スタートアップ 中にスケジュール済みジョブの回復処 理を行いません。</p> <p>注意： この設定は、管理コンソールで 行うこともできます。</p>

設定	オプションまたは必須/ デフォルト値	説明と有効値
配信レポートが存在しない場合の処理	必須 デフォルト値は、[エラー] です。	<p>配信するレポートが存在しない場合に Reporting Server から送信される通知をエラーまたは警告のどちらかに指定します。この指定は、グローバルに設定されるため、すべてのスケジュールに影響します。利用可能な値は、次のとおりです。</p> <p>❑ エラー 配信レポートが存在しない場合の通知をエラーとして区分し、Report Broker ログレポートに赤色のメッセージを書き込みます。スケジュールの通知オプションが [エラー] に設定されている場合、通知が送信されます。</p> <p>❑ 警告 配信レポートが存在しない場合の通知を警告として区分し、ログレポートにオレンジ色の情報メッセージを書き込みます。スケジュールの通知オプションが [警告] に設定されている場合、エラー通知は送信されません。</p> <p>これらの設定は、バーストレポートで特定のバースト値に配信レポートが存在しない場合のメッセージにも適用されます。</p> <p>複数のタスクで構成されたスケジュールでは、配信レポートが存在しない場合の通知がすべてのタスクで生成される場合に限り、この設定が適用されます。このスケジュールのいずれかのタスクでレポートが生成された場合は、この設定はログメッセージまたは通知に影響しません。</p>

設定	オプションまたは必須/ デフォルト値	説明と有効値
タスクあたりの最大 データサーバメッセ ージ数	必須 デフォルト値は 1000 で す。	データサーバから送信され、Report Broker ログファイルに記述されるタ スクのメッセージの数を制御します。

設定	オプションまたは必須/デ フォルト値	説明と有効値
----	-----------------------	--------

スキャンバックセクション

スキャンバックタ イプ	必須 デフォルト値は [オン] で す。	利用可能な値には、次のものがありま す。 <input type="checkbox"/> オン <input type="checkbox"/> オフ <input type="checkbox"/> 次回実行時間
スキャンバック間 隔	デフォルト値は 15 (24 時 間単位) です。	Distribution Server が一定期間使用不 可の場合に、実行されていないジョブ を Distribution Server がスキャンして 実行する 24 時間間隔の値です。この 時間間隔は、Distribution Server の再起 動時点をゼロとして計算されます。 注意： この設定は、管理コンソールで 行うこともできます。

設定	オプションまたは必 須/デフォルト値	説明と有効値
----	-----------------------	--------

その他の設定フォルダ

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
このサーバには SSL 接続が必要	オプション	このチェックをオンにすると、Report Broker アプリケーションと Report Broker Distribution Server 間の通信が暗号化されます。セキュア通信を有効にし、変更を保存した後、Report Broker アプリケーションと Report Broker Distribution Server を手動で再起動する必要があります。
SSL 証明書	必須 ([このサーバには SSL 接続が必要] のチェックをオンにした場合)	<p>デフォルトの SSL 証明書は、インストールプロセス中に提供されます。必要に応じてデフォルトの証明書をユーザー独自の証明書に置き換えて、セキュア接続を有効にすることもできます。</p> <p>これを実行するには、CA からのサーバの署名証明書または自己署名証明書を Distribution Server のキーストアにインポート後、キーストアから SSL 証明書をエクスポートする必要があります。</p> <p>SSL 証明書をエクスポート後、この証明書を [SSL 証明書] 設定に貼り付け、構成の変更を保存し、Report Broker アプリケーションおよび Distribution Server を手動で再起動する必要があります。</p>

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
スケジュールジョブ トレース	オプション。デフォルト値は [オフ] です。	<p>Distribution Server トレースを有効にします。</p> <p><input type="checkbox"/> オフ トレースは無効です。</p> <p><input type="checkbox"/> スケジュール スケジュールジョブの処理情報です。</p> <p><input type="checkbox"/> スケジュールとレポート 配信 Distribution Server にスケジュールジョブ処理情報およびレポート出力が返されます。</p>
ジョブステータス通知 プラグイン	オプション	<p>Report Broker ジョブステータス通知インターフェースを実装して、スケジュール済みジョブの開始または終了時に、Distribution Server にアクションの実行を指示する (例、Web サービスまたはその他のリスナに通知) カスタム Java クラス名です。詳細は、32 ページの「ジョブステータス通知プラグインを構成するには」を参照してください。</p>
Resource Analyzer の 指標情報を含める	オプション	<p>この機能を使用すると、Reporting Server から Resource Analyzer DBMS 統計が収集され、スケジュールログに表示されます。</p> <p>注意： Reporting Server で Resource Analyzer が構成されていない場合、この機能は動作しません。</p> <p>このチェックをオンにすると、ログに、Resource Analyzer DBMS 情報が含まれたメッセージが表示されます。このチェックをオフにすると、メッセージは表示されません。</p>

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
リポジトリ接続を保持する	必須 このオプションは、デフォルト設定で選択されています。	<p>選択済み データベースの接続が、スケジュールの実行 (アドレス帳情報の取得やログファイルへの情報の書き込みを含む) を通して有効なままになります。</p> <p>未選択 データベースの接続が、スケジュールの実行前に切断されます。スケジュールの実行後、新しい接続が確立され、[アドレス帳] 情報の取得や、ログファイルへの情報の書き込みが可能になります。</p>

手順

ジョブステータス通知プラグインを構成するには

1. [ツール] メニューから [Report Broker ステータス] を選択します。
2. [構成] ボタンをクリックします。
3. 左側ウィンドウで、[Distribution Server] フォルダを展開し、[その他の設定] フォルダをクリックします。
4. 前述の表を参照し、Distribution Server の各テキストボックスに値を入力します。
5. [ジョブステータス通知プラグイン] テキストボックスに、ジョブリスナインターフェースを実装するプログラムの名前を入力します。
6. [保存] をクリックします。

指定したプログラムがスケジュールの開始時と終了時に呼び出され、このプログラムで設定されたカスタムアクションが実行されます。詳細は、Java マニュアルの `ibi.broker.scheduler.plugin` パッケージを参照してください。

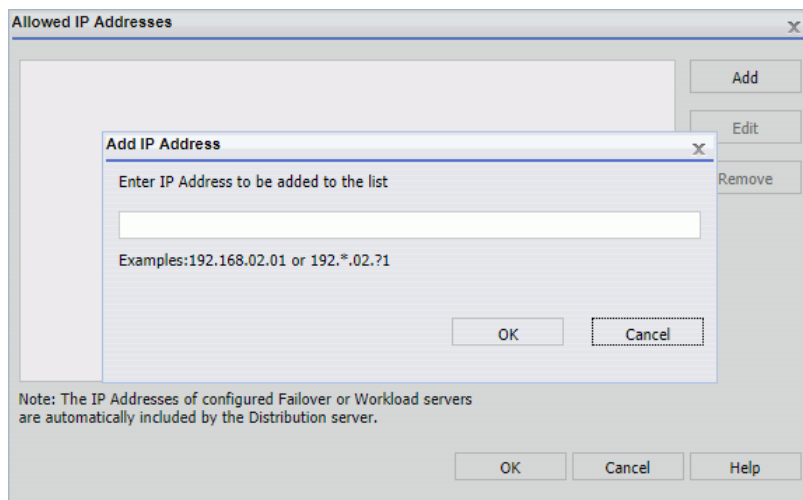
Distribution Server へのアクセスを特定の IP アドレスリストに制限

Distribution Server へのアクセス許可を、事前に選択した IP アドレスに制限することで、サーバに対するサービス拒否 (DoS) 攻撃を回避することができます。DoS 攻撃は、悪意のあるサイバー攻撃の 1 つで、複数の IP アドレスから送信するリクエストでサーバに過剰な負荷をかけ、サーバにアクセスする正規の IP アドレスを妨害する手法です。Report Broker ステータスの [制限する IP アドレス] オプションを使用して、ネットワークのセキュリティを強化することができます。[制限する IP アドレス] テキストボックスに 1 つまたは複数の IP アドレスを入力すると、Distribution Server は指定されたアドレスからの TCP/IP リクエストのみを受容します。この設定のデフォルト値はブランクです。

手順

IP アドレス制限を構成するには

1. Report Broker ステータスを起動します。
2. リボンの [表示] グループで、[構成] をクリックします。
3. [構成] ウィンドウで、[Distribution Server] をクリックします。
[第 1 Distribution Server] オプションが表示されます。
4. [制限する IP アドレス] のフォルダを開くボタンをクリックします。
[許可する IP アドレス] ダイアログボックスが開きます。
5. [追加] をクリックします。
下図のように、[IP アドレスの追加] ダイアログボックスが開きます。



6. IP アドレスを入力し、[OK] をクリックします。入力した IP アドレスが、[許可する IP アドレス] リストに追加されます。
7. IP アドレスをさらに追加する場合は、手順 5 から 6 を繰り返します。
8. [OK] をクリックして [許可する IP アドレス] リストを保存し、Report Broker ステータスに戻ります。
9. リボンの [構成の管理] グループで [保存] をクリックし、許可する IP アドレスの変更を保存します。
10. リボンの [構成の管理] グループで [再起動] をクリックし、変更を適用します。

手順 IP アドレスを編集するには

1. [制限する IP アドレス] のフォルダを開くボタンをクリックします。
[許可する IP アドレス] ダイアログボックスが開きます。
2. 変更を加える IP アドレスを選択し、[編集] をクリックします。
[IP アドレス の編集] ダイアログボックスが開きます。
3. IP アドレスを変更し、[OK] をクリックします。
4. リボンの [構成の管理] グループで [保存] をクリックし、許可する IP アドレスの変更を保存します。
5. リボンの [構成の管理] グループで [再起動] をクリックし、変更を適用します。

手順 IP アドレスを削除するには

1. [制限する IP アドレス] のフォルダを開くボタンをクリックします。
[許可する IP アドレス] ダイアログボックスが開きます。
2. 削除する IP アドレスを選択し、[削除] をクリックします。
選択した IP アドレスが削除されます。
3. [OK] をクリックします。
4. リボンの [構成の管理] グループで [保存] をクリックし、許可する IP アドレスの変更を保存します。
5. リボンの [構成の管理] グループで [再起動] をクリックし、変更を適用します。

設定 - 全般

[構成] タブの [設定 - 全般] フォルダには、ユーザが使用可能なスケジュールタスク、配信フォーマット、配信方法を指定するための設定が格納されています。

[設定 - 全般] フォルダには、次の構成設定が格納されています。

設定	オプションまたは 必須/デフォルト値	説明と有効値
PDF の直接プリンタ配信を許可する	必須 このオプションは、デフォルト設定で選択されています。	選択した場合、プリンタ配信方法で選択可能なフォーマットとして、PDF が表示されます。これにより、PDF ファイルをプリンタへ直接配信することが可能になります。プリンタに PDF ファイルの印刷に適切なドライバがインストールされている必要があります。
パラメータ化されたスケジュールの設定に従来の動作を使用	オプション デフォルト設定では、このオプションは選択されていません。	スケジュール設定での変数の使用方法を従来の動作に戻します。このオプションを選択すると、Email の [件名] でのみ変数を使用できます。変数の値は、スケジュールとともに Report Broker パラメータテーブルに格納された値に設定されます。ランタイム値は使用されません。
スケジュールタスク	オプション デフォルト設定では、すべてのタスクタイプが有効になっています。	ユーザによる使用を可能にするタスクタイプを指定します。すべてのアドバンストスケジュールのデフォルトスケジュールタスクは、Db2 Web Query レポートです。アドバンストスケジュールツールでタスクを作成する場合、[新規作成] ボタンをクリックすると、選択したデフォルトタスクのダイアログボックスが表示されます。詳細は、36 ページの「 スケジュールタスク設定の指定 」を参照してください。

設定	オプションまたは 必須/デフォルト値	説明と有効値
配信フォーマット	オプション デフォルト設定では、すべてのフォーマットが有効になっています。	ユーザによる使用を可能にするレポートとグラフのフォーマットを指定します。
配信方法	オプション デフォルト設定では、すべての配信方法が有効になっています。	ユーザによる使用を可能にする配信方法を指定します。

スケジュールタスク設定の指定

[設定 - 全般] フォルダの [スケジュールタスク] の設定により、権限を所有するユーザは、ユーザおよびグループが利用できるタスクタイプを指定することができます。

デフォルト設定では、すべてのタスクタイプが有効 (選択) になっています。少なくとも 1 つのタスクタイプが選択されている必要があります。

注意

- ☐ ユーザが特定のタスクでスケジュールを作成した後、この構成設定でそのタスクの選択を解除すると、スケジュールが正しく実行されなくなります。ログに書き込まれたメッセージに、問題の解決方法が示されています。

手順

スケジュールタスク設定を指定するには

- [設定 - 全般] フォルダで、[スケジュールタスク] テキストボックス右側のアイコンをクリックします。
[Report Broker - スケジュールタスク] ダイアログボックスが開きます。
- 特定のタスクタイプを有効または無効にするには、次のオプションのチェックをオンまたはオフにします。
 - ☐ Db2 Web Query レポート
 - ☐ WF サーバプロシジャ

- ☐ ファイル
 - ☐ URL
 - ☐ FTP
 - ☐ Db2 Web Query スケジュール
3. 必要に応じて、アドバンスドスケジュールツールのデフォルトスケジュールタスクを選択します。デフォルト設定では、[Db2 Web Query レポート] が選択されています。
 4. Distribution Server による、選択解除したタスクタイプのスケジュール済みジョブの実行が必要ない場合は、[選択したタスクのスケジュールだけ実行] のチェックをオンにします。
 5. [スケジュールタスク] ダイアログボックスで選択の完了後、[OK] をクリックします。
変更が保存され、[スケジュールタスク] ダイアログボックスが閉じます。
 6. 構成の変更を有効にするには、Distribution Server および Report Broker Web アプリケーションを再起動する必要があります。

スケジュールフォーマット設定の指定

[設定 - 全般] フォルダの [配信フォーマット] の設定により、ユーザが使用可能なレポートとグラフのフォーマットを指定することができます。

この設定は、Db2 Web Query (リポジトリ) プロシジャにのみ適用されます。デフォルト設定では、すべてのレポートおよびグラフフォーマットが有効 (選択) になっています。少なくとも 1 つのレポートまたはグラフフォーマットが選択されている必要があります。

注意: ユーザが特定のフォーマットでスケジュールを作成した後、この構成設定でそのフォーマットの選択を解除すると、スケジュールが正しく実行されなくなります。ログに書き込まれたメッセージに、問題の解決方法が示されています。

手順

スケジュールフォーマットを設定するには

1. [設定 - 全般] フォルダで、[配信フォーマット] テキストボックス右側のアイコンをクリックします。
[Report Broker - レポートとグラフのフォーマット] ダイアログボックスが開きます。
2. ドロップダウンリストを使用して、[スタイルフォーマット]、[スペシャルフォーマット]、[スタイルなしフォーマット]、または [グラフィメージ] を選択することができます。デフォルト設定の [スタイルフォーマット] をそのまま使用することもできます。
デフォルト設定では、スタイルフォーマットは各フォーマットタイプが有効な状態で表示されます。

3. スタイルフォーマットを有効または無効にするには、各フォーマットのチェックをオンまたはオフにします。
4. スタイルなしフォーマットを有効または無効にするには、ドロップダウンリストから [スタイルなしフォーマット] を選択します。スタイルなしフォーマットは、Db2 Web Query スタイルシートコマンドを使用するスタイルをサポートしないフォーマットです。デフォルト設定では、スタイルなしフォーマットは各フォーマットタイプが有効な状態で表示されます。
5. グラフイメージを有効または無効にするには、ドロップダウンリストから [グラフイメージ] を選択します。デフォルト設定では、グラフイメージは各フォーマットタイプが有効な状態で表示されます。
6. [レポートとグラフのフォーマット] ダイアログボックスで選択の完了後、[OK] をクリックします。
変更が保存され、[レポートとグラフのフォーマット] ダイアログボックスが閉じます。
7. 構成の変更を有効にするには、Distribution Server および Report Broker を再起動する必要があります。

スケジュール配信方法の設定

権限を所有するユーザは、[設定 - 全般] フォルダの [配信方法] 設定で、ユーザやグループがスケジュールの作成時に使用可能な配信方法を指定することができます。特定の配信方法でスケジュールが作成された後、その配信方法の選択を解除し、[選択した配信方法のスケジュールだけ実行] のチェックをオンにした場合、そのスケジュールが正しく実行されなくなります。ログに書き込まれたメッセージに、配信方法が構成されていないことが示されます。また、1 つのスケジュールに複数の配信方法が指定されている場合、[構成] タブの [設定 - 全般] フォルダの [配信方法] 設定で、これらの配信方法のいずれかのチェックをオフにすると、そのスケジュールが実行されなくなります。

デフォルト設定では、すべての配信方法が有効 (選択) になっています。

注意：少なくとも 1 つの配信方法が選択されている必要があります。

[リポジトリ] オプションは、この製品コンポーネントが使用可能な場合にのみ表示されます。リポジトリは、Db2 Web Query Client とともにインストールされる製品コンポーネント (オプション) です。

手順 スケジュール配信方法を設定するには

1. [設定 - 全般] フォルダで、[配信方法] テキストボックス右側のアイコンをクリックします。

[Report Broker - スケジュール配信方法] ダイアログボックスが開きます。

2. 配信方法を有効または無効にするには、各フォーマットのチェックをオンまたはオフにします。

注意：少なくとも 1 つの配信方法を選択する必要があります。

3. 必要に応じて、[選択した配信方法のスケジュールだけ実行] のチェックをオンにすることで、実行するスケジュールを、この設定で選択された配信方法に限定することができます。
4. [スケジュール配信方法] ダイアログボックスで選択の完了後、[OK] をクリックします。
変更が保存され、[スケジュール配信方法] ダイアログボックスが閉じます。
5. 構成の変更を有効にするには、Distribution Server および Report Broker Web アプリケーションを再起動する必要があります。

Email 配信

[構成] タブの [Email 配信] フォルダには、デフォルト Email 設定、Email 再試行オプション、Email セキュリティなどの設定が格納されています。

[Email 配信] フォルダには、次の構成設定が格納されています。

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
埋め込みレポート 配信	必須 デフォルト値は [許可する] です。	<p>スケジュールツールで、Email 本文としてレポートを送信する Email 配信方法を有効にするかどうかを指定します。</p> <p>注意：ユーザがこのオプションを使用してスケジュールを作成した後、この構成設定でそのオプションの選択を解除すると、スケジュールが正しく実行されなくなります。ログに書き込まれたメッセージに、問題の解決方法が示されています。</p>

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
Email のパケット化	必須 デフォルト値は [はい] です。	<p>タスクの出力およびバーストコンテンツの Email での配信方法を制御します。</p> <p>有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> いいえ バースト値またはタスク出力のそれぞれを、別の Email で配信します。<input type="checkbox"/> はい 複数のバースト値や複数のタスクによる出力は、複数のファイルが添付された 1 通の Email として配信されます。<input type="checkbox"/> バースト 配信リストのバースト値ごとに、指定したアドレスへの個別の Email が生成されます。スケジュールのタスク数によっては、Email に 1 つまたは複数のファイルが添付される場合があります。

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
許可する Email ドメインとアドレス	デフォルト値は [オフ] です。	<p>配信で使用可能な Email ドメインおよびアドレスを格納します。</p> <p>[入力をこのリストに制限する] のチェックをオンにすると、ユーザの Email アドレスおよびドメインの入力が、リストに保存された許可アドレスおよびドメインに制限されます。詳細は、45 ページの「許可する Email ドメインおよびアドレスの確認」を参照してください。</p> <p>注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ❑ 保存済みのベーシックスケジュール、配信リスト、配信ファイル、ダイナミック配信リストの Email アドレスを編集する前に、このリストが変更された場合、新しい Email アドレスおよびドメインが現在有効かどうかシステムによって確認されます。無効な Email アドレスまたはドメインを入力すると、保存する前にこの Email アドレスまたはドメインを変更するよう要求されます。 ❑ 配信用のファイルに Email アドレスを格納している場合、ファイル内の有効なドメインはスケジュールの実行時に確認されます。配信が制限された Email アドレスがファイル内に存在する場合、そのアドレスには配信されず、ログファイルにエラーメッセージが書き込まれます。

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
Email 配信をスケジュールオーナーの Email アドレスに制限	オプション	<p>Email 配信をスケジュールオーナーの Email アドレスに制限する場合は、このチェックをオンにします。</p> <p>注意: セキュリティセンターでスケジュールオーナーの Email アドレスが指定されていない場合、スケジュールを保存することはできません。</p>
配信レポートを常に圧縮してパスワード保護する	オプション	<p>配信レポートをパスワード保護の ZIP ファイルに変換する場合は、このチェックをオンにします。パスワードは、配信ファイルまたはダイナミック配信リストで提供するか、ZIP 暗号化プラグイン経由で提供することができます。パスワードが作成されていない場合、レポートは配信されません。</p> <p>Distribution Server は、このルールをすべてのスケジュールに強制的に適用します。これには、このチェックをオンにする前に作成されたスケジュールも含まれます。</p> <p>注意: このチェックをオンにすると、[埋め込みレポート配信] が無効になります。[埋め込みレポート配信] を有効にすると、[配信レポートを常に圧縮してパスワード保護する] のチェックがオフになります。</p> <p>また、[配信レポートを常に圧縮してパスワード保護する] のチェックをオンにした場合、ベーシックスケジュールツールで作成するスケジュールの [配信] タブで、[ZIP ファイルとしてレポートを送信] のチェックがデフォルト設定でオンになります。</p>
添付メッセージのカスタマイズ	オプション	カスタムメッセージの指定を可能にします。

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
デフォルト添付メッセージ	必須	<p>Email 配信で使用されるデフォルトメッセージを指定します。ここで指定したメッセージがベーシックスケジュールツールに表示されます。</p> <p>注意: デフォルトメッセージをカスタマイズした場合、指定した新しいメッセージが新規スケジュールのデフォルトメッセージになります。</p>
メールサーバのデフォルトセクション		
メールサーバ	必須	<p>Email スケジュールの配信に使用するデフォルトのメールサーバ名です。</p> <p>メールホストのポートを、「hostname:port」の形式で指定することもできます。ポートを指定しない、または指定したポートが存在しない場合は、デフォルトポートが使用されます。</p>
このサーバには SSL 接続が必要	オプション	指定したメールサーバが SSL を使用する場合は、このチェックをオンにします。
このサーバには TLS 接続が必要	オプション	指定したメールサーバが TLS を使用する場合は、このチェックをオンにします。
このサーバには認証情報が必要	オプション	指定したメールサーバでユーザ ID とパスワードによる認証が必要な場合は、このチェックをオンにします。
SMTP ユーザ ID/パスワード	<p>メールホストで SMTP 認可を使用している場合は必須です。</p> <p>デフォルト値は設定されていません。</p>	メールホストとの接続に使用するユーザ ID とパスワードです。

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
SMTP セキュリティプラグイン	オプション	Report Broker の SMTP セキュリティインターフェースを実装して、SMTP サーバとの接続に必要なユーザ ID とパスワードを動的に取得するカスタム Java クラス名です。詳細は、45 ページの「 Email 配信を構成するには 」を参照してください。
Email 返信のデフォルトセクション		
Email 送信者	オプション	[Email 送信者] テキストボックスのデフォルト値です。任意の値を使用することができます。
Email 返信アドレス	オプション	Email スケジュールを作成する際のデフォルト Email 返信アドレスです。 注意： [Email 返信アドレス] を指定しない場合、Web Query にログイン済みのユーザの Email アドレスが、ベーシックスケジュールツールで使用するデフォルト返信アドレスになります。Report Broker は、Web Query セキュリティシステムからユーザの Email アドレスを取得します。
Email 再試行セクション		
Email 再試行	デフォルト値は 1 です。	レポート出力を配信する際に Distribution Server が Email サーバとの接続を試みる回数です。 Distribution Server が最初の試行でメールサーバに接続できなかった場合、[Email 再試行間隔] で指定した時間が経過した後、再度接続を試みます。接続を試行するたびにログファイルにメッセージが書き込まれます。 有効値は 0 から 9 です。

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
Email 再試行間隔 (秒)	デフォルト値は 60 秒です。	Distribution Server が次の接続の再試行まで待機する時間です。 有効値は 1 から 999 です。

手順

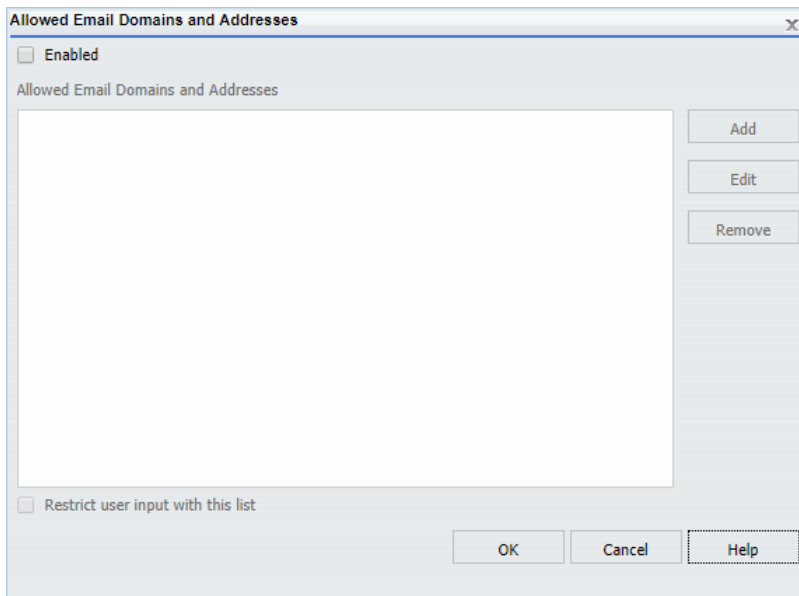
Email 配信を構成するには

1. [ツール] メニューから [Report Broker ステータス] を選択します。
2. [構成] ボタンをクリックします。
注意：権限を所有するユーザは、管理コンソールから Report Broker 構成ツールにアクセスすることもできます。
3. 左側ウィンドウで、[Email 配信] フォルダを選択します。
4. Email 配信の各テキストボックスに値を入力します。次のことが可能です。
☐ 現在の Email 設定を変更します。詳細は、前述の表を参照してください。
☐ スケジュール作成時のデフォルト値を設定する場合は、その値を入力します。
5. メールサーバに認証情報、SSL、TLS が必要な場合は、それぞれ該当する項目のチェックをオンにし、認証情報を入力します。
6. [保存] をクリックします。

許可する Email ドメインおよびアドレスの確認

Email でレポートを送信する場合、ユーザの Email ドメインおよびアドレスの選択を定義済みのリストに制限することができます。

下図は、このオプションが利用可能な Report Broker ステータスの [許可する Email ドメインとアドレス] ダイアログボックスを示しています。



[有効] のチェックをオンにすると、Email 配信が、有効な Email ドメインとアドレスのリストに制限されます。このリストが有効な場合、ユーザがこのリストに存在しない Email アドレスを入力すると、Report Broker ジョブは保存されません。

[入力をこのリストに制限する] のチェックをオンにすると、ユーザはこのリストで選択した Email ドメインとアドレスのみ使用することができ、他のユーザに対する Email 配信制限のレイヤを追加することができます。

注意: [入力をこのリストに制限する] のチェックをオンにするためには、[有効] のチェックをオンにする必要があります。

無効な Email アドレスおよびドメインの例

この例では、管理者が次の Email アドレスと Email ドメインを [許可する Email ドメインとアドレス] リストに追加した場合を想定します。

☐ john@tibco.com

☐ roger@tibco.com

☐ @gmail.com

❑ @yahoo.com

これらをリストに追加することで、有効なユーザ入力と無効なユーザ入力定義されます。

無効な Email アドレス

たとえば、john@tibco.com がこのリストに追加されているため、ユーザが大文字の「J」を使用して、「John@tibco.com」と入力した場合もこの Email アドレスは有効になります。これは、[許可する Email ドメインとアドレス] の機能が、大文字と小文字を区別しないためです。

一方、ユーザが、リストに追加された 2 つの Email アドレスを組み合わせ「johnroger@tibco.com」と入力した場合、この Email アドレスは無効になります。これは、この特定の Email アドレスがリストに追加されていないためです。

無効な Email ドメイン

ドメインアドレスの入力では、ユーザが、Email ドメインの「@gmail.com」を使用した任意の Email アドレスを入力した場合、アドレスは有効になります。これは、「@gmail.com」はリストに追加されたドメインに該当するためです。

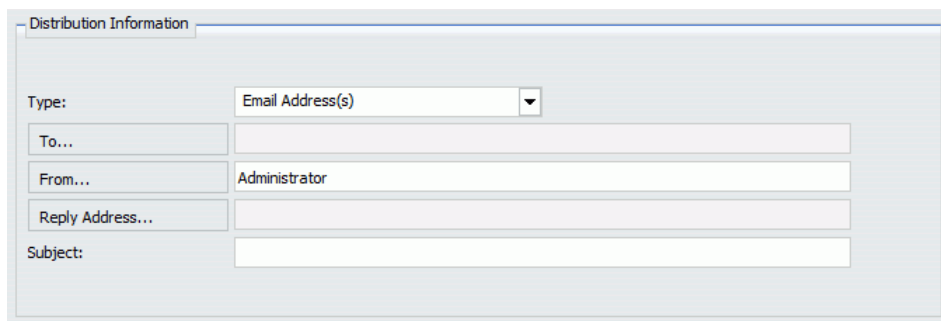
一方、ユーザが、Email ドメインの「@outlook.com」を使用した任意の Email アドレスを入力した場合、アドレスは無効になります。これは、「@outlook.com」はリストに追加されたドメインに該当しないためです。

Email ドメインおよびアドレスの制限

次の場合、制限が適用されます。

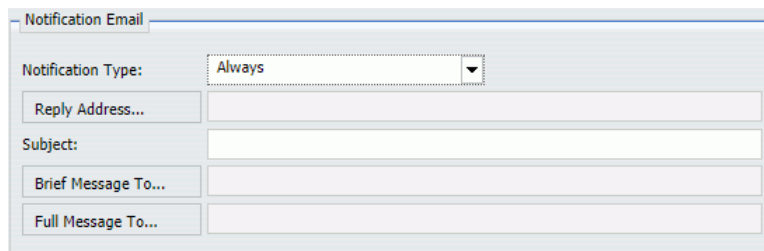
❑ ベーシックスケジュールツールでの Email 配信オプションの編集

下図は、ベーシックスケジュールツールでの Email 配信オプションを示しています。[入力をこのリストに制限する] のチェックをオンにした場合、[選択]、[送信者]、[返信アドレス] テキストボックスをクリックして、Email アドレスを選択したり、入力したりできます。



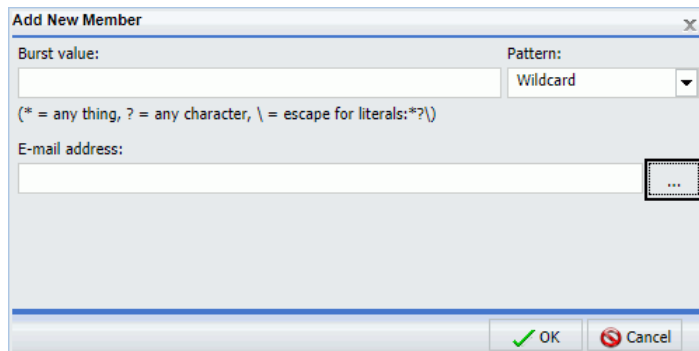
❑ ベーシックスケジュールツールでの通知 Email オプションの編集

下図は、ベーシックスケジュールツールでの通知 Email オプションを示しています。[入力
をこのリストに制限する]のチェックをオンにした場合、[返信アドレス]、[簡易メッセージ
の宛先]、[詳細メッセージの宛先] テキストボックスをクリックして、Email アドレスを選
択したり、入力したりできます。

A dialog box titled "Notification Email" with a close button (X) in the top right corner. It contains several fields: "Notification Type:" with a dropdown menu showing "Always"; "Reply Address..." with a text box; "Subject:" with a text box; "Brief Message To..." with a text box; and "Full Message To..." with a text box.

❑ 配信リストへの新規メンバーの追加

下図は、配信リストの [新規メンバーの追加] ダイアログボックスを示しています。[入力
をこのリストに制限する]のチェックをオンにした場合、[Email アドレス] テキストボックス
横の [...] (参照) ボタンをクリックして、Email アドレスを選択したり、入力したりできま
す。

A dialog box titled "Add New Member" with a close button (X) in the top right corner. It contains fields for "Burst value:" and "Pattern:" with a dropdown menu showing "Wildcard". Below these is a text box for "E-mail address:" with a small button to its right. At the bottom are "OK" and "Cancel" buttons. A note below the pattern field reads: "(* = any thing, ? = any character, \ = escape for literals: *? \)".

次のファイルタイプにも制限が適用されます。

- ❑ **配信ファイル** 外部配信ファイルをインポートした場合、このファイルの Email リストは、
[許可する Email ドメインとアドレス] リストと照合されます。
- ❑ **ダイナミック配信リスト** ダイナミック配信リストを作成した場合、このリストに使用す
るために選択された Email アドレスは、[許可する Email ドメインとアドレス] リストと照
合されます。

Email アドレスの選択ダイアログボックス

[入力をこのリストに制限する] のチェックをオンにした場合、[選択]、[送信者]、[返信アドレス]、[宛先]、[CC]、[BCC]、[返信]、[簡易メッセージの宛先]、[詳細メッセージの宛先]、または [...] (参照) ボタンをクリックすると、3つのダイアログボックスのいずれかが表示されます。表示されるダイアログボックスは、[許可する Email ドメインとアドレス] リスト内の Email ドメインおよびアドレス情報のタイプによって異なります。

注意

- ❑ [選択]、[送信者]、[返信アドレス]、[宛先]、[CC]、[BCC]、[返信]、[簡易メッセージの宛先]、[詳細メッセージの宛先] テキストボックスには、複数の Email アドレスを入力することができます。
- ❑ [Email アドレスの選択] ダイアログボックスの Email アドレスの選択を取り消すには、Ctrl キーを押しながら Email アドレスを選択します。

Email アドレスのみのリスト

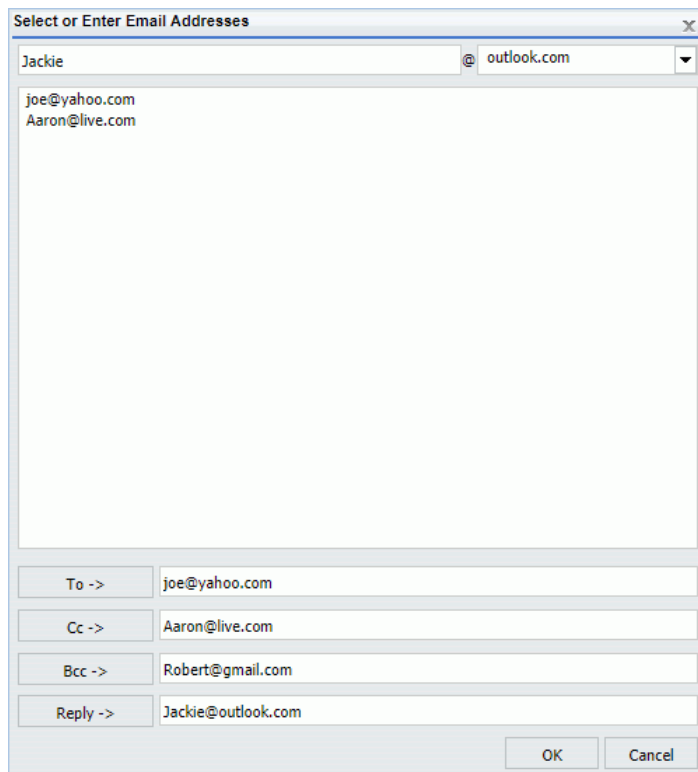
[許可する Email ドメインとアドレス] リストに Email アドレスのみが含まれる場合、下図のように、[Email アドレスの選択] ダイアログボックスを使用して、[宛先]、[CC]、[BCC]、[返信] テキストボックスで Email アドレスを選択することができます。



Email アドレスの選択後、[宛先]、[CC]、[BCC]、[返信] ボタンをクリックして、Email アドレスを各テキストボックスに割り当てることができます。

Email ドメインとアドレスのリスト

[許可する Email ドメインとアドレス] リストに Email ドメインとアドレスの両方が含まれる場合、[Email アドレスを選択または入力] ダイアログボックスで、Email アドレスのリストから選択することができます。このダイアログボックスでは、下図のように、特定のドメインの Email アドレスを作成することもできます。



The dialog box titled "Select or Enter Email Addresses" features a search bar at the top with the text "Jackie" and a dropdown menu showing "@ outlook.com". Below the search bar is a list of email addresses: "joe@yahoo.com" and "Aaron@live.com". At the bottom of the dialog, there are four rows of labels and text boxes: "To ->" with "joe@yahoo.com", "Cc ->" with "Aaron@live.com", "Bcc ->" with "Robert@gmail.com", and "Reply ->" with "Jackie@outlook.com". At the very bottom are "OK" and "Cancel" buttons.

Email アドレスの選択または Email アドレスの入力とドメインの選択後、[宛先]、[CC]、[BCC]、[返信] ボタンをクリックして、Email アドレスを各テキストボックスに割り当てることができます。

Email ドメインのみのリスト

[許可する Email ドメインとアドレス] リストに Email ドメインのみが含まれる場合、下図のように、入力ダイアログボックスで Email ドメインを選択し、Email アドレスの名前を入力することができます。

Enter Email Addresses

Jackie @ gmail.com

Select an email domain and enter the name of the email address

gmail.com
live.com
outlook.com
yahoo.com

To -> joe@outlook.com

Cc -> Aaron@live.com

Bcc -> Robert@yahoo.com

Reply -> Jackie@gmail.com

OK Cancel

Email アドレスの入力およびドメインの選択後、[宛先]、[CC]、[BCC]、[返信] ボタンをクリックして、Email アドレスを各テキストボックスに割り当てることができます。

通知

[構成] タブの [通知] フォルダには、デフォルト通知設定が格納されています。

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
通知のデフォルトセクション		

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
通知メールサーバ	オプション	<p>通知 Email を配信するメールサーバ名です。何も指定しない場合、Report Broker は通知メールサーバとしてメールホストの設定を使用します。</p> <p>ヒント:通知および Email 配信には、異なるメールサーバを使用することをお勧めします。異なるサーバを使用することにより、メールホストに問題が生じても通知が配信されるためです。個別のメールサーバを利用すると、デフォルトのメールサーバに問題が生じた場合、通知されます。</p> <p>通知メールホストのポートを、「hostname:port」の形式で指定することもできます。ポートを指定しない、または指定したポートが存在しない場合は、デフォルトポートが使用されます。</p>

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
デフォルト通知タイプ	デフォルト値は [なし] です。	<p>スケジュールステータスの通知を、指定済みの Email アドレスに送信するかどうかを指定します。利用可能な値には、次のものがあります。</p> <p><input type="checkbox"/> なし これがデフォルト値です。スケジュールステータスの通知が送信されることはありません。</p> <p><input type="checkbox"/> エラー時 スケジュールジョブの実行中にエラーが発生した場合、指定したユーザに通知が送信されます。通常は、[エラー時] 通知オプションの使用をお勧めします。</p> <p><input type="checkbox"/> 常に通知 スケジュールが実行されるたびに指定したユーザに通知が送信されます。</p> <p>注意: この設定は、管理コンソールで行うこともできます。</p>
簡易通知のみを有効にする	オプション	<p>スケジュールオプションとして [詳細通知] を使用可能にするかどうかを制御します。このチェックをオンにした場合、ユーザがレポートをスケジュールする際に、[簡易通知] オプションのみが選択可能になります。[詳細通知] オプションは選択不可になります。</p> <p>注意: 詳細通知が無効になると、メッセージがログに表示されます。詳細通知が無効になる前にスケジュールが作成された場合、そのスケジュールの実行時に簡易通知が送信され、スケジュールログに警告メッセージが表示されます。</p>

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
システム通知を有効にする	オプション	<p>フェールオーバーイベントが発生した場合、Distribution Server がフェールオーバーモードからフルファンクションモードに変更された場合、または Distribution Server が停止した場合に、指定された管理者に通知を送信するかどうかを制御します。</p> <p>このオプションを選択した場合、この構成を保存する前に [システム通知] セクションの各テキストボックスに値を入力する必要があります。</p> <p>Distribution Server がフェールオーバーからフルファンクションモードに変更されると、Email 本文は次のように表示されます。</p> <p><Host>:<Port> Distribution Server はフェールオーバーモードからフルファンクションモードに切り替えられました。</p> <p>Distribution Server が停止すると、Email 本文は次のように表示されます。</p> <p><Host>:<Port> Distribution Server を停止します。</p>
システム通知セクション		
管理 Email アドレス	必須	システム通知の送信先となるデフォルト管理 Email アドレスを入力します。この値は必須です。
送信者	オプション	システム通知の送信元となるデフォルト Email アドレスを入力します。この値は必須ではありません。

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
返信 Email アドレス	必須	Email 受信者の返信先となるデフォルト返信 Email アドレスを入力します。この値は必須です。
Email 件名	オプション	デフォルトの Email 件名を入力します。この値は必須ではありません。

手順

通知を構成するには

1. [ツール] メニューから [Report Broker ステータス] を選択します。
2. [構成] ボタンをクリックします。

注意：権限を所有するユーザは、管理コンソールから Report Broker 構成ツールにアクセスすることもできます。

3. 左側ウィンドウで、[通知] フォルダを選択します。
4. 通知の各テキストボックスに値を入力します。次のことが可能です。
 - ☐ 現在の通知設定を変更します。詳細は、前述の表を参照してください。
 - ☐ スケジュール作成時のデフォルト値を設定する場合は、その値を入力します。
5. [保存] をクリックします。

FTP の設定

[構成] タブの [FTP の設定] フォルダには、Report Broker が FTP 配信時に使用するデフォルト FTP サーバの設定が格納されています。

下表は、[FTP 設定] フォルダで指定可能な構成設定の一覧および説明です。

設定	オプションまたは 必須/デフォルト値	説明と有効値
デフォルト FTP ホスト	オプション	FTP スケジュールの作成時のデフォルト FTP サーバ名です。 デフォルト以外のポート番号を指定する場合は、「hostname:port」の形式を使用します。
デフォルト FTP パス	オプション	FTP スケジュールを作成する際のデフォルト FTP パス (ディレクトリ) です。
デフォルトユーザ	オプション	FTP ファイル転送の実行に使用するデフォルトのユーザ ID およびパスワードです。 デフォルトユーザの設定にアクセスするには、[デフォルトユーザ] テキストボックス右側のアイコンをクリックします。表示される [ユーザ] ダイアログボックスで、ユーザ名とパスワードを入力することができます。
SFTP セキュリティプロ ラダイン	オプション	Report Broker SFTP セキュリティインターフェースを実装して、セキュア FTP サーバとの接続に必要なパブリックキーの値を動的に取得するカスタム Java クラス名です。構成についての詳細は、59 ページの「 FTP 設定を構成するには 」を参照してください。
バーストレポートの 配信時にインデック スファイルを作成す る	必須 このオプションは、 デフォルト設定で 選択されています。	このオプションで、バーストレポートの FTP 配信で、スケジュール実行時にインデックスファイルを作成するかどうかを指定します。

FTP サーバ情報

設定	オプションまたは 必須/デフォルト値	説明と有効値
このサーバには FTP が必要	オプション このオプションは、 デフォルト設定で 選択されています。	このオプションを選択すると、スケジュー ルツールのデフォルト設定で FTP を使用す るオプションが有効になります。
このサーバには TLS/SSL (FTPS) が必 要	オプション	<p>このオプションを選択すると、スケジュー ルツールのデフォルト設定で FTPS を使用 するオプションが有効になります。このオ プションを構成ツールで選択しておく、と、 スケジュールツールを使用するたびにチェ ックをオンにする必要がなくなります。こ のオプションのチェックは、スケジュール ツールでオフにすることができます。</p> <p>構成ツールでこのボタンを選択しない場合 は、必要に応じてスケジュールの作成時に スケジュールツールでこのチェックをオフ にすることができます。</p>
このサーバには SFTP が必要	オプション	<p>このオプションを選択すると、スケジュー ルツールのデフォルト設定で SFTP を使用 するオプションが有効になります。このオ プションを構成ツールで選択しておく、と、 スケジュールツールを使用するたびにチェ ックをオンにする必要がなくなります。こ のオプションのチェックは、スケジュール ツールでオフにすることができます。</p> <p>構成ツールでこのボタンを選択しない場合 は、必要に応じてスケジュールの作成時に スケジュールツールでこのチェックをオフ にすることができます。</p>

手順

FTP 設定を構成するには

必要に応じて、[デフォルト FTP ホスト]、[デフォルト FTP パス]、[デフォルトユーザ] テキストボックスに値を入力することができます。これらの値は、スケジュール作成時の FTP 配信のデフォルト値になります。

1. リボンの [表示] グループで、[構成] ボタンをクリックします。
 2. 左側ウィンドウで、[FTP の設定] フォルダを選択します。
 3. 必要に応じて、FTP 設定の各テキストボックスに値を入力します。
 - ❑ **デフォルト FTP ホスト** デフォルト FTP サーバの名前を入力します。FTP スケジュールの作成時にこの名前が使用されます。
 - ❑ **デフォルト FTP パス** FTP スケジュールの作成時に使用するディレクトリの名前を入力します。
 - ❑ **デフォルトユーザ** FTP ファイル転送の実行に使用するデフォルトのユーザ ID およびパスワードです。
 - ❑ **SFTP セキュリティプラグイン** Report Broker SFTP セキュリティインターフェースを実装して、セキュア FTP サーバとの接続に必要なパブリックキーの値を動的に取得するカスタム Java クラス名を入力します。
- 注意：**これらの値が格納されると、スケジュールの作成時にデフォルト値として使用されます。スケジュールの作成時に値を上書きしない限り、これらの値が常に使用されます。
4. 必要に応じて、[バーストレポートの配信時にインデックスファイルを作成する] のチェックをオフにして、FTP スケジュールの実行時にインデックスが生成されないようにします。
 5. SFTP サーバで暗号化キーを必要とする場合は、SFTP セキュリティプラグインを使用して値を提供することができます。このプラグインを使用するには、SFTP セキュリティインターフェースを実装するプログラムの名前を入力します。
 6. 必要に応じて [このサーバには FTP が必要] ボタンを選択します (FTP サーバに SFTP および FTPS が必要ない場合)。
 7. 必要に応じて [このサーバには SFTP が必要] のチェックをオンにし、構成情報をセキュリティで保護します。サーバ認証に使用する [セキュリティモード]、[プロトコル]、[データ接続セキュリティ] 設定を選択します。
 8. 必要に応じて [このサーバには TLS/SSL (FTPS) が必要] ボタンを選択します (FTP サーバに FTPS が必要な場合)。サーバ認証に使用する認証タイプを選択します。
 9. [保存] をクリックします。

圧縮 (ZIP) の設定

[構成] タブの [圧縮 (ZIP) の設定] フォルダには、配信 ZIP ファイルの拡張子、配信に使用する ZIP 暗号化方法、ZIP 暗号化パスワードプラグインを定義するための設定が格納されています。

[圧縮 (ZIP) の設定] フォルダには、次の構成設定が格納されています。

設定	オプションまたは 必須/デフォルト値	説明と有効値
指定されていない 場合、拡張子 zip を 追加する	必須 このオプションは、 デフォルト設定で 選択されています。	Email または FTP で配信されたスケジュール に入力した ZIP ファイル名に、自動的に .zip 拡張子を追加するかどうかを制御します。 入力したファイル名の拡張子として .zip を自 動的に追加するには、このオプションを選択 します。 ユーザが入力したとおりのファイル名を使用 して、.zip を追加しない場合は、このオプシ ョンを選択しません。
Email 配信 ZIP ファ イルの最小サイズ	必須 デフォルトサイズ はキロバイト (KB) で、0 (ゼロ) に設定 されています。	[MB]、[KB] のいずれかを選択し、上下の矢印 を使用してファイルサイズをカスタマイズし ます。

設定	オプションまたは 必須/デフォルト値	説明と有効値
ZIP 暗号化パスワードプラグイン	必須 デフォルト値は [なし] です。	<p>ZIP ファイル形式で配信するスケジュール出力のパスワード保護と暗号化を有効にするグローバル設定です。この設定は、Distribution Server によるパスワードの取得方法を制御します。圧縮ファイルは、AES 256 で暗号化されます。詳細は、64 ページの「デフォルトの ZIP 暗号化パスワードプラグインを構成するには」を参照してください。</p> <p>利用可能な値には、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> なし 保護された圧縮ファイルパスワードの取得に、プラグインを使用しません。 [なし] に設定すると、圧縮ファイルの暗号化パスワード機能を使用する際に、プラグインを使用する代わりに、ダイナミック配信リストまたは配信ファイルにパスワードを埋め込むことができます。 <input type="checkbox"/> デフォルト 指定されたデフォルトのプラグインを使用して、ZIP 暗号化パスワードを取得します。 <input type="checkbox"/> カスタム [ZIP 暗号化パスワードプラグイン名] で指定したカスタムプラグインを使用します。
ZIP 暗号化パスワードプラグイン名	[ZIP 暗号化パスワードプラグイン] を [カスタム] に設定する場合、必須です。	パスワードの取得に使用するカスタムプラグイン名を入力します。このプラグインは、Distribution Server から呼び出し可能な状態にしておく必要があります。

設定	オプションまたは 必須/デフォルト値	説明と有効値
ZIP エンコード	オプション	Report Broker Distribution Server プラットフォームのデフォルト以外のエンコードを指定します。指定するエンコードは、Distribution Server 上にインストールされた WinZip または他の ZIP ユーティリティで使用されているエンコードに一致する必要があります。 注意： この設定は、管理コンソールで行うこともできます。
最大同時圧縮数	オプション デフォルト値は 0 (ゼロ) です。	Distribution Server が同時に実行する圧縮処理の総数です。実行中ジョブに圧縮処理が多数存在する場合 (例、送信前の出力の圧縮)、Distribution Server で利用可能なリソースすべてが圧縮処理によって消費される可能性があります。この状況を回避するには、この値を小さくします。
スケジュールで FTP アーカイブファイル名が指定されていない場合、配信ファイル名を使用	オプション	このチェックボックスをオンにすると、配信方法として FTP を使用するスケジュールを作成し、アーカイブファイルをブランクにした場合に、Distribution Server は、配信するアーカイブファイル名として FTP 配信リストに存在する名前を使用します。

ZIP 暗号化保護デフォルトプラグインの使用

Report Broker が提供するデフォルトプラグインを使用して、暗号化パスワードを、スケジュールレポートが格納される Db2 Web Query リポジトリと関連付けることができます。ZIP 暗号化保護デフォルトプラグインのカスタマイズについての詳細は、64 ページの「[デフォルトの ZIP 暗号化パスワードプラグインを構成するには](#)」を参照してください。

プラグインはスケジュールの実行時にパスワードを Distribution Server に送信し、そこで出力が暗号化されて圧縮されます。デフォルトプラグインを使用するには、[ZIP 暗号化パスワード プラグイン] を [デフォルト] に設定します。デフォルトプラグインは、パスワードファイル `zipencrypt.txt` を参照し、ワークスペースとパスワードを検索します。インストール中、このファイルはブランクの状態、`/qibm/UserData/qwebqry/base80/ReportCaster/cfg` ディレクトリに格納されます。

このファイルのパスワードステートメントは、次のフォーマットで記述します。

```
domain, domainhref, password,$
```

説明

`DomainHREF`

Db2 Web Query リポジトリフォルダへのリンクを含む HTML ページの参照 (例、`untitled/untitled.htm`) です。

`password`

関連付けられたワークスペースのコンテンツを表示するためのパスワードです。

注意： Report Broker ログには、暗号化が使用されたことが示されます。

デフォルトプラグインを使用する際は、次のガイドラインに従います。

- ❑ `zipencrypt.txt` ファイルは、`/qibm/UserData/qwebqry/base80/ReportCaster/cfg` ディレクトリに格納されている必要があります。
- ❑ `zipencrypt.txt` ファイルには、Report Broker リポジトリレポートの Report Broker リポジトリフォルダを記述しておく必要があります。

注意： ZIP 暗号化パスワードプラグインを使用するには Db2 Web Query リポジトリフォルダが必要なため、Db2 Web Query リポジトリレポート以外のタスクを入力した場合、そのタスクの出力配信に失敗します。

- ❑ `zipencrypt.txt` ファイルの Web Query リポジトリフォルダのエントリが、パスワードなしで含まれている場合、出力は暗号化されません。その際、圧縮されるかどうかは、スケジュール作成時に選択した ZIP オプションで決定されます。
- ❑ Web Query リポジトリフォルダとパスワードの両方がパスワードファイルに含まれている場合は、スケジュール作成時に選択した ZIP オプションに関わらず、出力は圧縮されます。

`zipencrypt.txt` パスワードファイルを編集するには、次の手順を実行します。

1. Distribution Server の bin ディレクトリから、「`decdpwds`」という復号化ユーティリティを実行します。

注意: decdpws ユーティリティを実行すると、/qibm/UserData/qwebqry/base80/logs ディレクトリに「decdpws.log」というログファイルが作成されます。

2. ワークスペースの追加やパスワード変更など、必要な追加や編集を加えます。
3. 「encdpws」という暗号化ユーティリティを実行し、ファイルを暗号化します。

注意: encdpws ユーティリティを実行すると、/qibm/UserData/qwebqry/base80/logs ディレクトリに「encdpws.log」というログファイルが作成されます。

手順

ZIP 設定を構成するには

1. [ツール] メニューから [Report Broker ステータス] を選択します。
2. [構成] ボタンをクリックします。

注意: 権限を所有するユーザは、管理コンソールから Report Broker 構成ツールにアクセスすることもできます。

3. 左側ウィンドウで、[圧縮 (ZIP) の設定] フォルダを選択します。
4. 前述の表を参照し、[圧縮 (ZIP) の設定] の各テキストボックスに値を入力します。
5. 圧縮した出力を暗号化し、パスワードを保護する場合は、ZIP 暗号化パスワードプラグインを使用することができます。ユーザ独自のプログラムを使用してパスワードを提供するには、ドロップダウンリストから [カスタム] を選択し、[ZIP 暗号化パスワードプラグイン名] テキストボックスにプログラム名を入力します。デフォルト値を使用するには、[デフォルト] を選択します。詳細は、64 ページの「[デフォルトの ZIP 暗号化パスワードプラグインを構成するには](#)」を参照してください。
6. [保存] をクリックします。

手順

デフォルトの ZIP 暗号化パスワードプラグインを構成するには

1. [ツール] メニューから [Report Broker ステータス] を選択します。
2. [構成] ボタンをクリックします。
3. 左側ウィンドウで、[圧縮 (ZIP) の設定] フォルダを選択します。
4. [ZIP 暗号化パスワードプラグイン] ドロップダウンリストから [デフォルト] を選択します。

デフォルト実装を使用するには、埋め込み Email を無効にする必要があります。

[OK] をクリックすると、埋め込み Email が自動的に無効になります。

5. [保存] をクリックします。

6. /qibm/UserData/qwebqry/base80/ReportCaster/cfg ディレクトリに、zipencrypt.txt ファイルを作成します。このファイルに、ZIP 暗号化パスワードプラグインで使用するパスワードを格納します。

このファイルの構造は次のとおりです。

```
Domain, domainhref, Password,$
```

1 列目は「Domain」という語句、2 列目はスケジュールするレポートが格納されたフォルダ名、3 列目はパスワードです。

注意：このプラグインを構成した場合は、Db2 Web Query プロシジャのみをスケジュールすることができます。パスワードが見つかった場合、出力が暗号化されます。パスワードが見つからない場合、出力は圧縮されますが、暗号化はされません。

7. Distribution Server を再起動します。

デフォルトスケジュール

[構成] タブの [デフォルトスケジュール] フォルダには、スケジュール終了日およびスケジュール終了時間の設定が格納されています。

注意：タイムゾーンによっては、デフォルトのスケジュール終了日が 2100 年 1 月 1 日に設定される場合があります。

下表は、[デフォルトスケジュール] フォルダで指定可能な構成設定の一覧および説明です。

設定	オプションまたは 必須/デフォルト値	説明と有効値
スケジュール終了 日	必須	ド롭ダウンリストをクリックすると、カレンダーが有効になり、スケジュールの終了日を指定することができます。
スケジュール終了 時間	必須	スケジュールの時間を直接入力することができます。また、上下の矢印を使用して、スケジュールの終了時間を割り当てることもできます。

ログ削除

[構成] タブの [ログ削除] フォルダには、ログファイルの削除、ログ削除の期限、ログ削除時間の設定が格納されています。

[ログ削除] フォルダには、次の構成設定が格納されています。

設定	オプションまたは 必須/デフォルト値	説明と有効値
Distribution Server の開始時にログを削除	オプション デフォルト設定では、このチェックはオフになっています。	このオプションを選択すると、Distribution Server が開始するたびに、ログレポートは自動的に削除されます。この機能は、[ログ削除の期限] オプションと [ログ削除時間] オプションで設定するログ削除スケジュール機能の拡張設定です。

ログ削除の日単位スケジュールセクション

ログ削除の期限 (日数)	オプション	設定した日数を超過したログレポートを自動的に削除します。ログ削除の日単位スケジュールを無効にするには、[ログ削除の期限 (日数)] の値を 0 (ゼロ) に設定します。 注意： この設定は、管理コンソールで行うこともできます。
ログ削除時間	オプション	ログ削除の開始時間です。 注意： この設定は、管理コンソールで行うこともできます。

データサーバの設定

[構成] タブの [データサーバ] フォルダには、Report Broker に関連する Reporting Server の構成設定が格納されています。このフォルダの構成設定を使用して、Report Broker で複数の Reporting Server を構成することもできます。

注意：データサーバの接続情報は、Db2 Web Query Client に格納されます。Report Broker には格納されません。Report Broker は、Distribution Server とともにインストールされている Db2 Web Query Client を介してスケジュール済みプロシジャを実行します。Report Broker ジョブが Db2 Web Query Client で実行される際は、代替ディファードサーバが使用されます (代替ディファードサーバが定義されている場合)。

[データサーバ] フォルダには、次の構成設定が格納されています。

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
データサーバフォルダの設定		
グラフエージェント	デフォルト値は 1 です。	<p>グラフの処理を最適化します。パフォーマンスを考慮して、通常は、各同時グラフレポートのグラフエージェントの値を 1 に設定する構成をお勧めします。ただし、最適なグラフエージェントの値は、ユーザの内部テストにより決定されます。</p>
グラフ Servlet URL	<p>オプション</p> <p>デフォルト値は設定されていません。</p>	<p>デフォルトのグラフサーバの設定を上書きし、グラフィメージファイルが Application Server 上で作成されることを構成します。</p> <p>次の値を入力します。</p> <p>http://hostname/context_root/IBIGraphServlet</p> <p>説明</p> <p>hostname</p> <p>Db2 Web Query Client がインストールされている Application Server のホスト名です。</p> <p>context_root</p> <p>Application Server に展開した Db2 Web Query Web アプリケーションのコンテキストルートです。この値はサイトにより異なります。デフォルト値は webquery です。</p> <p>この設定は、Reporting Server および Db2 Web Query プロシジャで使用することができます。</p> <p>この設定は、Web サーバのセキュリティがオンの場合には使用しないでください。Web サーバのセキュリティには、基本認証、IWA、SSL、サードパーティセキュリティ製品 (SiteMinder など) があります。これらの認証が有効になっている場合、Web サーバセキュリティの設定により、Db2 Web Query でグラフを作成できなくなる可能性があります。</p>

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
Excel Servlet URL	オプション	<p>EXCEL 2007 ファイル (.xlsx) を構成するファイルコンポーネントの圧縮に使用する Application Server を次のように指定します。</p> <p><code>&URL_PROTOCOL://servername/alias/IBIEXCELSERVURL</code></p> <p>説明</p> <p><code>URL_Protocol</code> HTTP を表します。</p> <p><code>servername</code> Db2 Web Query Client がインストールされている Application Server の名前です。</p> <p><code>alias</code> Db2 Web Query アプリケーションのコンテキストルートです。デフォルト値は <code>webquery</code> です。</p> <p>この設定は、Reporting Server プロシジャおよび Db2 Web Query プロシジャで使用することができます。この設定は、Web サーバのセキュリティがオンの場合は使用しないでください。Web サーバのセキュリティには、基本認証、IWA、SSL、サードパーティセキュリティ製品 (SiteMinder など) があります。これらの認証が有効になっている場合、Web サーバセキュリティの設定により、Db2 Web Query で Excel 2007/2010 ファイルを作成できなくなる可能性があります。</p>
FOCEXURL/ FOCHTMLURL	<p>デフォルト値は次のとおりです。</p> <p><code>http://localhost:8080</code></p>	<p>FOCEXURL/FOCHTMLURL のホスト名およびポート番号を含む完全修飾 URL 指定します。SSL セキュリティで実行中の場合は、https を使用するよう URL を更新します。</p>

データサーバの個別設定

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
名前	必須	<p>選択したデータサーバの名前です。</p> <p>注意：データサーバ名の大文字と小文字は区別されます。Db2 Web Query Client ではデータサーバは大文字で定義されるため、Report Broker でもデータサーバを大文字で定義する必要があります。</p>
デフォルト	必須	このオプションは、デフォルト設定で選択されています。
スケジュール済みプロシジャに FOCEXURL/ FOCHTMLURL を設定	必須	<p>この設定は、デフォルト設定で選択されています。この設定のチェックをオフにした場合、Distribution Server は、スケジュール済みプロシジャに対して FOCEXURL および FOCHTMLURL の値を設定しません。そのため、この設定のチェックをオフにした場合、edasprof.prf ファイルで FOCEXURL または FOCHTMLURL がすでに設定されている場合は、その設定が引き続き有効になります (スケジュール済みプロシジャで値が上書きされていない場合)。</p>
セキュリティセクション		

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
セキュリティタイプ	デフォルト設定では、このオプションは [Trusted] に設定されており、変更することはできません。	<p>静的 有効な実行 ID とパスワードは、[ユーザ] 設定で指定します。スケジュールの作成時に、実行 ID とパスワードを指定することはできません。</p> <p>ユーザ スケジュールの作成時に、有効な実行 ID とパスワードを指定する必要があります。</p> <p>共有 スケジュールの作成時に、ユーザ ID とパスワードが、実行 ID とパスワードとして内部で割り当てられます。</p> <p>注意: 実際のパスワードは Db2 Web Query リポジトリに格納されないため、Reporting Server への接続にパスワードを必要としない場合에만 [共有] を使用することができます。</p> <p>Trusted 実行 ID はスケジュールのオーナーで、スケジュールの実行時に Reporting Server にパスワードは送信されません。</p> <p>注意: [Trusted] オプションを選択する場合、Trusted 接続を受容するよう、Reporting Server を構成しておく必要があります。</p>
ユーザ	[セキュリティタイプ] が [静的] に設定されている場合に必須です。	<p>デフォルトの実行 ID およびパスワードです。</p> <p>この ID とパスワードにアクセスするには、[ユーザ] テキストボックス右側のアイコンを選択します。表示される [ユーザ] ダイアログボックスで、ユーザ名とパスワードを入力することができます。</p>
グラフセクション		
グラフエンジン	必須。値は [GRAPH53] です。	サーバサイドグラフで使用するグラフエンジンを制御します。デフォルト設定では、[GRAPH53] が指定されています。

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
Headless	デフォルト設定では、このオプションは選択されていません。	Reporting Server 上にグラフィックスカードが存在するかを決定します。グラフィックスカードがサーバ上に存在しない場合は、このオプションを選択します。グラフィックスカードがサーバ上に存在する場合は、このオプションを選択しません。
最大接続数 (スレッド数)	必須 デフォルトの接続数は 3 です。	Reporting Server で利用可能な接続の最大数です。

スケジュール禁止期間の使用

スケジュール禁止期間は、スケジュールの実行およびスケジュール実行の設定が禁止されている日付および時間です。スケジュール禁止期間ツールへのアクセス権限を所有するユーザは、スケジュール禁止期間を表示、定義、更新、インポート、エクスポート、削除することができます。

スケジュール禁止期間を表示するには、コンソールの [表示] グループで [スケジュール禁止期間] をクリックします。[スケジュール禁止期間] インターフェースが開き、左側ウィンドウにカレンダーが表示されます。右側ウィンドウには、ユーザが管理権限を所有するスケジュール禁止日のリストが表示されます。

Web Query 管理者は、スケジュール禁止期間の追加および削除、既存スケジュール禁止期間の説明の置換、外部ファイルで定義されたスケジュール禁止期間情報のインポート、既存スケジュール禁止期間情報のファイルへのエクスポートを行えます。**Report Broker** の [スケジュール禁止期間] インターフェースでは、次の機能を使用してこれらのタスクを実行することができます。

- ❑ [スケジュール禁止日付時間] ダイアログボックス - [スケジュール禁止期間の管理] グループの [新規作成] または [編集] ボタンをクリックしてアクセスします。
- ❑ [スケジュール禁止日のインポート] ダイアログボックス - [スケジュール禁止期間の管理] グループの [インポート] ボタンをクリックしてアクセスします。
- ❑ [スケジュール禁止期間のエクスポート] - [スケジュール禁止期間の管理] グループの [エクスポート] ボタンをクリックしてアクセスします。

カレンダー上部の矢印を使用して、月または年を変更することができます。使用可能日または禁止日の日付のみが表示されます。左側ウィンドウ右上の矢印をクリックして、左側ウィンドウの表示と非表示を切り替えることができます。

参照 **スケジュール禁止期間の構成**

すべてのタイプのスケジュール禁止期間プロファイルでは、同一の基本設定 ([グループ]、[名前]、[説明]、[詳細]、[スケジュール禁止時間]) が使用されます。この基本設定下に、さまざまなスケジュール要件に適合する 4 タイプのスケジュール禁止期間があります。次のタイプがあります。

- ☐ **週単位** 指定した週および曜日にスケジュール禁止期間を繰り返し設定します。
- ☐ **月単位** 指定した月および日にスケジュール禁止期間を繰り返し設定します。
- ☐ **1 日** 指定した日付にスケジュール禁止期間を一度だけ設定します。
- ☐ **毎日** 毎日の特定の時間にスケジュール禁止期間を繰り返し設定します。

これらのプロファイルを使い分けてスケジュール禁止期間を作成し、定期的に繰り返し実行するレポート配信スケジュールに組み込んだり、レポート配信の中断が必要な日をスケジュール禁止日に設定したりすることができます。

参照 **スケジュール禁止期間の基本設定**

[スケジュール禁止日付時間] ダイアログボックスには、スケジュールを禁止する時期と頻度を定義する設定があります。このダイアログボックスで設定可能な頻度オプションは、[週単位]、[月単位]、[1 日]、[毎日] の 4 タイプです。

下表は、スケジュール禁止日付時間プロファイルの設定を示しています。

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
グループ	グループ名 (グローバル)。	グループ名を表示します (グローバル)。

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効性
名前	オプション デフォルト設定で、「スケジュール禁止 - [現在の日付] [現在の時間]」が表示されます。 たとえば、「スケジュール禁止 - 2015 年 7 月 26 日 午前 10:27」と表示されます。	スケジュール禁止日付時間プロファイルを表す名前です。 [名前] テキストボックス内をクリックして、デフォルト名を変更することができます。
説明	オプション	スケジュール禁止日付時間プロファイルの説明です。
詳細	プロファイルの作成後に割り当てられます。	スケジュール禁止期間の時期および頻度に関する詳細情報です。 この情報は、[週]、[曜日]、[月]、[日]、[スケジュール禁止時間] 設定で選択した内容の説明です。 この詳細情報は、プロファイルの保存後に自動的に作成され、プロファイルの変更後に自動的に更新されます。この詳細情報を直接作成、編集、削除することはできません。
[スケジュール禁止時間] チェックボックス	デフォルト設定では、このチェックはオフです。	チェックオン スケジュール禁止期間の対象を、[開始 (時間)] および [終了 (時間)] テキストボックスで指定した時間帯に限定します。 チェックオフ スケジュール禁止期間の対象を終日 (丸 1 日) にします。 注意: プロファイルの設定を [1 日] から別の頻度オプションに変更し、スケジュール禁止期間の対象を終日に設定する場合は、このチェックをオフにする必要があります。

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
開始 (時間)	オプション。デフォルト設定で、現在の時刻 (時間と分) が表示されます。	スケジュール禁止期間を開始する時刻です。 この値は、[スケジュール禁止時間] のチェックをオンにした場合にのみ関係します。
終了 (時間)	オプション。デフォルト設定で、現在時刻 (時間と分) の 2 時間後の時刻が表示されます。	スケジュール禁止期間を終了する時刻です。 この値は、[スケジュール禁止時間] のチェックをオンにした場合にのみ関係します。
頻度	必須。デフォルト設定では、[週単位] オプションが選択されています。	週単位 指定した週および曜日にスケジュール禁止期間を繰り返し設定します。 月単位 指定した月および日にスケジュール禁止期間を繰り返し設定します。 1 日 指定した日付にスケジュール禁止期間を一度だけ設定します。 毎日 毎日の特定の時間にスケジュール禁止期間を繰り返し設定します。

手順

スケジュール禁止期間を構成するには

スケジュール禁止期間を構成するには、次の手順を実行します。

1. リボンの [スケジュール禁止期間の管理] グループで、[新規作成] をクリックします。
[スケジュール禁止日付時間] ダイアログボックスが開きます。
2. [名前] テキストボックスで、スケジュール禁止期間プロファイルに割り当てられるデフォルト名を受容するか、別の名前を入力します。

3. [説明] テキストボックスに、スケジュール禁止期間プロファイルの説明を入力します。
4. このスケジュール禁止期間の対象を終日にする場合は、[スケジュール禁止時間] のチェックをオフにし、手順 7 へ進みます。
5. このスケジュール禁止期間の対象を 1 日の特定の時間帯にする場合は、[スケジュール禁止時間] のチェックをオンにし、スケジュール禁止期間の開始時間と終了時間を指定します。

詳細は、81 ページの「[スケジュール禁止期間の開始時間と終了時間を構成するには](#)」を参照してください。

6. 次の頻度オプションのいずれかを選択します。
 - ☐ **週単位** スケジュール禁止期間の頻度を設定します。詳細は、75 ページの「[週単位スケジュール禁止期間の構成](#)」を参照してください。
 - ☐ **月単位** スケジュール禁止期間の頻度を設定します。詳細は、78 ページの「[月単位スケジュール禁止期間の構成](#)」を参照してください。
 - ☐ **1 日** スケジュール禁止期間の日付を選択します。詳細は、80 ページの「[1 日スケジュール禁止期間の構成](#)」を参照してください。
 - ☐ **毎日** 毎日の特定の時間にスケジュール禁止期間を設定します。詳細は、80 ページの「[毎日スケジュール禁止期間の構成](#)」を参照してください。
7. 構成を確認します。
 - ☐ 日付と時間の構成が要件を満たしていない場合、[OK] ボタンをクリックすることはできません (クリック不可)。頻度オプションの選択を変更して構成を調整し、プロファイルを再設定します。
 - ☐ 構成が要件を満たしている場合、[OK] ボタンがクリック可能になり、選択した設定の詳細情報が [詳細] テキストボックスに表示されます。
8. 構成の完了後、[OK] をクリックします。

[スケジュール禁止期間] インターフェースの右側ウィンドウにスケジュール禁止期間プロファイルのエントリが表示され、左側ウィンドウのカレンダーに新しいスケジュール禁止日がハイライト表示されます。

週単位スケジュール禁止期間の構成

[週単位] の構成では、スケジュール禁止期間を特定の週および曜日に繰り返し設定します。この構成は、指定した曜日の日付に関係なく、毎週のスケジュールの一部として繰り返し設定する場合に適しています。

「週単位」という名前から「週 1 回のみ」のスケジュール禁止を連想しますが、この構成では週 1 回に限定されず、スケジュールを禁止する頻度を柔軟に設定することができます。

この構成では、次の項目を指定することができます。

☐ 曜日 (複数可) - スケジュールを禁止する曜日です。

☐ 週 (複数可) - スケジュールを禁止する週です。

☐ 月 (複数可) - スケジュールを禁止する月です。

この柔軟な構成では、スケジュール禁止期間を毎週の同一曜日に設定するだけでなく、週に 2 日以上頻度で禁止期間にすることもできます。また、この構成では、月の特定の週 (複数可) をスケジュール禁止期間の対象外にすることも、年の特定の月 (複数可) を対象外にすることもできます。

週単位スケジュール禁止期間の設定

[スケジュール禁止期間日付時間] ダイアログボックスで [週単位] オプションを選択した場合、指定した週、曜日、月に基づいてスケジュール禁止期間を設定することができます。

設定	オプションまたは必須/ デフォルト値	説明と有効値
オン [週] チェックボックス (左側の列)	必須 (この列で少なくとも 1 つを選択)	<p>一連の週番号がチェックボックスで表示されます。週のいずれかを選択すると、スケジュール禁止期間がその週に設定されます。たとえば、[第 1]、[第 2] 週を選択します。</p> <p>1 つまたは複数の週を選択することができます。</p> <p>[すべて選択] のチェックをオンにすると、すべての週が自動的に選択され、スケジュール禁止期間がすべての週に設定されます。</p>

設定	オプションまたは必須/ デフォルト値	説明と有効値
オン [曜日] チェックボックス (右側の列)	必須 (この列で少なくとも 1 つを選択)	<p>一連の曜日がチェックボックスで表示されます。曜日のいずれかを選択すると、スケジュール禁止期間がその曜日に設定されます。たとえば、[月曜]、[火曜] を選択します。</p> <p>1 つまたは複数の曜日を選択することができます。</p> <p>[すべて選択] のチェックをオンにすると、すべての曜日が自動的に選択され、スケジュール禁止期間がすべての曜日に設定されます。</p>
[月] チェックボックス	必須 (このグループで少なくとも 1 つを選択)	<p>一連の月がチェックボックスで表示されます。月のいずれかを選択すると、週単位のスケジュール禁止期間がその月に設定されます。たとえば、[1 月]、[2 月] を選択します。</p> <p>1 つまたは複数の月を選択することができます。</p> <p>[すべて選択] のチェックをオンにすると、すべての月が自動的に選択され、スケジュール禁止期間が毎月の特定の週および曜日に設定されます。</p>

手順

週単位スケジュール禁止期間設定を構成するには

週単位スケジュール禁止期間設定を構成するには、次の手順を実行します。

1. [スケジュール禁止日付時間] ダイアログボックスで、[週単位] を選択します。

ダイアログボックスに、週単位のスケジュール禁止期間を構成するためのチェックボックスが表示されます。

注意：[OK] ボタンをクリック可能にしてプロファイルを保存するには、少なくとも 1 つの週、曜日、月を選択する必要があります。

2. スケジュール禁止期間を設定する週のチェックをオンにするか、[すべて選択] のチェックをオンにしてすべての週を一括選択します。
3. スケジュール禁止期間を設定する曜日のチェックをオンにするか、[すべて選択] のチェックをオンにしてすべての曜日を一括選択します。
4. スケジュール禁止期間を設定する月のチェックをオンにするか、[すべて選択] のチェックをオンにしてすべての月を一括選択します。

月単位スケジュール禁止期間の構成

[月単位] の構成では、指定した月および日にスケジュール禁止期間を繰り返し設定します。この構成では、指定した日の曜日に関係なく、月の同一日にスケジュール禁止期間を繰り返し設定します。

「月単位」という名前から「月 1 回のみ」のスケジュール禁止を連想しますが、この構成では月 1 回に限定されず、スケジュールを禁止する頻度を柔軟に設定することができます。また、このスケジュール禁止期間を終日に設定することも、1 日の特定の時間帯に設定することもできます。

この構成では、次の項目を指定することができます。

☐ 日 (複数可) - スケジュールを禁止する日です。

☐ 月 (複数可) - スケジュールを禁止する月です。

この柔軟な構成では、スケジュール禁止期間を毎月の同一日に設定するだけでなく、月に 2 日以上頻度で禁止期間を設定することもできます。また、特定の月をスケジュール禁止期間の対象外にすることもできます。

月単位スケジュール禁止期間の設定

[スケジュール禁止期間日付時間] ダイアログボックスで [月単位] オプションを選択した場合、指定した日および月に基づいてスケジュール禁止期間を設定することができます。

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
[日] チェックボックス	必須	<p>一連の日番号がチェックボックスで表示されます。日のいずれかを選択すると、スケジュール禁止期間がその日に設定されます。たとえば、[1 日]、[2 日]、[3 日] を選択します。</p> <p>1 つまたは複数の日を選択することができます。</p> <p>[すべて選択] のチェックをオンにすると、すべての日が自動的に選択され、選択した月のすべての日にスケジュール禁止期間が設定されます。</p>
[月] チェックボックス	必須	<p>一連の月がチェックボックスで表示されます。月のいずれかを選択すると、このスケジュール禁止期間がその月に設定されます。たとえば、[1 月]、[2 月] を選択します。</p> <p>1 つまたは複数の月を選択することができます。</p> <p>[すべて選択] のチェックをオンにすると、すべての月が自動的に選択され、スケジュール禁止期間が毎月の特定の日に設定されます。</p>

手順

月単位スケジュール禁止期間設定を構成するには

月単位スケジュール禁止期間設定を構成するには、次の手順を実行します。

1. [スケジュール禁止日付時間] ダイアログボックスで、[月単位] を選択します。

[スケジュール禁止日付時間] ダイアログボックスに、月単位のスケジュール禁止期間を構成するためのチェックボックスが表示されます。

注意:少なくとも 1 つの日および月のチェックをオンにする必要があります。この要件を満たさない限り、[OK] ボタンがクリック可能にならず、プロファイルを保存することができません。

2. スケジュール禁止期間を設定する日のチェックをオンにするか、[すべて選択] のチェックをオンにしてすべての日を一括選択します。
3. スケジュール禁止期間を設定する月のチェックをオンにするか、[すべて選択] のチェックをオンにしてすべての月を一括選択します。

1 日スケジュール禁止期間の構成

[1 日] の構成では、指定した日付にスケジュール禁止期間を 1 日だけ設定します。また、このスケジュール禁止期間を終日に設定することも、1 日の特定の時間帯に設定することもできます。

1 日スケジュール禁止期間の設定

[スケジュール禁止期間日付時間] ダイアログボックスで [1 日] オプションを選択した場合、スケジュール禁止期間カレンダーのコピーが表示され、指定した日付に基づいてスケジュール禁止期間を設定することができます。

手順

1 日スケジュール禁止期間設定を構成するには

1. [スケジュール禁止日付時間] ダイアログボックスで、[1 日] を選択します。
ダイアログボックスに表示されるカレンダーの日付は、現在の日付に自動的に設定されます。
2. 月を変更するには一重矢印をクリックし、年を変更するには二重矢印をクリックします。
3. 1 日スケジュール禁止期間に設定する年月を特定した後、スケジュール禁止日にする日付をクリックします。
カレンダーで新しい日付がハイライト表示されます。

毎日スケジュール禁止期間の構成

[毎日] の構成では、スケジュール禁止期間を毎日に設定します。[毎日] スケジュール禁止期間の設定によりレポートのスケジュール実行が妨害されないよう、禁止期間を特定の時間帯に限定する必要があります。

毎日スケジュール禁止期間の設定

[スケジュール禁止期間日付時間] ダイアログボックスで [毎日] オプションを選択した場合、[開始] および [終了] テキストボックスのみが表示され、毎日の特定の時間帯にスケジュール禁止期間を設定することができます。それ以外のオプションは関係しません。

手順

毎日スケジュール禁止期間設定を構成するには

1. [スケジュール禁止日付時間] ダイアログボックスで、[毎日] を選択します。
[スケジュール禁止時間] のチェックが自動的にオンになり、開始時間と終了時間の選択を指示するメッセージが表示されます。
開始時間は現在時間に自動的に設定され、終了時間は開始時間の 2 時間後に自動的に設定されます。
2. 開始時間と終了時間の値を変更する場合は、81 ページの「[スケジュール禁止期間の開始時間と終了時間を構成するには](#)」を参照してください。

手順

スケジュール禁止期間の開始時間と終了時間を構成するには

[スケジュール禁止日付時間] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。

1. 開始時間の時間要素を変更するには、[開始] テキストボックスの時間セクションをクリックします。
 - a. 上下の矢印をクリックして、時間単位で値を増減します。
 - b. このセクションに時間を直接入力することもできますが、入力範囲が 12 時間である点に注意してください。この範囲を超える値を入力すると、12 時間形式で値が自動的に計算されます。たとえば、「44」と入力すると「8」になります。 $(44 - (12 \times 3)) = (44 - 36) = 8$
 - c. 開始時間が終了時間より前になるように入力します。
2. 開始時間の分要素を変更するには、[開始] テキストボックスの分セクションをクリックします。
 - a. 上下の矢印をクリックして、分単位で値を増減します。
 - b. このセクションに分を直接入力することもできますが、入力範囲が 60 分である点に注意してください。この範囲を超える値を入力すると、60 分形式で値が自動的に計算されます。たとえば、「88」と入力すると「28」になります。 $(88 - 60 = 28)$
 - c. 開始時間が終了時間より前になるように入力します。

3. 開始時間の午前と午後を切り替えるには、[開始] テキストボックスの午前/午後セクションをクリックします。
 - a. 上向き矢印をクリックして、午前を午後に変更します。
 - b. 下向き矢印をクリックして、午後を午前に変更します。
 - c. このセクションに「午前」または「午後」を直接入力することもできます。
4. 終了時間の時間要素を変更するには、[終了] テキストボックスの時間セクションをクリックします。
 - a. 上下の矢印をクリックして、時間単位で値を増減します。
 - b. このセクションに時間を直接入力することもできますが、入力範囲が 12 時間である点に注意してください。この範囲を超える値を入力すると、12 時間形式で値が自動的に計算されます。たとえば、「44」と入力すると「8」になります。 $(44 - (12 \times 3)) = (44 - 36) = 8$
 - c. 終了時間が開始時間より後になるように入力します。
5. 終了時間の分要素を変更するには、[終了] テキストボックスの分セクションをクリックします。
 - a. 上下の矢印をクリックして、分単位で値を増減します。
 - b. このセクションに分を直接入力することもできますが、入力範囲が 60 分である点に注意してください。この範囲を超える値を入力すると、60 分形式で値が自動的に計算されます。たとえば、「88」と入力すると「28」になります。 $(88 - 60 = 28)$
 - c. 終了時間が開始時間より後になるように入力します。
6. 終了時間の午前と午後を切り替えるには、[終了] テキストボックスの午前/午後セクションをクリックします。
 - a. 上向き矢印をクリックして、午前を午後に変更します。
 - b. 下向き矢印をクリックして、午後を午前に変更します。
 - c. このセクションに「午前」または「午後」を直接入力することもできます。

注意：[開始] および [終了] テキストボックスの [時間]、[分]、[午前/午後] セクションを左右に移動するには、キーボードの左矢印キーおよび右矢印キーを使用します。

これらのセクションを Tab キーで移動しようとする、[開始] および [終了] テキストボックスのセクション間を左右に移動する代わりに、下方向に移動して次のオプションが選択されます。

たとえば、Tab キーを使用して [開始] テキストボックスの時間セクションから移動しようとする、[開始] テキストボックスの分セクションではなく、[終了] テキストボックスの時間セクションに移動します。右へ移動するには、キーボードの右矢印キーを使用します。

同様に、Shift+Tab キーを使用すると、[開始] または [終了] テキストボックス内の 1 つ前のセクションに戻るのではなく、1 つ前のオプションに移動します。左へ移動するには、キーボードの左矢印キーを使用します。

手順

スケジュール禁止期間プロファイルを削除するには

1. [スケジュール禁止期間] インターフェースの左側ウィンドウで、削除するスケジュール禁止期間プロファイルの割り当て先グループのフォルダをクリックします。
2. 右側ウィンドウで、削除するスケジュール禁止期間プロファイルのエントリをクリックします。
3. リボンの [スケジュール禁止期間の管理] グループで、[削除] をクリックします。
4. 確認メッセージで [はい] をクリックします。

削除したエントリが右側ウィンドウから除外され、そのエントリに割り当てられていた日付のハイライト表示が左側ウィンドウのスケジュール禁止期間カレンダーから消去されます。

スケジュール禁止期間のインポート

スケジュール禁止期間の [インポート] 機能を使用して、スケジュール禁止期間の管理タスクを一括処理することができます。このツールでは、正しくフォーマットされたインポートファイルを使用して次のことを行えます。

- ☐ 新しいスケジュール禁止期間プロファイルを作成する。
- ☐ スケジュール禁止期間プロファイルを削除する。
- ☐ スケジュール禁止期間情報を置換する。
- ☐ インポートファイルで指定された操作を実行する。

インポートソースファイルには、スケジュール禁止期間プロファイルに関する次の情報を記述します。

- ☐ **日付** スケジュール禁止期間プロファイルを有効にする日付です。[毎日] スケジュール禁止期間プロファイルを作成する場合は、この日付を省略することができます。
- ☐ **開始時間** スケジュール禁止期間を有効にする時間 (HH:MM:SS) です。[毎日] スケジュール禁止期間プロファイルの場合を除き、この値は必要に応じて指定します。

- ❑ **終了時間** スケジュール禁止期間を無効にする時間 (HH:MM:SS) です。[毎日] スケジュール禁止期間プロファイルの場合を除き、この値は必要に応じて指定します。
- ❑ **説明** スケジュール禁止期間プロファイルの説明です。
- ❑ **名前** スケジュール禁止期間プロファイルに割り当てて一意の名前です。

注意: [週単位] および [月単位] スケジュール禁止期間プロファイルの場合、これらのエントリの前に追加コードを記述します。詳細は、85 ページの「[週単位スケジュール禁止期間インポートファイルのエントリレイアウト](#)」および 86 ページの「[月単位スケジュール禁止期間インポートファイルのエントリレイアウト](#)」を参照してください。

Report Broker がインポートソースファイルの情報をどのように処理するかは、インポート機能の実行時に選択したタスクに基づいて決定されます。

次のタスクがあります。

- ❑ **追加** - インポートファイルのレコードからスケジュール禁止期間プロファイルを作成します。
- ❑ **削除** - インポートファイルのレコードの日付および追加情報と、既存スケジュール禁止期間プロファイルの日付および追加情報を比較し、インポートファイルのレコードに一致するプロファイルを削除します。
- ❑ **置換** - インポートファイルのレコードの日付情報と、既存スケジュール禁止期間プロファイルの日付情報を比較し、名前および説明の情報をプロファイルに追加します。
- ❑ **ファイル内の実行オプションを使用** - インポートファイルに記述されたコマンドと、これらのコマンドの影響を受けるスケジュール禁止期間プロファイルのエントリに基づいて、追加、削除、置換を実行します。

運用上の変更により (例、月、四半期、年に一度のスケジュール変更)、レポート実行のスケジュールを全面的に見直す場合、これらのタスクを一括処理することで、スケジュール禁止期間プロファイルを手動で作成、更新、削除する手間を簡素化することができます。

たとえば、次の年のレポート実行のスケジュールに休日を組み込む場合、すべての休日の日付と名前を記述したファイルを用意します。スケジュール禁止期間のインポート機能を使用して、そのファイルをインポートし、1 年間の休日スケジュール禁止日を 1 回の処理で設定することができます。インポート機能を使用しない場合、次の年の休日ごとに [1 日] スケジュール禁止期間プロファイルを作成する必要があります。

スケジュール禁止期間インポートファイルフォーマット

インポートファイルフォーマットでは、スケジュール禁止期間レコードの各エントリに同一の基本構造が使用されますが、プロファイルタイプごとに若干の相違点があります。この相違点に基づいて、エントリの詳細情報から作成されるスケジュール禁止期間プロファイルのタイプが識別されます。

1 日スケジュール禁止期間インポートファイルのエントリレイアウト

[1 日] スケジュール禁止期間プロファイルは、各プロファイルの情報をそれぞれ別の行に記述した Flat File からインポートすることができます。各行は、次のレイアウトに準拠する必要があります。

以下はその例です。

```
#Schedule Blackout Date Extract created 161004 102629 by admin
#for date range:(All)
#Dates Extracted from Group: administrators
##BLACKOUT DATE: yyyyMMdd/HH:mm:ss|HH:mm:ss description|name
##BLACKOUT TIME: /HH:mm:ss|HH:mm:ss description|name
##BLACKOUT PATTERN: [101000000000/0000000000000000000000000000001]/
HH:mm:ss|HH:mm:ss description|name
##BLACKOUT PATTERN: [101000000000/00001:0001000]/HH:mm:ss|HH:mm:ss
description|name
[000001000000/01000:0000100]/11:44:00|15:44:00 Administrators February 4,
2016|Blackout-Feb 4 2016 11:25 AM
```

- ❑ 日付には YYYYMMDD フォーマットを使用します。
- ❑ 時間には HH:MM:SS フォーマットを使用します。
- ❑ スケジュール禁止時間が終日の場合は、時間要素を省略することができます。

[週単位]、[月単位]、[毎日] スケジュール禁止期間プロファイルでは、このフォーマットと若干異なるフォーマットが使用されます。

週単位スケジュール禁止期間インポートファイルのエントリレイアウト

[週単位] スケジュール禁止期間プロファイルは、各プロファイルの情報をそれぞれ別の行に記述した Flat File からインポートすることができます。各行は、次のレイアウトに準拠する必要があります。

```
[Blackout Pattern] [Description] |[Name]
```

以下はその例です。

```
[111111111111/10000:0000010]/17:00:00|23:59:00 Report Blackout First Friday
of Every Month 5:00 PM to 11:59 PM|First Friday Afternoons
```

この情報で [週単位] スケジュール禁止期間のエントリであることを識別します。この情報には、説明および名前も含まれています。禁止期間パターン (Blackout Pattern) は、選択された月および曜日を示します。「1」は、月または曜日が選択されていることを示します。「0」は、月または曜日が選択されていないことを示します。

月単位スケジュール禁止期間インポートファイルのエントリレイアウト

[月単位] スケジュール禁止期間プロファイルは、各プロファイルの情報をそれぞれ別の行に記述した Flat File からインポートすることができます。各行は、次のレイアウトに準拠する必要があります。

```
[Blackout Pattern]/[Start Hour]|[End Hour] [Description]|[Name]
```

以下はその例です。

```
[111111111111/10000:0000010]/17:00:00|23:59:00 Report Blackout First Friday  
of Every Month 5:00 PM to 11:59 PM|First Friday Afternoons
```

この情報で [月単位] スケジュール禁止期間のエントリであることを識別します。この情報には、エントリの説明および名前も含まれています。禁止期間パターン (Blackout Pattern) は、選択された月および日を示します。「1」は、月または曜日が選択されていることを示します。「0」は、月または曜日が選択されていないことを示します。

毎日スケジュール禁止期間インポートファイルのエントリレイアウト

[毎日] スケジュール禁止期間プロファイルは、各プロファイルの情報をそれぞれ別の行に記述した Flat File からインポートすることができます。各行は、次のレイアウトに準拠する必要があります。

```
/[Start Hour]|[End Hour] [Description]|[Name]
```

以下はその例です。

```
/21:04:00|23:04:00 Every Day Blackout between 3:00 PM and Midnight|Daily  
Afternoon Blackout
```

この情報で [毎日] スケジュール禁止期間のエントリであることを識別します。この情報には、エントリの説明および名前も含まれています。

手順 インポートファイルを使用してスケジュール禁止期間プロファイルを追加するには

インポート機能を使用してスケジュール禁止期間プロファイルを追加する方法では、インポートファイルの情報から新しいスケジュール禁止期間プロファイルが作成されます。そのため、インポートファイルには、インポート機能で Report Broker に追加するスケジュール禁止期間プロファイルすべてのレコードを記述する必要があります。

1. [スケジュール禁止期間] インターフェースで、スケジュール禁止期間プロファイルをインポートするグループを選択します。
2. リボンの [スケジュール禁止期間の管理] グループで、[インポート] をクリックします。

[スケジュール禁止日のインポート] ダイアログボックスが開きます。

3. [ファイル名] テキストボックスで、ファイルのフルパスを入力するか、[参照] (または [ファイルを選択]) ボタンをクリックし、インポートするファイルを選択します。

注意：このダイアログボックスを Internet Explorer で表示した場合、[ファイル名] テキストボックスの右側に [参照] ボタンが表示され、テキストボックスにテキストは表示されません。このダイアログボックスを Google Chrome で表示した場合、[ファイル名] テキストボックスの左側に [ファイルを選択] ボタンが表示され、テキストボックスの左側に「選択されていません」というテキストが表示されます。このダイアログボックスを Firefox で表示した場合、[ファイル名] テキストボックスの左側に [参照] ボタンが表示され、テキストボックスに「ファイルが選択されていません。」というテキストが表示されます。

4. [ファイル名] テキストボックスで、ファイルのフルパスを入力するか、[参照] ボタンをクリックし、インポートするファイルを選択します。
5. [追加] を選択し、[OK] をクリックします。

[スケジュール禁止データのインポート] ダイアログボックスが開き、インポートファイルの各エントリに基づいて、新しいスケジュール禁止期間プロファイルの詳細が表示されます。

6. [追加] をクリックして、[スケジュール禁止データのインポート] ダイアログボックスの新しいスケジュール禁止期間プロファイルをスケジュール禁止日カレンダーおよびグループエントリに追加します。

スケジュール禁止期間が正しくインポートされたことを示すメッセージが表示されます。

7. [OK] をクリックします。

[スケジュール禁止期間] インターフェースの左側ウィンドウで、インポートしたスケジュール禁止期間プロファイルの日付がスケジュール禁止日カレンダーでハイライト表示され、右側ウィンドウに新しいスケジュール禁止期間プロファイルが表示されます。

手順 インポートファイルを使用してスケジュール禁止期間を置換するには

インポート機能を使用してスケジュール禁止期間プロファイルを置換する方法では、プロファイルの名前および説明の更新情報が追加されます。指定したプロファイルをインポート処理で正しく更新するには、更新する既存スケジュール禁止期間プロファイルの日付に一致する日付レコードをインポートファイルに含める必要があります。

1. [スケジュール禁止期間] インターフェースの左側ウィンドウで、スケジュール禁止期間プロファイルをインポートするグループを選択します。
2. リボンの [スケジュール禁止期間の管理] グループで、[インポート] をクリックします。

[スケジュール禁止日のインポート] ダイアログボックスが開きます。

3. [ファイル名] テキストボックスで、ファイルのフルパスを入力するか、[参照] (または [ファイルを選択]) ボタンをクリックし、インポートするファイルを選択します。

注意： Internet Explorer で表示した場合、ダイアログボックスの [ファイル名] テキストボックス右側に [参照] ボタンが表示され、テキストボックスにテキストは表示されません。このダイアログボックスを Google Chrome で表示した場合、[ファイル名] テキストボックスの左側に [ファイルを選択] ボタンが表示され、テキストボックスの左側に「選択されていません」というテキストが表示されます。このダイアログボックスを Firefox で表示した場合、[ファイル名] テキストボックスの左側に [参照] ボタンが表示され、テキストボックスに「ファイルが選択されていません。」というテキストが表示されます。

4. [置換] を選択し、[OK] をクリックします。

[スケジュール禁止日データのインポート] ダイアログボックスが開き、既存のスケジュール禁止期間プロファイルに追加される、インポートファイルの各エントリの詳細が表示されます。

5. [置換] をクリックして、[スケジュール禁止データのインポート] ダイアログボックスに表示された新しい情報を、指定されたスケジュール禁止期間プロファイルに追加します。

スケジュール禁止期間が正しくインポートされたことを示すメッセージが表示されます。

6. [OK] をクリックします。

更新されたスケジュール禁止期間プロファイルのエントリが右側ウィンドウに表示されます。

手順

インポートファイルを使用してスケジュール禁止期間プロファイルを削除するには

インポート機能を使用してスケジュール禁止期間プロファイルを削除すると、そのプロファイルが除外されます。指定したプロファイルをインポート機能で正しく削除するには、削除する既存スケジュール禁止期間プロファイルの日付に一致する日付レコードをインポートファイルに含める必要があります。

1. [スケジュール禁止期間] インターフェースで、削除するスケジュール禁止期間プロファイルが存在するグループを選択します。
2. リボンの [スケジュール禁止期間の管理] グループで、[インポート] をクリックします。

[スケジュール禁止日のインポート] ダイアログボックスが開きます。

3. [ファイル名] テキストボックスで、ファイルのフルパスを入力するか、[参照] (または [ファイルを選択]) ボタンをクリックし、インポートするファイルを選択します。

注意：Internet Explorer で表示した場合、ダイアログボックスの [ファイル名] テキストボックス右側に [参照] ボタンが表示され、テキストボックスにテキストは表示されません。このダイアログボックスを Google Chrome で表示した場合、[ファイル名] テキストボックスの左側に [ファイルを選択] ボタンが表示され、テキストボックスの左側に「選択されていません」というテキストが表示されます。このダイアログボックスを Firefox で表示した場合、[ファイル名] テキストボックスの左側に [参照] ボタンが表示され、テキストボックスに「ファイルが選択されていません。」というテキストが表示されます。

4. [削除] を選択し、[OK] をクリックします。

[スケジュール禁止日データのインポート] ダイアログボックスが開き、既存のスケジュール禁止期間プロファイルに一致する、インポートファイルの各エントリの詳細が表示されます。

5. [削除] をクリックして、[スケジュール禁止日データのインポート] ダイアログボックスに表示されたスケジュール禁止期間プロファイルを削除します。

スケジュール禁止日が正しくインポートされたことを示すメッセージが表示されます。

6. [OK] をクリックします。

この機能でスケジュール禁止期間プロファイルが削除されると、[スケジュール禁止期間] インターフェースの左側ウィンドウでカレンダーのスケジュール禁止日のハイライト表示が消去され、右側ウィンドウでスケジュール禁止期間プロファイルのエントリが除外されます。

手順 インポートファイルを使用して複数のスケジュール禁止期間を管理するには

[ファイル内の実行オプションを使用] オプションを使用して、複数のスケジュール禁止期間プロファイルを追加、削除、または置換するインポートプロセスを単一処理で実行することができます。そのため、インポートファイルには、必要なコマンドをすべて記述し、続いてインポート処理で追加、削除、または置換するスケジュール禁止期間プロファイルのエントリを記述する必要があります。

1. [スケジュール禁止期間] インターフェースの左側ウィンドウで、スケジュール禁止期間プロファイルを管理するグループを選択します。
2. リボンの [スケジュール禁止期間の管理] グループで、[インポート] をクリックします。

[スケジュール禁止日のインポート] ダイアログボックスが開きます。

3. [ファイル名] テキストボックスで、ファイルのフルパスを入力するか、[参照] (または [ファイルを選択]) ボタンをクリックし、インポートするファイルを選択します。

注意：Internet Explorer で表示した場合、ダイアログボックスの [ファイル名] テキストボックス右側に [参照] ボタンが表示され、テキストボックスにテキストは表示されません。このダイアログボックスを Google Chrome で表示した場合、[ファイル名] テキストボックスの左側に [ファイルを選択] ボタンが表示され、テキストボックスの左側に「選択されていません」というテキストが表示されます。このダイアログボックスを Firefox で表示した場合、[ファイル名] テキストボックスの左側に [参照] ボタンが表示され、テキストボックスに「ファイルが選択されていません。」というテキストが表示されます。

4. [ファイル内の実行オプションを使用] を選択し、[OK] をクリックします。

[スケジュール禁止日データのインポート] ダイアログボックスが開き、インポートファイルの各エントリの詳細、および更新される情報についての注記が表示されます。

5. [OK] をクリックします。
6. 「スケジュール禁止日がインポートされました」というメッセージで、[OK] をクリックします。

[スケジュール禁止期間] インターフェースの左側ウィンドウのカレンダーで、インポートしたスケジュール禁止期間の日付がハイライト表示されます。新しいスケジュール禁止期間プロファイルおよび更新されたプロファイルのエントリが右側ウィンドウに表示されます。インポート処理でプロファイルが削除された場合、カレンダーでその日付のハイライト表示が消去され、エントリも除外されます。

注意：ファイルを直接インポートする方法でスケジュール禁止期間プロファイルを更新した場合、[編集] コマンドは使用不可になります。これらのプロファイルを更新するには、[インポート] 機能の [置換] オプションを使用する必要があります。

スケジュール禁止期間プロファイルのエクスポート

Report Broker ステータスから既存のスケジュール禁止期間プロファイル情報をテキストファイル (.txt) にエクスポートすることができます。

ファイルを直接エクスポートすることで、複数のスケジュール禁止期間に関する情報をテキストファイルに移動する時間が節約されます。また、エクスポートしたファイルをスケジュール禁止日カレンダーのバックアップとして保持したり、外部システムにインポートするソースファイルとして使用し、レポート作成や監査に活用したりすることも可能です。

たとえば、次の 6 か月間のスケジュール禁止日に関するバックアップコピーが必要な場合、エクスポート機能を使用して、その 6 か月間を対象としたスケジュール禁止期間すべての日付、名前、説明をテキストファイルに移動することができます。これらのプロファイルが必要になった際にバックアップファイルから基本情報を再現すると、レポートスケジュールの再作成に要する時間が短縮されます。

ファイルフォーマットのエクスポート

ファイルの [インポート] および [エクスポート] 機能では、レイアウトおよびフォーマットに関して同一の規則が適用されます。エクスポートファイルに含まれる追加情報として、エクスポートの対象として選択した日付範囲、およびファイル内のエントリのフォーマットを表すテンプレートがあります。

各エントリタイプのレイアウトについての詳細は、85 ページの「[スケジュール禁止期間インポートファイルフォーマット](#)」を参照してください。

手順 **スケジュール禁止期間プロファイルをファイルにエクスポートするには**

スケジュール禁止期間プロファイルをファイルにエクスポートするには、次の手順を実行します。

1. [スケジュール禁止期間] インターフェースで、スケジュール禁止期間プロファイルをエクスポートするグループを選択します。
2. リボンの [スケジュール禁止期間の管理] グループで、[エクスポート] をクリックします。

[スケジュール禁止期間のエクスポート] ダイアログボックスが開きます。ダイアログボックスの上部に、スケジュール禁止期間プロファイルのエクスポート元となるグループ名が表示されます。

3. [単一日付の範囲オプション] で次のいずれかを選択します。

☐ [すべて] を選択して、現在保存されているスケジュール禁止期間プロファイルをすべてエクスポートします。

- ❑ [日付範囲] を選択して、指定した日付範囲に該当するスケジュール禁止期間プロファイルのみをエクスポートします。

[日付範囲] を選択した場合、[開始日] および [終了日] を入力または選択します。日付を選択するには、テキストボックス横の下向き矢印をクリックします。カレンダーから日付を選択することができます。

4. [OK] をクリックします。
5. ファイルを開くには、ブラウザから提示される [開く] ボタンをクリックします。

ウィンドウが開き、エクスポートしたプロファイルの内容が表示されます。

ファイルを保存し、ウィンドウを閉じるには、[ファイル] メニューのコマンドを使用します。

6. エクスポートファイルの自動ダウンロードを受容するには、[保存] ボタンをクリックします (Google Chrome では、新規ファイル名が表示されたページを閉じるのみ)。

ダウンロードしたファイルは、後からユーザのコンピュータの [ダウンロード] フォルダから開くことができます。また、ファイルの名前を変更したり、アーカイブ目的でファイルを別のフォルダにコピーしたりすることも可能です。

7. ファイルの名前を変更し、別のフォルダに保存するには、[開く] または [プログラムで開く] をクリックしてファイルを開き、[名前を付けて保存] コマンドを使用します。
8. [名前を付けて保存] ダイアログボックスで、ファイルの保存先フォルダに移動し、名前を変更した上で [保存] をクリックします。

ダウンロード時にブランクの Web ページが開いた場合は、ファイルの保存後にその Web ページも閉じます。

注意：デフォルトのエクスポートファイル名は、
`rcbdextract_GroupName_YYMMDD_HHMMSS.txt` です。ここで、GroupName は禁止日のエクスポート元のグループ名、YYMMDD および HHMMSS はファイルが作成された日付 (年、月、日) および時間 (時、分、秒) をそれぞれ表します。

グローバル更新

権限を所有するユーザは、スケジュールおよび配信リストに格納される値をグローバルに更新することができます。[グローバル更新] インターフェースで更新可能な設定には、次のものがあります。

- ❑ メールサーバ
- ❑ FTP サーバ

- ☐ プリンタ
- ☐ Email アドレス
- ☐ Email 送信者
- ☐ データサーバ
- ☐ 通知タイプ
- ☐ 通知返信 Email アドレス
- ☐ 通知件名
- ☐ 通知簡易メッセージの宛先
- ☐ 通知詳細メッセージの宛先

手順 メールサーバをグローバル更新するには

1. [グローバル更新] ダイアログボックスで、[設定] ドロップダウンリストから [メールサーバ] (デフォルト) を選択します。
2. [古い値] テキストボックスに、既存のメールサーバを入力します。
3. [新しい値] テキストボックスに、新しいメールサーバを入力します。
4. [更新] をクリックして、スケジュールおよび配信リストで使用するメールサーバを新しい値に更新します。

手順 FTP サーバをグローバル更新するには

1. [グローバル更新] ダイアログボックスで、[設定] ドロップダウンリストから [FTP サーバ] を選択します。
2. [古い値] テキストボックスに、既存の FTP サーバを入力します。
3. [新しい値] テキストボックスに、新しい FTP サーバを入力します。
4. [更新] をクリックして、スケジュールおよび配信リストで使用する FTP サーバを新しい値に更新します。

手順 プリンタをグローバル更新するには

1. [グローバル更新] ダイアログボックスで、[設定] ドロップダウンリストから [プリンタ] を選択します。
2. [古い値] テキストボックスに、既存のプリンタを入力します。

3. [新しい値] テキストボックスに、新しいプリンタを入力します。
4. [更新] をクリックして、スケジュールおよび配信リストで使用するプリンタを新しい値に更新します。

手順 **Email アドレスをグローバル更新するには**

1. [グローバル更新] ダイアログボックスで、[設定] ドロップダウンリストから [Email アドレス] を選択します。
2. [古い値] テキストボックスに、既存の Email アドレスを入力します。
3. [新しい値] テキストボックスに、新しい Email アドレスを入力します。
4. [更新] をクリックして、スケジュールおよび配信リストで使用する Email アドレスを新しい値に更新します。

手順 **Email 送信者をグローバル更新するには**

1. [グローバル更新] ダイアログボックスで、[設定] ドロップダウンリストから [Email 送信者] を選択します。
2. [古い値] テキストボックスに、既存の Email 送信者を入力します。
3. [新しい値] テキストボックスに、新しい Email 送信者を入力します。
4. [更新] をクリックして、スケジュールおよび配信リストで使用する Email 送信者を新しい値に更新します。

手順 **データサーバをグローバル更新するには**

1. [グローバル更新] ダイアログボックスで、[設定] ドロップダウンリストから [データサーバ] を選択します。
2. [古い値] テキストボックスに、既存のデータサーバを入力します。
3. [新しい値] テキストボックスに、新しいデータサーバを入力します。
4. [更新] をクリックして、スケジュールおよび配信リストで使用するデータサーバを新しい値に更新します。

手順 **通知タイプをグローバル更新するには**

1. [グローバル更新] ダイアログボックスで、[設定] ドロップダウンリストから [通知タイプ] を選択します。

[通知タイプ] には、次のオプションがあります。

- ☐ **なし** Report Broker からスケジュールステータスの通知が送信されることはありません。これがデフォルト値です。
- ☐ **常に通知** スケジュールを実行するたびに、通知を送信します。
- ☐ **エラー時** スケジュールの実行時にエラーが発生したときのみ、通知を送信します。
詳細は、163 ページの「[ベーシックスケジュールツールの通知オプション](#)」を参照してください。

2. [古い値] ドロップダウンリストから、既存の値を選択します。
3. [新しい値] ドロップダウンリストから、新しい値を選択します。
[古い値] ドロップダウンリストから [なし] を選択した場合、追加のテキストボックスとして [返信 Email アドレス]、[件名]、[通知簡易メッセージの宛先]、[通知詳細メッセージの宛先] が表示されます。各テキストボックスに、必要な値を入力します。
4. [更新] をクリックして、スケジュールおよび配信リストで使用する通知タイプを新しい値に更新します。

手順 通知返信 Email アドレスをグローバル更新するには

1. [グローバル更新] ダイアログボックスで、[設定] ドロップダウンリストから [通知返信 Email アドレス] を選択します。
2. [古い値] テキストボックスに、既存の通知返信 Email アドレスを入力します。
3. [新しい値] テキストボックスに、新しい通知返信 Email アドレスを入力します。
4. [更新] をクリックして、スケジュールおよび配信リストで使用する通知返信 Email アドレスを新しい値に更新します。

手順 通知件名をグローバル更新するには

1. [グローバル更新] ダイアログボックスで、[設定] ドロップダウンリストから [通知件名] を選択します。
2. [古い値] テキストボックスに、既存の通知件名を入力します。
3. [新しい値] テキストボックスに、新しい通知件名を入力します。
4. [更新] をクリックして、スケジュールおよび配信リストで使用する通知件名を新しい値に更新します。

手順 通知簡易メッセージの宛先をグローバル更新するには

1. [グローバル更新] ダイアログボックスで、[設定] ドロップダウンリストから [通知簡易メッセージの宛先] を選択します。
2. [古い値] テキストボックスに、既存の通知簡易メッセージ宛先を入力します。
3. [新しい値] テキストボックスに、新しい通知簡易メッセージ宛先を入力します。
4. [更新] をクリックして、スケジュールおよび配信リストで使用する通知簡易メッセージの宛先を新しい値に更新します。

手順 通知詳細メッセージの宛先をグローバル更新するには

1. [グローバル更新] ダイアログボックスで、[設定] ドロップダウンリストから [通知詳細メッセージの宛先] を選択します。
2. [古い値] テキストボックスに、既存の通知詳細メッセージ宛先を入力します。
3. [新しい値] テキストボックスに、新しい通知詳細メッセージ宛先を入力します。
4. [更新] をクリックして、スケジュールおよび配信リストで使用する通知詳細メッセージの宛先を新しい値に更新します。

3

配信リストの作成と保守

配信リストを作成しておくと、スケジュールの受信者を個別に入力する代わりに、リポ
ジトリに格納されている受信者リストを指定することができるため、複数の受信者への
配信が簡単になります。配信リストを別のユーザが使用できるようにするには、配信リ
ストを共有するか、このオーナーシップを「パブリック」または「公開済み」に変更し
ます。

トピックス

- ❑ [配信リストの作成](#)
 - ❑ [配信リストの編集と削除](#)
 - ❑ [レポートのバースト](#)
 - ❑ [複数 Email アドレスの指定](#)
-

配信リストの作成

配信リストを使用すると、スケジュールに受信者を個別に入力する代わりに、受信者を列挙し
たリストを選択することで、複数の受信者にコンテンツを簡単に配信することが可能になりま
す。

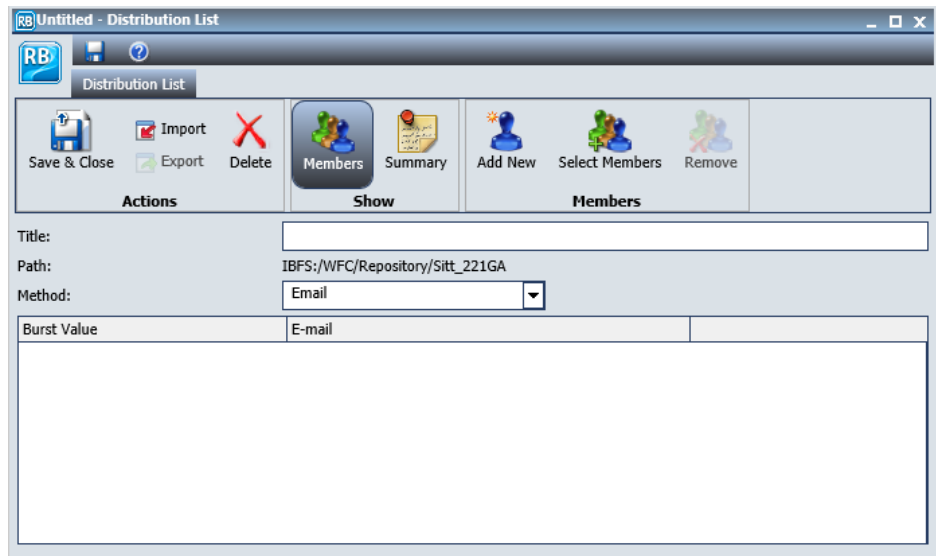
配信リストの作成前に、配信リストへのアクセスが必要なグループおよびユーザを検討した上
で、配信リストの作成先フォルダを決定してください。

手順

配信リストを作成するには

1. ワークスペースをクリックします。アクションバーで、[その他] ボタンをクリックする
と、[配信リスト] ボタンが表示されます。
2. [配信リスト] ボタンをクリックします。

下図のように、[配信リスト] ダイアログボックスが開きます。



3. [タイトル] テキストボックスに、配信リストの記述名を入力します。
4. [方法] ドロップダウンリストから、配信リストの配信方法を選択します。デフォルト設定の配信方法は、[Email] です。

❑ [Email] を選択する場合は、Email アドレスリストを入力する必要があります。また、必要に応じて、Email アドレスに関連付けられたバースト値も入力します。バースト値の入力についての詳細は、101 ページの「[レポートのバースト](#)」を参照してください。

[追加] ボタンをクリックし、[Email アドレス] テキストボックスで、受信者の Email アドレスを指定します (例、個別ユーザの場合は「chuck_hill@ibi.com」、複数 Email アドレスが格納されたメールサーバリストの場合は「#sales@ibi.com」)。確認機能がないため、正確に入力してください。指定可能な Email アドレスの最大値は 9999 です。1 つのアドレス行には、最大 800 バイトの文字を指定することができます。

[Email アドレス] テキストボックスには、複数の Email アドレスを入力することができます。詳細は、106 ページの「[複数 Email アドレスの指定](#)」を参照してください。

Report Broker ステータスの [許可する Email ドメインとアドレス] ダイアログボックスで [入力をこのリストに制限する] のチェックがオンになっている場合、Email アドレスの入力は、許可する Email ドメインとアドレスのリストに制限されます。

- ❑ [FTP] を選択する場合、レポートを保持する FTP ファイル名を拡張子も含めて指定する必要があります。また、必要に応じて、FTP ファイルに関連付けられたバースト値も指定します。

ここで指定する拡張子は、スケジュールの作成時に選択するフォーマットに対応する必要があります。たとえば、Windows プラットフォームで Excel または EXL2K を指定した場合、ファイルは、`drive:¥directory¥filename.xls` にする必要があります。配信リストで指定可能な FTP ファイルの最大値は 9999 です。

任意のプラットフォームから z/OS UNIX への CSS (カスケードスタイルシート) ファイルの転送に FTP を使用する場合、z/OS UNIX の `httpd.conf` ファイルで CSS ファイルのデフォルト MIME タイプが 8 ビットに指定されているときは、CSS ファイルはバイナリモードで転送する必要があります。

- ❑ プリンタを選択する場合は、配信リストを受信するプリンタを指定する必要があります。また、必要に応じて、プリンタに関連付けるバースト値も指定します。バースト値の入力についての詳細は、101 ページの「[レポートのバースト](#)」を参照してください。

[プリンタ] テキストボックスで、次のフォーマットを使用してプリンタを指定します。

`queue@printserver`

説明

`queue`

プリンタキュー名です。

`printserver`

プリンタのホスト名または IP アドレスです。

Report Broker では、プリンタサーバのみ (ホスト名または IP アドレス) の指定がサポートされますが、プリンタキューおよびプリンタサーバの両方を指定することをお勧めします。Report Broker では、プリンタキューとプリンタサーバは「@」の有無で区別されます。

5. [追加] ボタンをクリックします。

[新規メンバーの追加] ダイアログボックスが表示されます。

6. [バースト値]、[パターン]、[FTP パス] または [Email アドレス] テキストボックスに値を入力します。
7. 必要に応じて、[メンバーの選択] ボタンをクリックし、アドレス帳からメンバーを追加します。

8. 配信リストの作成が完了したところで、[保存して閉じる] をクリックします。

注意

- ❑ ファイルのタイトル値の最大長は 256 バイトです。
- ❑ ファイルのタイトルがフォルダ内の既存ファイルと同一名の場合、既存ファイルを置き換えるかどうかのメッセージが表示されます。

配信リストの編集と削除

配信リストツールへのアクセスが許可されている場合、所有する配信リストを表示、編集することができます。配信リストがグループにより所有されている場合、または公開済みの場合は、その配信リストの編集権限が必要です。

手順

配信リストを編集するには

1. ホームページで、編集する配信リストを右クリックして [編集] を選択するか、この配信リストをダブルクリックします。

下図のように、選択した配信リストのプロパティが表示されます。

Actions			Show		Members		
Save & Close	Import	Delete	Members	Summary	Add New	Select Members	Remove
Title:			Distribution List Example				
Path:			IBFS:/WFC/Repository/Public				
Method:			Email				
Burst Value		E-mail					
Midwest		user@ibi.com					

2. このウィンドウでは、次の操作が可能です。
 - ❑ [タイトル] テキストボックスに、新しい名前を入力し、配信リスト名を変更する。
 - ❑ 配信リストで入力済みの値を変更する。たとえば、配信方法を変更することができます。

- ❑ [追加] をクリックするか、[バースト値] または [Email] 列のブランク領域をダブルクリックして、配信リストに新しいメンバーを追加する。下図のように、[新規メンバーの追加] ダイアログボックスが表示されます。

- ❑ 項目を選択し、[削除] をクリックして、配信リストの項目を削除する。

注意：Report Broker ステータスの [許可する Email ドメインとアドレス] ダイアログボックスで、[入力はこのリストに制限する] のチェックがオンになっている場合、Email アドレスの入力は、許可する Email ドメインとアドレスのリストに制限されます。詳細は、45 ページの「[許可する Email ドメインおよびアドレスの確認](#)」を参照してください。

3. 変更の完了後、[保存して閉じる] をクリックします。

注意：ファイルのタイトルがフォルダ内の既存ファイルと同一名の場合、既存ファイルを置き換えるかどうかのメッセージが表示されます。

変更せずに編集を終了するには、[閉じる] をクリックします。

レポートのバースト

Report Broker のバースト機能を使用して、スケジュール済みレポートプロシジャ (FEX) 全体ではなく、レポートをセクションに分割して、同一の配信先または異なる配信先に配信することができます。分割 (バースト) することにより、各ユーザに関連したレポートのセクションを割り当てることができます。各レポートセクションは、個別のファイルとして保存されます。

表形式のバーストレポートを配信する場合、バースト値は、最初の BY フィールドで決定されます。グラフ形式のバーストレポートを配信する場合、バースト値は、2 番目の BY フィールドで決定されます。バースト値は内部マトリックス (各データベースフィールド値の保存や、TABLE または GRAPH リクエストで参照される値の計算で使用するメモリ領域) によって自動的に決定されます。

セクションごとに受信者の配信先 (Email アドレスまたは FTP サーバパス、ファイル) を指定することにより、1 名の受信者に複数のレポートセクションを配信することが可能になります。複数のレポートセクションを単一の配信先に送信することもできます。配信リストで指定するバースト値は、レポートの作成に使用するデータソース内に存在する必要があります。

注意

- ❑ レポートをバーストする場合、スケジュールのタスクでバーストを有効にする必要があります。タスクでレポートのバーストが指定されない限り、[配信リスト] の [バースト値] 列に指定された値は無視されます。
- ❑ レポート名に使用されている NLS 文字が 60 バイトを超える場合、配信前にレポート名の末尾が切り捨てられて 60 バイトになります。これにより、レポートが Email 配信された際にレポート名の文字化けが回避されます。

例

配信リストのバースト値の指定

配信リストを作成または編集する際は、ソートフィールドのバースト値および配信先 (Email アドレス、FTP) を指定することができます。

各地区担当者の Email アドレスは、主ソートフィールド値 (Northeast Sales、South Sales、Midwest Sales) により、それぞれに関連した売上レポートデータに関連付けられています。user 1 は Northeast 地区のデータのみが必要なため、[Email] 列の Email アドレスに対応する [バースト値] 列には、ソート値「Northeast」が表示されています。

user 2 は、Midwest 地区と South 地区の両方に勤務しています。両方の地区のデータが必要なため、user 2 の Email アドレスは [Email] 列に 2 回表示されています。それぞれの Email アドレスに対応する [バースト値] 列には、各地区の値が表示されています。

注意：列見出しをクリックすると、その列のデータをソートすることができます。

ヒント：単一アドレス行に複数の Email アドレスを指定することができます。詳細は、106 ページの「[複数 Email アドレスの指定](#)」を参照してください。

参照

FTP によるレポート配信時の考慮事項

FTP を使用してバーストレポートを配信する際は、次のことを考慮します。

- ❑ HTML、PDF、EXL2K フォーマットを使用すると、バーストレポート出力にインデックスページが作成されます。
- ❑ FTP 配信用のインデックスページには、配信リストに指定されたバースト値のみが格納されます。レポート出力は、指定されたバースト値にのみ配信されます。
- ❑ スケジュール済みプロシジャ内に BASEURL が指定されている場合、FTP により配信されるバーストレポート出力のインデックスページのリンクは正しくなりません。これは、Report Broker がスケジュール済みジョブのプロシジャコードを解析および評価しないためです。配信されたファイルを BASEURL ディレクトリに移動するか、インデックスページ内で配信出力の完全修飾ディレクトリパスを指定します。
- ❑ z/OS では、FTP を使用して配信されるバーストレポート出力は、次の修飾子を持ったシーケンシャルデータセット内に作成されます。
 - ❑ **高位修飾子** FTP サーバに指定されたユーザ ID です。
 - ❑ **その他の修飾子** [配信] タブのロケーション値、および配信リストにより指定されたファイルです。

バースト出力を分割データセットに送信するには、ロケーションとして既存の分割データセットを指定し、[配信リストファイル] 列でメンバー名を指定します。この場合、拡張子は含めません。たとえば、highlevelqualifier.location.file のように指定します。

- ❑ z/OS では、レポートの作成に使用するデータ (入力) ファイルの名前は、インデックス名には使用されません。インデックス名に、データファイルの DYNAM 内の DDNAME の値を指定すると、データファイルはレポート出力により上書きされます。
- ❑ z/OS では、インデックスページの作成の際に、バースト値の前に文字が追加されます。このページには、レポートセクションへの正しいリンクが含まれています。

バーストのガイドラインと制限

ここでは、バースト値の指定方法について説明します。

スケジュール済みのタスクでレポートプロシジャ (FEX) のバーストが指定されている場合、各バーストセクションに対して生成されたすべてのデータ値が Distribution Server に返されます。

- ❑ **Email 配信**では、特定のバーストセクションは、スケジュールに使用される配信リスト、またはスケジュールで使用する単一の配信先を作成する際に指定されたバースト値に基づいて配信されます。

次に、バースト機能のガイドラインおよび制限事項について説明します。

- ❑ **大文字と小文字** バースト値の大文字と小文字は区別されます。

- ❑ **キーワード** バースト値には、次のキーワードを含めることができます。

- ❑ **ワイルドカード文字** バースト値の先頭、末尾、中間の文字を表すワイルドカードとして、アスタリスク (*) と疑問符 (?) を使用します。アスタリスク (*) は 1 つ以上の文字を表し、疑問符は任意の 1 文字を表します。次の例に示すように、ワイルドカードを使用するバースト値それぞれの前に、大括弧 ([]) で囲んだワイルドカードキーワードとコロンの (:) を指定します (例、[wildcard]:)。

[wildcard]:abc* = 'abc' で始まるすべての値

[wildcard]:a?c = 'a' で始まり 'c' で終わる、3 文字の値すべて

[wildcard]:a?c* = a で始まり 3 番目の文字が c である値すべて

注意：FTP 配信の場合、配信リストでのワイルドカードはサポートされません。

- ❑ **Java 正規表現** テキストの特定に使用されます。次の例に示すように、Java 正規表現キーワードを使用するバースト値それぞれの前に、大括弧 ([]) で囲んだ正規表現キーワードとコロンの (:) を指定します (例、[regexp]:)。

[regexp]:[bcr]at = bat、cat、rat いずれかの値

[regexp]:[^bcr]at = bat、cat、rat 以外のすべての値

- ❑ **デフォルト配信** 配信リストで指定されていない任意のバースト値について、[elsesend] を使用してデフォルトの配信先を指定することができます。これを実行するには、配信リストの [バースト値] 列に、次の値を入力します。

[elsesend]: = 配信リストに含まれていないバースト値のレポートは、指定した受信者に送信されます。

- ❑ **'%BURST' 構文** 配信ファイルの名前に '%BURST' 構文を使用することで、配信ファイル名にバースト値を含めることができます。[Email のパケット化] 設定が [はい] の場合、ZIP ファイル名での '%BURST' の使用はサポートされません。

以下は、Email 配信リストへの入力例で、バースト値のワイルドカードとデフォルト配信キーワードの使用方法を示しています。

バースト値	アドレス
[wildcard]:*an*	sml@company.com
England	ray@company.com
[elsesend]:	jt@company.com

スケジュール済みレポートプロシジャ (FEX) のレポート出力のバースト値として Country フィールドが指定されており、Country フィールドに Germany、USA、France、Canada、Italy、Chile、England、Japan という値が含まれている場合、配信先は次のようになります。

- ❑ Germany、France、Canada、England、Japan のレポート情報は、sml@company.com に配信されます。
- ❑ England のレポート情報は、ray@company.com に配信されます。
- ❑ USA、Italy、Chile のレポート情報は、jt@company.com に配信されます。

バースト値をブランクにすることはできません。この値は、レポートファイル名に使用されるため、このパラメータに値が割り当てられていない場合は、エラーが発生して配信が終了します。

キーワードまたはワイルドカード文字を含む値を割り当てることにより、1つまたは複数のインスタンスで値がブランクになる可能性がある場合は、バースト値のすべてのインスタンスがブランクにならないように、代替として特別な値を割り当てるプロシジャをコーディングします。

- ❑ **フォーマット** XML と Excel 以外のすべてのフォーマットは、バーストをサポートします。スケジュール済みレポートプロシジャ (FEX) レポート出力の各バーストセクションには、「burstvalue_filename.format」の形式で名前が付けられます (例、Northeast_Sales.pdf)。
- ❑ **ACROSS コマンド** このコマンドは、主ソートフィールドとして評価されません。また、スケジュール済みレポートプロシジャ (FEX) からバーストレポート出力を作成するには、BY フィールドを含める必要があります。バーストは、BY フィールドで実行されます。
- ❑ **TABLEF** 内部ソート処理は実行されません。BY フィールドを指定するには、データソース内のデータがソートされている必要があります。

- ❑ **ON TABLE SUBHEAD/ON TABLE SUBFOOT** スケジュール済みレポートプロシジャ (FEX) のレポート出力で、最初のページのみ SUBHEAD を作成し、最後のページのみ SUBFOOT を作成します。スケジュール済みレポートプロシジャ (FEX) のレポート出力をバーストする際は、各ソート区切りで SUBHEAD と SUBFOOT を指定する必要があります。このため、ON コマンドで、TABLE の代わりに主ソートフィールドを指定します。以下はその例です。

`ON primarysortfield SUBHEAD`

- ❑ **AnV フィールドタイプ** AnV フィールドタイプ (ここで、n は整数値) のフィールドでは、バーストはサポートされません。

複数 Email アドレスの指定

スケジュールまたは配信リストを作成する際は、単一のフィールド、行、またはレコード内に、複数の Email アドレスを指定することができます。

スケジュールまたは配信リストを作成する際は、各 Email アドレスの区切り文字として、カンマ (,) とセミコロン (;) のいずれかを使用します。

スケジュール出力が配信される際は、単一 Email の宛先行に複数の Email アドレスが表示されます。

注意

- ❑ アドレスごとに別の Email を配信するには、配信リスト内で、Email アドレスを別の行に指定します。
- ❑ Report Broker ステータスの [許可する Email ドメインとアドレス] ダイアログボックスで、[入力をこのリストに制限する] のチェックがオンになっている場合、Email アドレスの入力は、許可する Email ドメインとアドレスのリストに制限されます。詳細は、45 ページの「[許可する Email ドメインおよびアドレスの確認](#)」を参照してください。

例

バースト値を含む複数 Email アドレスの指定

デフォルトの構成 ([Email のパケット化] を [はい] に設定) を使用する場合、1 つの Email アドレスに指定された複数のバースト値に対して Email が 1 通配信されます。各行に指定された Email アドレス値は文字列 (キー) として扱われます。1 つのアドレス値 (キー) に対して複数の行が存在する場合、すべてのバースト値を含む Email が 1 通配信されます。たとえば、次の配信リストについて考察します。

バースト値のアドレス

```

A      user1@abcd.com;user2@abcd.com
B      user1@abcd.com
C      user1@abcd.com

```

この例では、user1@abcd.com は、スケジュール出力の配信時に Email を 2 通受信します。1 通目の Email では、user1@abcd.com; user2@abcd.com が宛先行に表示され、添付ファイルが 1 つ (バースト値 A) 配信されます。2 通目の Email では、user1@abcd.com が宛先行に表示され、添付ファイルが 2 つ (バースト値 B およびバースト値 C) 配信されます。

各行に Email を 1 通配信するよう指定した構成 ([Email のパケット化] を [いいえ] に設定) を使用する場合、上記の例では、個別の Email が 3 通配信されます。1 通目の Email では、user1@abcd.com; user2@abcd.com が宛先行に表示され、添付ファイルが 1 つ (バースト値 A) 配信されます。2 通目の Email では、user1@abcd.com に添付ファイル (バースト値 B) が 1 つ配信されます。3 通目の Email では、user1@abcd.com に添付ファイル (バースト値 C) が 1 つ配信されます。

スケジュールが複数のタスクで構成され、[Email のパケット化] が [バースト] に指定されている場合は、バースト値のそれぞれについて、すべてのタスクの出力が統合されて配信されます。この例では、個別の Email が 3 通配信されます。1 通目の Email では、user1@abcd.com; user2@abcd.com が宛先行に表示され、複数のタスクで生成されたすべての出力 (バースト値 A) が配信されます。2 通目の Email は、すべてのタスクで生成されたすべての出力 (バースト値 B) で、user1@abcd.com に送信されます。3 通目の Email は、すべてのタスクで生成されたすべての出力で (バースト値 C)、user1@abcd.com に送信されます。

次は、デフォルト構成 ([Email のパケット化] を [はい] に設定) を使用し、1 つのバースト値がアドレス (キー) 値に複数回指定されたときの考慮事項です。たとえば、次の配信リストについて考察します。

バースト値のアドレス

```

A      user1@abcd.com;user2@abcd.com
B      user1@abcd.com
B      user1@abcd.com

```

この配信リストでは、user1@abcd.com には Email が 2 通だけ配信されます。1 通目の Email では、user1@abcd.com; user2@abcd.com が宛先行に表示され、添付ファイル (バースト値 A) が 1 つ配信されます。2 通目の Email では、user1@abcd.com が宛先行に表示され、添付ファイル (バースト値 B) が 1 つ配信されます。配信リストの 3 行目は、2 行目と同一のキーおよびバースト値 (B) を含むため、無視されます。

処理の効率化のため、配信情報で、バースト値とアドレス値の組み合わせが重複していないことを確認します。

例 バースト値を含まない複数 Email アドレスの指定

たとえば、バースト値を含まない次のサンプル配信リストについて考察します。

アドレス

`user1@abcd.com;user2@abcd.com`

`user1@abcd.com`

`user2@abcd.com`

`user3@abcd.com`

`user1@abcd.com;user2@abcd.com;user3@abcd.com`

この配信リストでは、[Email のパケット化] の設定に関わらず、各アドレス行に Email が 1 通配信されます。これは、各アドレス値が一意であるためです。1 通目の Email では、`user1@abcd.com; user2@abcd.com` が宛先行に表示され、添付ファイルはスケジュール済みレポートプロシジャ (FEX) のレポート出力全体です。2 通目の Email は、`user1@abcd.com` に配信されます。残りも同様です。

配信リスト内でアドレス行が重複する場合 (この例では、`user3@abcd.com` が 6 行目に追加された場合)、[Email のパケット化] が [はい] であれば、`user3@abcd.com` には Email が 1 通配信されます。ただし、[Email のパケット化] が [いいえ] の場合、`user3@abcd.com` には Email が 2 通配信されます。

4

スケジュールの作成

スケジュールでは、レポートの実行日時、出力フォーマット、配信方法を指定することができます。スケジュールを作成するには、ベーシックスケジュールツールを使用します。

注意：ESRI マップなど、オンライン接続が必要なグラフィクエストをスケジュールすることはできません。

トピックス

- ☐ [ベーシックスケジュールツールの概要](#)
 - ☐ [ベーシックスケジュールツールによるスケジュールの作成](#)
 - ☐ [ベーシックスケジュールツールのタスクの概要](#)
 - ☐ [ベーシックスケジュールツールの配信オプション](#)
 - ☐ [ベーシックスケジュールツールの通知オプション](#)
 - ☐ [ベーシックスケジュールツールのプロパティの概要](#)
 - ☐ [ベーシックスケジュールツールの実行間隔の概要](#)
 - ☐ [詳細設定](#)
-

ベーシックスケジュールツールの概要

ベーシックスケジュールツールを使用して、プロシジャ (FEX) のスケジュールを作成することができます。リポジトリに格納されているアプリケーションコンテンツおよびスケジュールツールへのアクセスが許可されているかどうかは、Db2 Web Query Client のセキュリティ認可モデルによって制御されます。

レポートプロシジャ (FEX) の新しいスケジュールを作成するには、プロシジャが作成されたワークスペースを選択します。スケジュールするレポートプロシジャ (FEX) を右クリックして [スケジュール] を選択し、レポートプロシジャ (FEX) の配信方法を選択します。レポートプロシジャ (FEX) の配信方法として、Email、FTP、リポジトリがあります。

ベーシックスケジュールツールのクイックアクセスツールバー

ベーシックスケジュールツールの上部に表示されているクイックアクセスツールバーは、どのオプションが選択されていても常に表示されます。このボタンからは、最も使用頻度の高い機能にアクセスすることができます。クイックアクセスツールバーの [Report Broker] ボタンからは、[新規配信リスト] または [新規アクセスリスト]、[保存]、[名前を付けて保存]、[削除]、[閉じる] オプションにアクセスすることができます。また、このツールバーから [保存]、[実行]、[ヘルプ] オプションにアクセスすることもできます。

[実行] ドロップダウンリストからは、その他の実行オプションを選択することもできます。

注意：[実行] オプションを有効にするには、スケジュールを保存する必要があります。

選択可能な [実行] オプションには、[デフォルトトレース付き実行]、[トレースなし実行]、[スケジュールのトレース付き実行]、[スケジュールとレポートのトレース付き実行] があります。

注意

- ❑ ユーザが [Session Traces] 権限を所有している場合、スケジュールツールに [トレース付き実行] の各オプションが表示されます。トレース付き実行の権限を所有していない場合、これらのオプションは表示されません。
- ❑ オンラインヘルプを表示するには、[ヘルプ] アイコンをクリックします。

ベーシックスケジュールツールのリボン

ベーシックスケジュールツールのリボンには、スケジュールオプションが、次のカテゴリに分類されて表示されます。

❑ アクション

- ❑ **保存して閉じる** スケジュールを保存して閉じます。
- ❑ **削除** スケジュールを削除し、スケジュールツールを終了します。

□ 表示

- **プロパティ** スケジュールの [タイトル]、[パス] (スケジュールの作成先またはスケジュールを開いたパス)、[概要]、[優先度]、[配信するレポートがない場合] などの設定があります。[ジョブの再実行が不要な場合、スケジュールを削除] チェックボックスを使用して、スケジュールの再実行が予定されていない場合に、実行後にスケジュールを削除するよう指定します。[有効 (指定された時間にジョブを実行)] チェックボックスを使用して、スケジュールの [実行間隔] 設定で指定されたとおりにスケジュールを実行するよう指定します。[配信するレポートがない場合] ドロップダウンリストでは、配信するレポートが存在しない場合に結果をエラーとして処理するか、警告として処理するかを指定します。
- **実行間隔** 配信および繰り返しオプションの実行間隔を表示します。実行間隔の管理 (新規作成、編集、削除) 機能を提供します。
- **タスク** スケジュールしているレポートプロシジャ (FEX) の情報を提供します。
- **配信** レポートの受信者または配信先を指定するオプションを提供します。また、配信方法を作成、編集、削除することもできます。
- **通知** スケジュールステータスの通知を設定するためのオプションを表示します。
- **ログレポート** 各ジョブのジョブ番号およびログレポートを表示します。

□ オプション

- **パラメータ** スケジュールするレポートプロシジャ (FEX) の実行時に必要なパラメータ値を指定します。
- **タスクの詳細設定** レポート言語、および警告として処理する追加の FOC エラーを入力することができます。
- **メールサーバ** メールサーバの設定を調整することができます。[メールサーバ名] テキストボックスに、デフォルトのメールサーバが表示されます。[このサーバには認証情報が必要] のチェックをオンにした場合、アカウント名とパスワードを入力する必要があります。

ベーシックスケジュールツールによるスケジュールの作成

ここでは、新しいレポートプロシジャ (FEX) スケジュールを作成する手順の概要について説明します。この手順の中には、関連するオプションについての詳細が含まれているものもありますが、別のセクションの参照箇所が記述されているものもあります。これらの参照箇所には、オプションについての詳細な説明とともに、選択する際のヒントなどの追加情報が含まれています。

スケジュールを保存するには、[プロパティ]、[実行間隔]、[配信]、[通知] タブで、必須の情報を入力する必要があります。スケジュールを保存する際に、スケジュールで必須の情報が入力されていない場合、入力が必要なスケジュール情報についてのメッセージが表示されます。

手順

スケジュールを作成するには

1. このセクションの最初の部分の説明を参照し、ベーシックスケジュールツールを開きます。詳細は、109 ページの「[ベーシックスケジュールツールの概要](#)」を参照してください。
2. [プロパティ] タブの [タイトル] テキストボックスで、スケジュール名を編集することができます。

この項目への入力は必須で、デフォルトの説明がすでに入力されています。

3. [概要] テキストボックスに、ジョブの概要を入力します。

注意：このテキストボックスへの入力はオプションです。

4. [優先度] を選択します。

優先度のデフォルト値は、[標準 - 3] です。

5. スケジュール実行間隔の設定に基づいて、再び実行する予定のないスケジュールをリポジトリに保存しない場合は、[ジョブの再実行が不要な場合、スケジュールを削除] のチェックをオンにします。
6. 実行間隔の設定に基づいて、スケジュール済みのジョブを実行する場合は、[有効 (指定された時間にジョブを実行)] のチェックはオンのままにします。
7. [実行間隔] タブを選択し、次のように選択します。

- a. [設定] ラジオボタンのリストから、スケジュールでレポートプロシジャ (FEX) を実行する間隔を選択します。

この間隔は、[1 回だけ実行]、[分単位]、[時間単位]、[日単位]、[週単位]、[月単位]、[年単位]、[カスタム] のいずれかに設定することができます。

- b. [開始] オプションで、ドロップダウンカレンダーから、実行開始の日付時間を選択します。

注意：時間の設定を変更するには、時間と分のいずれかを選択し、矢印を使用して数値を上下させます。

- c. 実行間隔の選択で該当する場合は、[終了] オプションで、スケジュールの実行を終了する日付と時間を選択します。
- d. [実行間隔] の選択が有効な場合は、[設定] を選択し、[実行間隔] のチェックをオンにしてカスタム間隔を有効します。

注意：[1 回だけ実行]、[分単位]、[時間単位] を選択した場合、このオプションは無効になります。

8. [タスク] タブを選択します。スケジュール対象として選択したレポートプロシジャ (FEX) に基づいて、[パス]、[プロシジャ]、[サーバ名]、[保存レポート名] テキストボックスに値が入力されます。[タスク] タブについての詳細は、114 ページの「[ベーシックスケジュールツールのタスクの概要](#)」を参照してください。
9. [配信] タブを選択し、選択した配信方法についての情報を指定します。
10. [通知] タブを選択し、スケジュールの実行時に通知を送信するかどうかと、送信条件を選択します。[通知タイプ] には、次のオプションがあります。
 - ☐ **なし** Report Broker からスケジュールステータスの通知が送信されることはありません。これがデフォルト値です。
 - ☐ **常に通知** スケジュールを実行するたびに、通知を送信します。
 - ☐ **エラー時** スケジュールの実行時にエラーが発生したときのみ、通知を送信します。詳細は、163 ページの「[ベーシックスケジュールツールの通知オプション](#)」を参照してください。
11. [ログレポート] タブで、スケジュールのログの表示とログレポートの管理が行えます。
12. リボンの [保存して閉じる] をクリックし、スケジュールを保存します。

注意：必要に応じて、ツールバーの [保存] をクリックすることで、スケジュールツールを開いたままの状態にすることもできます。

13. スケジュールを格納するフォルダを選択します。

注意

- ☐ この手順を実行するには、このフォルダでのコンテンツの作成権限が必要です。
 - ☐ スケジュール保存先のデフォルトパスは、ユーザの権限によって異なります。ユーザがスケジュールツールの起動元フォルダでのコンテンツ作成権限を所有する場合、このフォルダでは、[保存] ダイアログボックスが表示されます。ユーザがこのフォルダでのコンテンツ作成権限を所有しない場合は、[保存] ダイアログボックスは、このフォルダ下の [マイコンテンツ] フォルダで表示されます。[マイコンテンツ] フォルダが使用不可の場合、[保存] ダイアログボックスは、検出された最初の書き込み可能なフォルダで表示されます。
14. スケジュールの名前を入力し、[保存] をクリックします。

注意

- ❑ パラメータを確認する WFDescribe プロセスがスケジュール保存前に完了しなかった場合は、この確認プロセスを続行するか、パラメータを確認せずにスケジュールを保存するかを選択が要求されます。
- ❑ ファイルのタイトル値の最大長は 256 バイトです。
- ❑ ファイルのタイトルがフォルダ内の既存ファイルと同一名の場合、既存ファイルを置き換えるかどうかのメッセージが表示されます。

ベーシックスケジュールツールのタスクの概要

ベーシックスケジュールツールにアクセスすると、[タスク] タブのオプションは、選択したレポートプロシジャ (FEX) に基づいて、あらかじめ入力されます。パラメータ値の指定、バーストレポートにするかどうかなど、使用可能なオプションの設定を完了します。

注意

- ❑ パラメータ (変数) は、スケジュールの [保存レポート名] テキストボックスで値を指定する際に使用することができます。これらのパラメータは、&YYMD などのシステム変数にすることも、スケジュール済みプロシジャの実行時に Reporting Server から値が返される任意の変数にすることもできます。変数の後にファイル拡張子を表すピリオド (.) を使用するには、変数の末尾に縦棒 (|) を追加します。たとえば、「&YYMD|.htm」のように指定します。同様に、アンパサンド (&) を文字として使用するには、アンパサンド (&) の後に縦棒 (|) を追加します。たとえば、「Smith&|Jones」のように指定します。スケジュールで指定されたパラメータの値がプロシジャ実行時に Reporting Server から返されない場合、そのスケジュールは失敗し、「配信するレポートがありません」というエラーメッセージが返されます。スケジュールのタスクでバーストを有効にした場合は、'%BURST' 記号を使用して [保存レポート名] テキストボックスにバースト値を含めることもできます。

ベーシックスケジュールツールのタスクオプション

[タスク] タブを選択する場合は、次のオプションがあります。

- ❑ **パス** リポジトリまたは Reporting Server のレポートパスを表示します。
- ❑ **プロシジャ** スケジュールするプロシジャ名を表示します
- ❑ **サーバ名** レポートプロシジャ (FEX) を送信する Reporting Server です。

- ❑ **アラート** アラートの発動時に、アラートを再び有効にする方法、またはアラート条件を無効にする方法を指定します。[アラート] をクリックして、アラートオプションを指定します。

[アラートオプション] ダイアログボックスで、次のオプションのいずれかを選択します。

- ❑ **アラート実行後、アラート条件が無効になるまでスケジュールを無効にする** アラートの起動後、条件に一致するスケジュールがなくなった時点で、アラートが再度有効になります。アラートの起動後、条件のチェックが続行されます。条件に一致するスケジュールがなくなった時点で、アラートは即座に再度有効になります。これがデフォルト値です。
- ❑ **アラート実行後、スケジュールを継続する** アラートの発動直後にアラートが再度有効になります。
- ❑ **アラート実行後、スケジュールを無効にする** アラートの起動後、スケジュールが無効になります。
- ❑ **遅延** 指定された時間が経過した後、アラートが再起動されます。最大 99 時間、99 日、99 週、99 か月、または 99 年後に、アラートを再起動するよう指定することができます。詳細は、117 ページの「[アラートスケジュールの遅延設定](#)」を参照してください。

注意：スケジュール間隔には、スケジュールされたプロシジャの実行時間より大きい値を設定してください。[遅延] オプションが選択され、指定したスケジュール間隔がプロシジャの実行に必要な時間より短い場合、アラートスケジュールは (選択した配信設定に基づいて) 期待よりも頻繁に配信されます。Email 配信を選択した場合は、結果として不要な Email が配信されるため、アラートレポート配信のビジネスゴールやオペレーショナルゴールに影響を与えます。

レポートのプロパティ

- ❑ **バーストレポート** レポートをバーストする場合、[バーストレポート] のチェックをオンにします。バースト機能を使用して、Reporting Server にレポートをセクションごとに作成することを指示し、各セクションが別々に配信されるようにすることができます。詳細は、101 ページの「[レポートのバースト](#)」を参照してください。
- ❑ **プロシジャで指定されたフォーマットを上書きする** このオプションを選択すると、レポートフォーマットのリストが表示され、プロシジャで指定したフォーマット以外のフォーマットを指定することができます。

注意

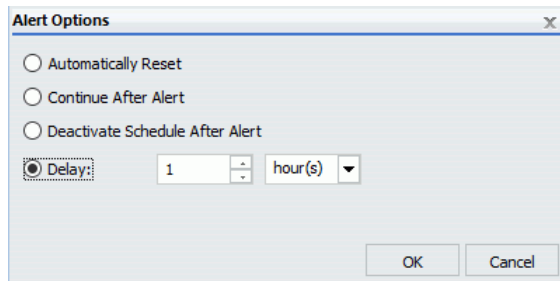
- ❑ スケジュールするレポートが SET COMPOUND OPEN 構文を使用する複合レポートの場合、このレポートのスケジュールを作成する際に、[プロシジャで指定されたフォーマットを上書きする] のチェックをオンにした上で、フォーマットを指定する必要があります。この方法でフォーマットを指定しない場合、レポートが配信されません。Db2 Web Query および Developer Workbench のレポートツール (例、InfoAssist+、Developer Workbench ドキュメントキャンバス) で作成された複合レポートの場合、[プロシジャで指定されたフォーマットを上書きする] のチェックをオンにする必要はありません。
 - ❑ [FLEX] レポート出力フォーマットはサポートの対象から除外されました。スケジュール内でこれらのフォーマットのいずれかを使用するタスクを編集する際は、表示されたダイアログボックスで出力フォーマットを変更することができます。
 - ❑ [OK] をクリックし、レポートの出力フォーマットが AFLASH (FLEX) に設定されている場合、タスクの出力は AHTML として保存されます。
 - ❑ [OK] をクリックし、レポートの出力フォーマットが VISDIS または VISDISAE に設定されている場合、タスクの出力は HTML として保存されます。
 - ❑ [閉じる] をクリックした場合、出力フォーマットは変更されず、タスクに加えた変更は保存されません。
 - ❑ 既存のスケジュールをベーシックスケジュールツールで開き、[プロシジャで指定されたフォーマットを上書きする] のチェックがオンになっている場合は、フォーマットのリストが表示されます。[プロシジャで指定されたフォーマットを上書きする] のチェックをオフにすると、フォーマットのリストが非表示になります。
 - ❑ 既存のスケジュールをベーシックスケジュールツールで開き、[プロシジャで指定されたフォーマットを上書きする] のチェックがオフになっている場合は、フォーマットのリストが表示されません。[プロシジャで指定されたフォーマットを上書きする] のチェックをオンにすると、フォーマットのリストが表示されます。
 - ❑ **保存レポート名** スケジュールの対象として選択したレポートの名前 (デフォルト) とは異なるレポート名を指定することができます。
- 注意:** [保存レポート名] テキストボックスに、ファイル拡張子付きの変数が含まれる場合、変数とファイル拡張子の間の区切り文字は、2 つの追加ピリオド (.) または 1 つの縦棒 (|) にする必要があります。以下はその例です。
- ❑ **ファイル拡張子の前に 2 つの追加ピリオド (.)** - 例、car_&YYMD...csv
 - ❑ **ファイル拡張子の前に 1 つの縦棒 (|)** - 例、car_&YYMD|.csv

アラートスケジュールの遅延設定

アラートが発動された場合、特定の状況下ではアラートスケジュールを無効にすることができます。

繰り返し実行のアラートスケジュールで [遅延] オプションが設定されている場合、アラートスケジュールは、セカンダリ実行間隔で繰り返し実行され、アラートの発動後は、次のプライマリ実行間隔まで実行されません。この遅延は、アラートが発動された場合のみ適用されます。

下図は、[アラートオプション] ダイアログボックスを示しています。



たとえば、アラートスケジュールが、毎日 9:00 AM に実行され、セカンダリ実行間隔は 5 分間隔で合計 15 分間継続するよう設定されている場合を想定します。この場合のアラートスケジュールは、9:00 AM、9:05 AM、9:10 AM、9:15 AM と、1 日に 4 回実行されます。下図は、繰り返し実行の設定を示しています。

The screenshot shows the 'Schedule Recurrence' dialog box with the following settings:

- Settings:**
 - ☐ Run Once
 - ☐ Minutes
 - ☐ Hourly
 - ☒ Daily
 - ☐ Weekly
 - ☐ Monthly
 - ☐ Yearly
 - ☐ Custom
- Time Zone:** The time zone for the Start Time, End Time and Until Time is Eastern Standard Time (GMT-0500).
- Start:** Tuesday, November 6, 2018, 9: 00 AM
- End:** Monday, December 31, 2018, 11: 59 PM
- Interval:** Every 1 day(s)
- Advanced settings:**
 - ☒ Repeat schedule every: 5 Minute(s)
 - ☐ Until Time: 5: 13 PM
 - ☒ Last For: 0 hour(s) 15 minute(s)
 - ☒ Enabled

アラートが 9:00 AM に発動された場合、アラート結果レポートは 9:00 AM に配信されます。アラートの発動後、同じレポートを 9:05 AM、9:10 AM、9:15 AM に繰り返し受信する必要はないが、アラートスケジュールを無効にしたくない場合は、[遅延] オプションを使用してアラートスケジュールが次のプライマリ実行間隔で実行されるよう再スケジュールすることができます。

この場合、アラートが火曜日の 9:00 AM に発動された場合、アラートスケジュールは、9:05 AM、9:10 AM、9:15 AM に繰り返し実行されません。セカンダリ実行間隔で実行が予定されていた残りのスケジュール実行はすべてキャンセルされます。ただし、遅延アラートスケジュールは、次のプライマリ実行間隔である水曜日の 9:00 AM に再スケジュールされます。

たとえば、アラートが火曜日の 9:00 AM に発動される前に、アラートスケジュールに 1 時間の遅延を追加した場合、このアラートスケジュールの次の実行時間は 10:00 AM になります。ただし、10:00 AM はセカンダリ実行間隔の時間 (9:00 AM から 9:15 AM の間) より遅いため、アラートスケジュールは翌日水曜日の 9:00 AM まで実行が遅延されます。

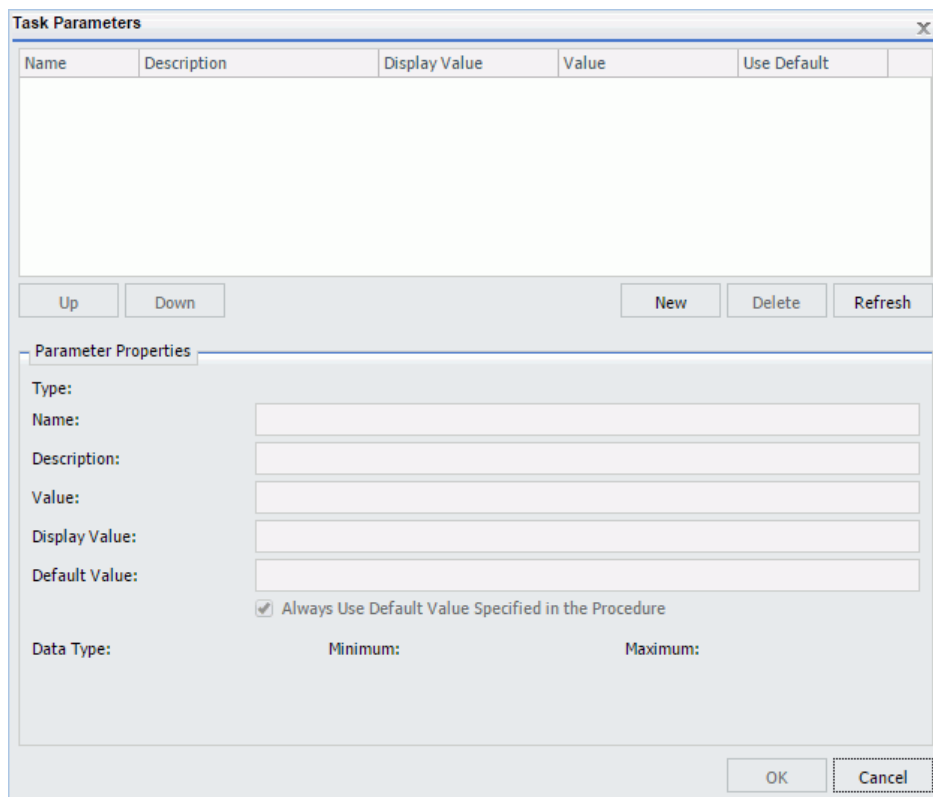
パラメータ値の指定

パラメータを使用して、レポートをカスタマイズし、処理を制御することができます。レポートプロシジャ (FEX) をスケジュールする場合、スケジュールタスクの [パラメータ] セクションを使用して、レポートプロシジャで参照されるパラメータの値を入力することや、新しいパラメータを作成した後、パラメータの名前と値を指定することで、スケジュールにパラメータを追加することができます。

手順 パラメータ値を指定するには

スケジュール済みプロシジャに、実行時に値を指定するパラメータが含まれている場合は、スケジュールツールの [パラメータ] セクションに、これらのパラメータが表示されます。

ベーシックスケジュールツールで [パラメータ] ボタンをクリックし、下図のように [タスクのパラメータ] ダイアログボックスを開きます。



The image shows the 'Task Parameters' dialog box. It has a title bar with a close button (X). Inside, there is a table with the following columns: Name, Description, Display Value, Value, and Use Default. Below the table are buttons for 'Up', 'Down', 'New', 'Delete', and 'Refresh'. At the bottom, there is a 'Parameter Properties' section with fields for 'Type:', 'Name:', 'Description:', 'Value:', 'Display Value:', and 'Default Value:'. There is a checkbox labeled 'Always Use Default Value Specified in the Procedure' which is checked. Below this are fields for 'Data Type:', 'Minimum:', and 'Maximum:'. At the very bottom are 'OK' and 'Cancel' buttons.

パラメータにはデフォルト値の設定が可能であるほか、静的または動的なリストから値を選択することもできます。[タスクのパラメータ] ダイアログボックスでのパラメータの選択についての詳細は、この章の例を参照してください。

参照

パラメータ値指定時の考慮事項

プロシジャのパラメータ値を指定する場合、次のことを考慮する必要があります。

- ❑ 1つのパラメータの最大バイト数は 3200 です。1つのパラメータに複数の値を保存することができます。1つのパラメータに対する複数の値は、1つの項目として格納されます。この項目は最大値である 3200 バイトを超えることはできません。
- ❑ プロシジャでパラメータが指定されている場合、Report Broker はパラメータの説明を表示します。指定されていない場合、Report Broker はパラメータ名を表示します。

- ❑ Report Broker はデフォルト変数値、および静的または動的の単一選択リストおよび複数選択リストを表示します。

注意

- ❑ 動的複数選択リストには [選択なし] オプションが表示されます。このオプションを選択すると、フィールドのデータ選択テストは実行されません。
- ❑ Report Broker では、-HTMLFORM コマンドを使用してパラメータ値を動的に選択するリストを作成することはできません。
- ❑ Report Broker では、マスターファイルで定義済みの FILTERS で使用され、プロシジャで参照されているグローバル変数が表示されます。たとえば、マスターファイルに次の記述が含まれていることを想定します。

```
FILENAME=CAR,SUFFIX=FOC
VARIABLE NAME=&&COUNTRY1, USAGE=A10, DEFAULT=ENGLAND,$
FILTER FILTER1=COUNTRY EQ '&&COUNTRY1'; $
```

さらに、スケジュール中のプロシジャには、次の記述が含まれていることを想定します。

```
WHERE FILTER1
```

この場合、[パラメータ] ウィンドウには、「COUNTRY1」が表示されます。

- ❑ Report Broker は、-DEFAULTH コマンドでデフォルト値が設定されている変数の入力进行を要求しません。-DEFAULTH コマンドの目的は、変数にデフォルト値を割り当てることで、この変数への動的プロンプトの表示を防止することです。
- ❑ Report Broker では、実行時に Distribution Server が設定する内部変数の値の入力は要求されません。たとえば、&DSTOWNER は、スケジュール所有者のユーザ ID です。このパラメータがスケジュール済みプロシジャで参照された場合、実行時に Distribution Server によって、値がスケジュール所有者に設定されるため、この値は使用可能になります。ただし、スケジュールツールの [タスクのパラメータ] ダイアログボックスでは、この値の入力は要求されません。

- ❑ 特殊文字 (例、%、&、|) を使用する場合は、次のことに注意してください。
 - ❑ パラメータ値として WHERE 条件全体を指定する場合、値を 2 つの一重引用符 (') で囲む必要があります。1 つの二重引用符 (") は使用しないでください (例、'"WHERE CAR NOT LIKE MOTO%"')。
 - ❑ パラメータ値として 1 つの値を指定する場合、パラメータ値を引用符で囲む必要はありません (例、O&DINFO)。
- ❑ 実行前プロシジャまたは実行後プロシジャにパラメータ値を指定する場合、[実行前/実行後プロシジャ] タブを選択し、その値を入力する必要があります。
- ❑ スケジュールへのパラメータの格納後、Report Broker のパラメータリストには、そのパラメータの表示が継続され、元のレポートから削除された場合でも、パラメータは、スケジュールが実行される際に Reporting Server に送信されます。パラメータをスケジュール情報から削除するには、スケジュールを編集してパラメータを削除します。スケジュールからパラメータを削除する方法についての詳細は、143 ページの「[パラメータの削除](#)」を参照してください。
- ❑ ファイル名には特殊文字を使用できないため、出力ファイル名を指定するスケジュール設定で、特殊文字を含むパラメータ値を使用することはできません。影響を受けるスケジュール設定の例として、[保存レポート名]、単一ファイル FTP 配信の [レポート名]、および [ZIP ファイル名] の値があります。
- ❑ プロシジャをコーディングして、任意の値の [表示値] を設定することができます。たとえば、値が「ENGLAND」の場合、「England」と表示されるよう [表示値] を設定することができます。

例

レポートプロシジャ (FEX) のデフォルトパラメータの指定

デフォルトパラメータ値は、-DEFAULT コマンドまたは -DEFAULTH コマンドで指定することや、WHERE ステートメントで指定することができます。DEFAULTH コマンドで指定されたデフォルト値の入力は要求されません。

次のプロシジャでは、STATE (アメリカ合衆国の州名の 2 文字または 3 文字の略名) パラメータのデフォルト値として NY が設定されます。

```
-DEFAULT &STATE=NY  
TABLE FILE GGSales  
SUM DOLLARS UNITS  
BY ST  
BY CATEGORY  
BY PRODUCT  
ON TABLE SUBHEAD  
"Product Sales Report"  
WHERE ST EQ '&STATE.2-3 letters for US State.'  
END
```

レポートプロシジャ (FEX) でデフォルト値が定義されているパラメータは、[パラメータ] タブの [値] フィールドに、デフォルト値が表示されます。パラメータがスケジュールに格納されている場合は、Report Broker によって、実行用に Reporting Server に送信されるスケジュールプロシジャに -SET が追加されます。-SET コマンドにより、- DEFAULT コマンドで指定されたデフォルト値が上書きされます。

下図は、[タスクのパラメータ] ダイアログボックスに表示された STATE パラメータを示しています。STATE パラメータの [デフォルトの使用] 列の値は [はい] です。[パラメータのプロパティ] セクションでは、[値] および [デフォルト値] テキストボックスに [NY] が表示されています。これがデフォルトのパラメータ値です。

The image shows a 'Task Parameters' dialog box. It contains a table with columns: Name, Description, Display Value, Value, Use Default, and an empty column. The first row is for the 'STATE' parameter, with a description '2-3 letters for US State', 'Yes' in the 'Use Default' column, and 'NY' in the 'Value' column. Below the table are buttons for 'Up', 'Down', 'New', 'Delete', and 'Refresh'. Below the table is a 'Parameter Properties' section. It includes fields for 'Name' (STATE), 'Description' (2-3 letters for US State), 'Value' (NY), 'Display Value', 'Default Value' (NY), and a checkbox 'Always Use Default Value Specified in the Procedure' which is checked. There are also fields for 'Data Type', 'Minimum', and 'Maximum'. At the bottom right are 'OK' and 'Cancel' buttons.

Name	Description	Display Value	Value	Use Default	
STATE	2-3 letters for US State		NY	Yes	

Up Down New Delete Refresh

Parameter Properties

Type: Report Defined

Name: STATE

Description: 2-3 letters for US State

Value: NY

Display Value:

Default Value: NY

☒ Always Use Default Value Specified in the Procedure

Data Type: Minimum: Maximum:

OK Cancel

スケジュールの実行時にデフォルト値以外の値を使用し、プロシジャが変更された場合でもその値が使用されるようにするには、パラメータをクリックし、[パラメータのプロパティ] セクションでパラメータ値を変更します。単純なパラメータの値は、[値] フィールドにパラメータ値を入力して指定します。パラメータタイプには、単一値または複数値の選択が可能な静的パラメータと動的パラメータもあります。これらについては、次の例で説明します。

パラメータがスケジュールに格納されている場合は、Report Broker によって、実行用に Reporting Server に送信されるスケジュールプロシジャに -SET が追加されます。-SET コマンドは、-DEFAULT コマンドで指定されたデフォルト値を上書きします。

例 パラメータ値の静的単一選択リストの追加

次のプロシジャには、CATEGORY (カテゴリ) フィールドで有効な静的値のリストが含まれています。

```
-DEFAULT &STATE=NY
TABLE FILE GGSales
SUM DOLLARS UNITS
BY ST
BY CATEGORY
BY PRODUCT
ON TABLE SUBHEAD
"Product Sales Report"
WHERE ST EQ '&STATE.2-3 letters for US State.'
WHERE CATEGORY EQ '&CATEGORY. (Coffee,Food,Gifts) .Category.'
END
```

下図は、[タスクのパラメータ] ダイアログボックスに表示された CATEGORY パラメータを示しています。CATEGORY パラメータの [値] 列の値は [Coffee] です。CATEGORY パラメータにはパラメータ選択値リストが設定されているため、デフォルト値は指定されていません。そのため、[デフォルトの使用] 列はブランクです。

Task Parameters

Name	Description	Display Value	Value	Use Default
STATE	2-3 letters for US State			Yes
CATEGORY	Category	Coffee	Coffee	

UpDown

NewDeleteRefresh

Parameter Properties

Type:Report Defined

Name:CATEGORY

Description:Category

Value:Coffee

Display Value:

Default Value:

☐ Always Use Default Value Specified in the Procedure

Data Type:

Minimum:

Maximum:

OK

Cancel

単一選択パラメータの値を指定するには、[タスクのパラメータ] テーブルでパラメータを選択し、[パラメータのプロパティ] セクションの [値] テキストボックスに値を入力します。値リストから、パラメータに割り当てる値を選択します。静的単一値の選択リストからは、1 つの値のみを選択することができます。

例 パラメータ値の動的単一選択リストの追加

次のプロシジャには、PRODNAME (製品名) フィールドで有効な単一値の選択リストが含まれています。このリストは、GGSALES データソースの値から、動的に作成されます。

```

-DEFAULT &STATE=NY;
TABLE FILE GGSales
SUM DOLLARS UNITS
BY ST
BY CATEGORY
BY PRODUCT
ON TABLE SUBHEAD
"Product Sales Report"
WHERE ST EQ '&STATE.2-3 letters for US State.'
WHERE PRODUCT EQ '&PRODUCT.(FIND PRODUCT IN GGSales).Product Name.'
END

```

下図は、[タスクのパラメータ] ダイアログボックスに表示された PRODUCT パラメータを示しています。PRODUCT パラメータの [値] 列の値は [Espresso] です。PRODUCT パラメータにはパラメータ選択値リストが設定されているため、デフォルト値は指定されていません。そのため、[デフォルトの使用] 列はブランクです。

Name	Description	Display Value	Value	Use Default
STATE	2-3 letters for US State			Yes
PRODUCT	Product Name	Espresso	Espresso	

Up Down New Delete Refresh

Parameter Properties

Type: Report Defined

Name: PRODUCT

Description: Product Name

Value: Espresso

Display Value:

Default Value:

☐ Always Use Default Value Specified in the Procedure

Data Type: Minimum: Maximum:

OK Cancel

別の値を指定するには、テーブルで [PRODUCT] パラメータをクリックし、[パラメータのプロパティ] セクションでパラメータ値を変更します。動的単一選択リストからは、1つの値のみを選択することができます。

例 パラメータ値の静的複数選択リストの追加

次のプロシジャには、CATEGORY (カテゴリ) フィールドで有効な静的複数值の選択リストが含まれています。

```
-DEFAULT &STATE=NY
TABLE FILE GGSales
SUM DOLLARS UNITS
BY ST
BY CATEGORY
BY PRODUCT
ON TABLE SUBHEAD
"Product Sales Report"
WHERE ST EQ '&STATE.2-3 letters for US State.'
WHERE CATEGORY EQ '&CATEGORY. (OR (Coffee, Food, Gifts)) .Category.'
END
```


下図は、[タスクのパラメータ] ダイアログボックスに表示された CATEGORY パラメータを示しています。CATEGORY パラメータは、値として [Coffee]、[Food]、[Gifts] のみを使用するよう定義されています。これらの選択値は、[値] 列に表示されます。CATEGORY パラメータにはパラメータ選択値リストが設定されているため、デフォルト値は指定されていません。そのため、[デフォルトの使用] 列はブランクです。

Task Parameters

Name	Description	Display Value	Value	Use Default
STATE	2-3 letters for US State			Yes
CATEGORY	Category		'Coffee' OR 'Food' OR 'Gifts'	

Up Down New Delete Refresh

Parameter Properties

Type: Report Defined

Name: CATEGORY

Description: Category

Value...: 'Coffee' OR 'Food' OR 'Gifts'

Display Value:

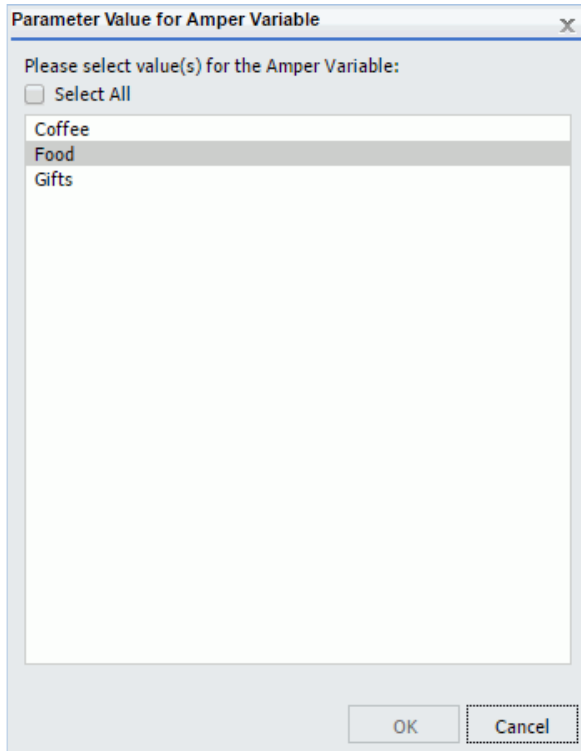
Default Value:

☐ Always Use Default Value Specified in the Procedure

Data Type: Minimum: Maximum:

OK Cancel

[パラメータのプロパティ] セクションで [値] ボタンをクリックすると、下図のように、選択可能な値のリストが表示されます。Ctrl キーを押しながら、静的複数選択リストから複数の値を選択することができます。



例 パラメータ値の動的複数選択リストの追加

次のプロシジャには、PRODNAME フィールドで有効な動的複数値の選択リストが含まれています。このリストは、GGSales データソースの値から、動的に作成されます。

```
-DEFAULT &STATE=NY;  
TABLE FILE GGSales  
SUM DOLLARS UNITS  
BY ST  
BY CATEGORY  
BY PRODUCT  
ON TABLE SUBHEAD  
"Product Sales Report"  
WHERE ST EQ '&STATE.2-3 letters for US State.'  
WHERE PRODUCT EQ '&PRODUCT.(OR(FIND PRODUCT IN GGSales)).Product Name.'  
END
```

下図は、[タスクのパラメータ] ダイアログボックスに表示された CATEGORY パラメータを示しています。CATEGORY パラメータは、GGSALES データソースに存在する任意の値を使用するよう定義されています。これらの選択値は、[値] 列に表示されます。CATEGORY パラメータにはパラメータ選択値リストが設定されているため、デフォルト値は指定されていません。そのため、[デフォルトの使用] 列はブランクです。

The image shows a 'Task Parameters' dialog box. It contains a table with columns: Name, Description, Display Value, Value, Use Default, and an empty column. Two parameters are listed: 'STATE' and 'PRODUCT'. The 'PRODUCT' row is highlighted. Below the table are buttons: Up, Down, New, Delete, and Refresh. Below the buttons is a 'Parameter Properties' section for the selected 'PRODUCT' parameter. It includes fields for Type (Report Defined), Name (PRODUCT), Description (Product Name), Value (Latte), Display Value, and Default Value (_FOC_NULL). There is also a checkbox for 'Always Use Default Value Specified in the Procedure' and fields for Data Type, Minimum, and Maximum.

Name	Description	Display Value	Value	Use Default	
STATE	2-3 letters for US State			Yes	
PRODUCT	Product Name		'Latte'		

Up Down New Delete Refresh

Parameter Properties

Type: Report Defined

Name: PRODUCT

Description: Product Name

Value: 'Latte'

Display Value:

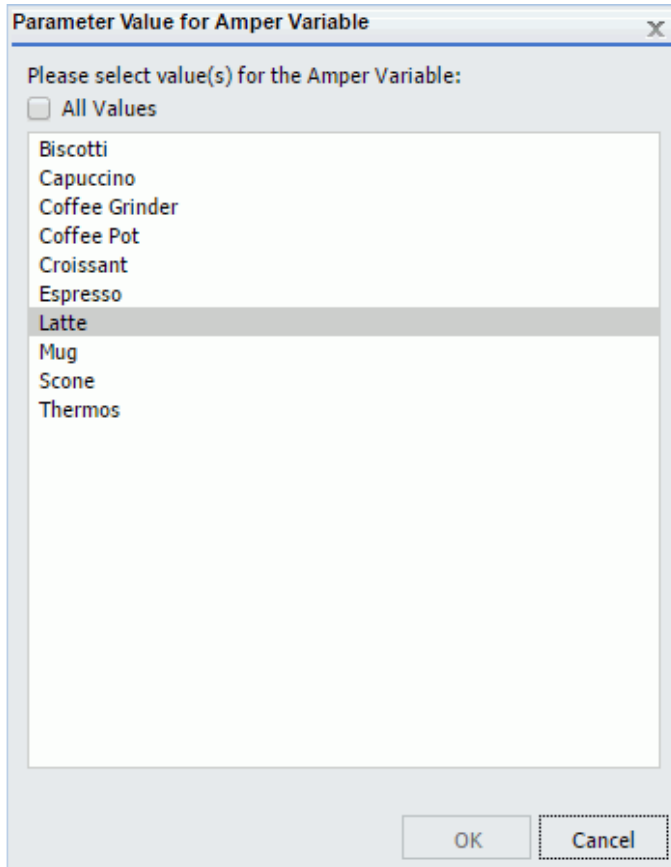
Default Value: '_FOC_NULL'

☐ Always Use Default Value Specified in the Procedure

Data Type: Minimum: Maximum:

OK Cancel

[パラメータのプロパティ] セクションで [値] ボタンをクリックすると、下図のように、選択可能な値のリストが表示されます。Ctrl キーを押しながら、動的複数選択リストから複数の値を選択することができます。

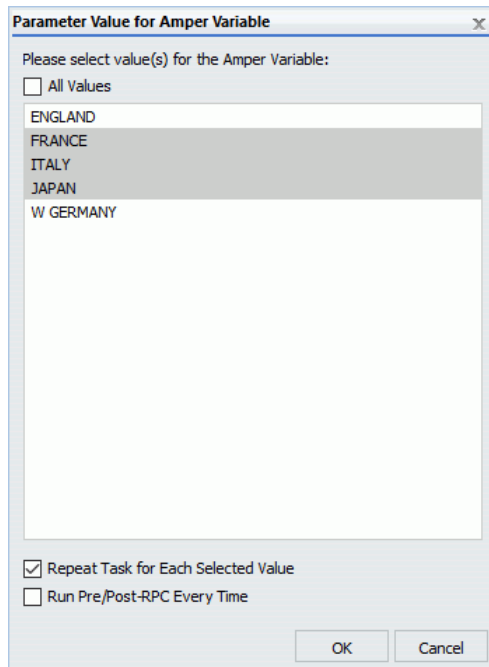


パラメータ値による Active Dashboard および複合レポートのバースト

標準のバースト機能を使用して単一レポートをセクション別にユーザ配信する方法のほかに、静的または動的複数選択パラメータのフィルタを使用してレポートをセクション別に配信することもできます。

インタラクティブレポートを含む複合レポートの Active Dashboard および Excel フォーマット出力を使用するレポートは、これらのレポートで保存されたパラメータ値を使用してバーストすることができます。また、目次を含む Excel レポートをバーストすることもできます。これらのレポートをバーストするには、最初の BY フィールド以外のフィールドを使用します。

各パラメータを個別にバーストするためには、[各選択値でタスクを繰り返す] のチェックをオンにする必要があります。下図のように、ベーシックスケジュールツールでは、[各選択値でタスクを繰り返す] のチェックボックスには [変数のパラメータ] ダイアログボックスからアクセスできます。



注意

- ❑ デフォルト設定では、このチェックはオフになっています。
- ❑ [各選択値でタスクを繰り返す] チェックボックスは、静的または動的複数選択パラメータでのみ表示されます。
- ❑ 少なくとも 1 つのパラメータ値を選択する必要があります。
- ❑ [すべての値] のチェックがオンの場合、[タスクのパラメータ] ダイアログボックスの [値] 列に「_FOC_NULL」と表示されます。サーバは、実行時に WFDDescribe を実行し、パラメータ値のリストを生成します。
- ❑ [各選択値でタスクを繰り返す] 機能は、一度に 1 つのパラメータにのみ適用することができます。

- ❑ [タスク] タブ内の [バーストレポート] のチェックが最初にオンになっている場合、[各選択値でタスクを繰り返す] 機能は無効になり、チェックボックスが選択不可になります。単一スケジュールで 2 つのバースト方法を組み合わせることはできません。
- ❑ [変数のパラメータ] ダイアログボックスで [各選択値でタスクを繰り返す] のチェックがオンになっている場合、[タスク] タブ内の [バーストレポート] チェックボックスは、[パラメータ化レポートフィルタでバースト] チェックボックスになります。このチェックボックスは自動的に選択され、[各選択値でタスクを繰り返す] のチェックをオフにしない限り選択解除されません。

下図のように、選択した値が、[タスクのパラメータ] ダイアログボックスの [値] 列に大括弧 ([]) で囲まれて表示され、これらが選択値であることが示されます。

Name	Description	Display Value	Value	Use Default
COUNTRY	COUNTRY:		["JAPAN","ITALY","FRAN"]	

Up Down New Delete Refresh

Parameter Properties

Type: Report Defined

Name: COUNTRY

Description: COUNTRY:

Value... ["JAPAN","ITALY","FRANCE"]

Display Value:

Default Value: '_FOC_NULL'

☐ Always Use Default Value Specified in the Procedure

Data Type: Minimum: Maximum:

OK Cancel

スケジュールが実行されると、Distribution Server は、選択した各パラメータのタスクの実行を繰り返します。たとえば、パラメータ値の Japan、Italy、France が選択され、[各選択値でタスクを繰り返す] のチェックがオンの場合、スケジュールはレポート情報を 3 つの分割されたレポートにバーストします。下図のように、各レポートには、選択した 3 つのパラメータのいずれかに関連する情報が表示されます。

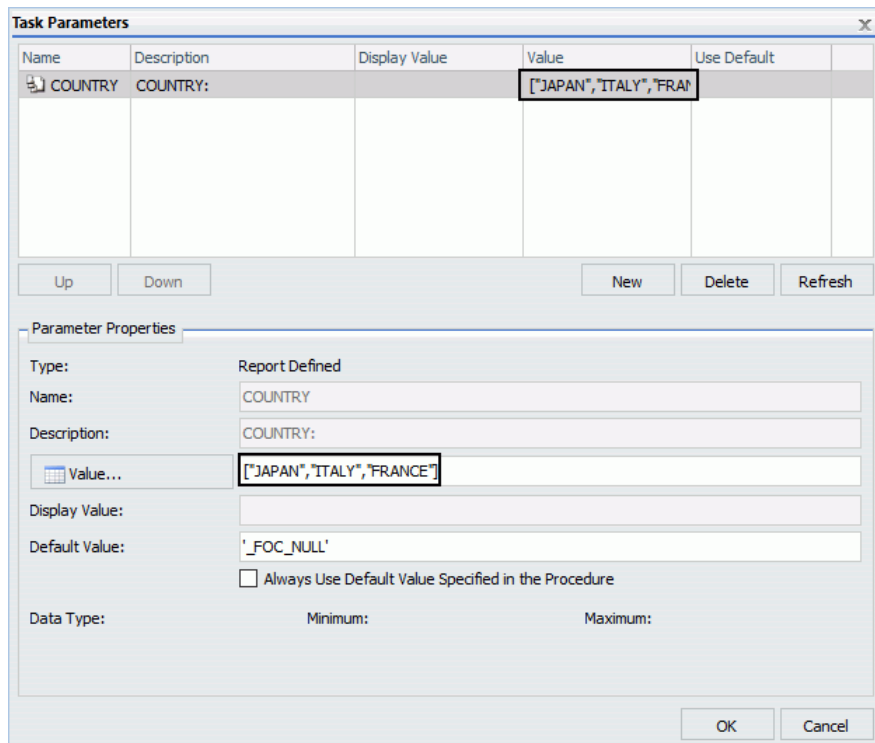


手順

ベーシックスケジュールでフィルタが設定された Active Dashboard または Excel 複合レポートをバーストするには

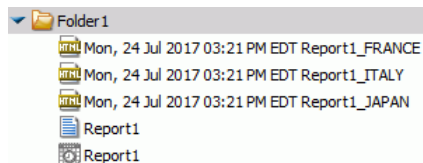
1. 少なくとも 1 つの静的または動的複数選択パラメータを含む Active Dashboard または Excel 複合レポートを作成します。
2. レポートを右クリックして [スケジュール] を選択し、ベーシックスケジュールを開始する配信方法を選択します。
3. [オプション] グループで、[パラメータ] をクリックします。
[タスクのパラメータ] ダイアログボックスが開きます。
4. 編集するパラメータを選択します。
パラメータを選択すると、選択したパラメータについての情報が [パラメータのプロパティ] セクションに入力されます。
5. [パラメータのプロパティ] セクションで、[値] ボタンをクリックします。
注意: [値] ボタンを選択可能にするには、選択したパラメータが複数選択パラメータである必要があります。
[変数のパラメータ] ダイアログボックスが開きます。
6. スケジュールをバーストする値を選択します。Ctrl キーを押しながら、マウスを使用して複数の値を選択します。すべての値を選択するには、[すべての値] のチェックをオンにします。
7. [各選択値でタスクを繰り返す] のチェックをオンにします。
8. [OK] をクリックします。

下図のように、選択したパラメータ値が、[タスクのパラメータ] ダイアログボックスの [値] 列に、大括弧 ([]) で囲まれて表示されます。



9. [OK] をクリックします。
10. スケジュールのその他すべての必須オプションおよび設定を入力後、スケジュールを保存します。詳細は、111 ページの「[ベーシックスケジュールツールによるスケジュールの作成](#)」を参照してください。
11. スケジュールを実行します。

下図のように、スケジュールが実行されると、選択したバーストパラメータごとにレポートが配信されます。



フィルタ設定済みおよびフィルタ未設定レポートを含む Active Dashboard または Excel 複合レポートのバースト

フィルタ設定済みおよびフィルタ未設定レポートを含む Active Dashboard または Excel 複合レポートを作成する場合、フィルタ設定済みレポートのみバースト構成することができます。

下図では、InfoAssist+ で作成した 2 つのレポートが 1 つのダッシュボード上に表示されています。MODEL、CAR、COUNTRY、DEALER_COST のデータを示すレポートには、COUNTRY フィルタが適用されており、ユーザはレポート結果を国別にフィルタすることができます。MODEL および RETAIL_COST のデータを示すレポートにはフィルタが設定されていません。

MODEL	CAR	COUNTRY	DEALER_COST
100 LS 2 DOOR AUTO	AUDI	W GERMANY	5,063
2000 4 DOOR BERLINA	ALFA ROMEO	ITALY	4,915
2000 GT VELOCE	ALFA ROMEO	ITALY	5,660
2000 SPIDER VELOCE	ALFA ROMEO	ITALY	5,660
2002 2 DOOR	BMW	W GERMANY	5,800
2002 2 DOOR AUTO	BMW	W GERMANY	6,000
3 0 Si 4 DOOR	BMW	W GERMANY	10,000
3 0 Si 4 DOOR AUTO	BMW	W GERMANY	11,000
504 4 DOOR	PEUGEOT	FRANCE	4,631
530i 4 DOOR	BMW	W GERMANY	8,300
530i 4 DOOR AUTO	BMW	W GERMANY	8,400
B210 2 DOOR AUTO	DATSUN	JAPAN	2,626
COROLLA 4 DOOR DIX AUTO	TOYOTA	JAPAN	2,886
DORA 2 DOOR	MASERATI	ITALY	25,000
INTERCEPTOR III	JENSEN	ENGLAND	14,940
TR7	TRIUMPH	ENGLAND	4,292
V12XKE AUTO	JAGUAR	ENGLAND	7,427
XJ12L AUTO	JAGUAR	ENGLAND	11,194

MODEL	RETAIL_COST
100 LS 2 DOOR AUTO	5,970
2000 4 DOOR BERLINA	5,925
2000 GT VELOCE	6,620
2000 SPIDER VELOCE	6,620
2002 2 DOOR	5,940
2002 2 DOOR AUTO	6,355
3 0 Si 4 DOOR	13,752
3 0 Si 4 DOOR AUTO	14,123
504 4 DOOR	5,610
530i 4 DOOR	9,097
530i 4 DOOR AUTO	9,495
B210 2 DOOR AUTO	3,139
COROLLA 4 DOOR DIX AUTO	3,339
DORA 2 DOOR	31,500
INTERCEPTOR III	17,850
TR7	5,100
V12XKE AUTO	8,878
XJ12L AUTO	13,491

スケジュールツールを使用して、この複合レポートの [タスクのパラメータ] にアクセスする場合、パラメータの編集はフィルタ設定済みレポートにのみ適用されます。つまり、フィルタ設定済みレポートのパラメータにのみ値を割り当てることができるということです。下図はこの例を示しています。この場合、COUNTRY パラメータに割り当てられた値が表示されます。

Name	Description	Display Value	Value	Use Default
COUNTRY	COUNTRY:		["W GERMANY","JAPAN","FRANCE"]	

Up Down New Delete Refresh

Parameter Properties

Type: Report Defined

Name: COUNTRY

Description: COUNTRY:

Value: ["W GERMANY","JAPAN","FRANCE"]

Display Value:

Default Value: '_FOC_NULL'

☐ Always Use Default Value Specified in the Procedure

Data Type: Minimum: Maximum:

OK Cancel

複合レポートのバースト配信をスケジュールする際に、[各選択値でタスクを繰り返す] のチェックがオンの場合、フィルタの設定されたレポートが、選択したパラメータ値に基づいてバーストされます。下図では、複合レポートが 3 つのバーストレポートに分割されて配信されます。この場合、各バーストレポートには、それぞれ W GERMANY、FRANCE、JAPAN でフィルタされたデータが表示されます。



各バーストレポートでは、1 つ目のレポートに選択した COUNTRY 値のデータが表示されます。

下図は、W GERMANY のバースト複合レポートを示しています。

MODEL	CAR	COUNTRY	DEALER_COST	MODEL	RETAIL_COST
100 LS 2 DOOR AUTO	AUDI	W GERMANY	5,063	100 LS 2 DOOR AUTO	5,970
2002 2 DOOR	BMW	W GERMANY	5,800	2000 4 DOOR BERLINA	5,925
2002 2 DOOR AUTO	BMW	W GERMANY	6,000	2000 GT VELOCE	6,820
3.0 SI 4 DOOR	BMW	W GERMANY	10,000	2000 SPIDER VELOCE	6,820
3.0 SI 4 DOOR AUTO	BMW	W GERMANY	11,000	2002 2 DOOR	5,940
530i 4 DOOR	BMW	W GERMANY	8,300	2002 2 DOOR AUTO	6,355
530i 4 DOOR AUTO	BMW	W GERMANY	8,400	3.0 SI 4 DOOR	13,752
7 of 7 records, Page 1 of 1				3.0 SI 4 DOOR AUTO	14,123
				504 4 DOOR	5,610
				530i 4 DOOR	9,097
				530i 4 DOOR AUTO	9,495
				B210 2 DOOR AUTO	3,139
				COROLLA 4 DOOR DIX AUTO	3,339
				DORA 2 DOOR	31,500
				INTERCEPTOR III	17,850
				TR7	5,100
				V12XKE AUTO	8,878
				XJ12L AUTO	13,491
				18 of 18 records, Page 1 of 1	

2 つ目のレポートにはフィルタが適用されていないため、2 つ目のレポートの結果は、各バースト複合レポートで同一になります。COUNTRY フィルタが適用されたレポートのみが変更されます。

フィルタ設定済みレポートのみを含む Active Dashboard または Excel 複合レポートのバースト

フィルタ設定済みレポートのみを含む Active Dashboard または Excel 複合レポートをバーストする場合、すべてのレポートにバーストを適用することができます。

ベーシックスケジュールツールのタスクの概要

下図では、InfoAssist+ で作成した 2 つのレポートが 1 つのダッシュボード上に表示されています。両方のレポートで、MODEL データに対して同一のフィルタが使用されます。

The screenshot shows the InfoAssist+ interface. On the left, the 'Query' pane displays a tree structure for 'Report1 (car)' and 'Report2 (car)'. Both reports are filtered by 'MODEL'. The 'Document' pane on the right shows two tables side-by-side. The left table, 'Report1 (car)', lists car models, their countries, and dealer costs. The right table, 'Report2 (car)', lists the same car models and their retail costs. Both tables are filtered by the 'MODEL' field.

MODEL	CAR	COUNTRY	DEALER_COST
100 LS 2 DOOR AUTO	AUDI	W GERMANY	5,063
2000 4 DOOR BERLINA	ALFA ROMEO	ITALY	4,915
2000 GT VELOCE	ALFA ROMEO	ITALY	5,660
2000 SPIDER VELOCE	ALFA ROMEO	ITALY	5,660
2002 2 DOOR	BMW	W GERMANY	5,800
2002 2 DOOR AUTO	BMW	W GERMANY	6,000
3.0 SI 4 DOOR	BMW	W GERMANY	10,000
3.0 SI 4 DOOR AUTO	BMW	W GERMANY	11,000
504 4 DOOR	PEUGEOT	FRANCE	4,631
530i 4 DOOR	BMW	W GERMANY	8,300
530i 4 DOOR AUTO	BMW	W GERMANY	8,400
B210 2 DOOR AUTO	DATSUM	JAPAN	2,626
COROLLA 4 DOOR DIX AUTO	TOYOTA	JAPAN	2,886
DORA 2 DOOR	MASERATI	ITALY	25,000
INTERCEPTOR III	JENSEN	ENGLAND	14,940
TR7	TRIUMPH	ENGLAND	4,292
V12XKE AUTO	JAGUAR	ENGLAND	7,427
XJ12L AUTO	JAGUAR	ENGLAND	11,194

MODEL	RETAIL_COST
100 LS 2 DOOR AUTO	5,970
2000 4 DOOR BERLINA	5,925
2000 GT VELOCE	6,820
2000 SPIDER VELOCE	6,820
2002 2 DOOR	5,940
2002 2 DOOR AUTO	6,355
3.0 SI 4 DOOR	13,752
3.0 SI 4 DOOR AUTO	14,123
504 4 DOOR	5,610
530i 4 DOOR	9,097
530i 4 DOOR AUTO	9,495
B210 2 DOOR AUTO	3,139
COROLLA 4 DOOR DIX AUTO	3,339
DORA 2 DOOR	31,500
INTERCEPTOR III	17,850
TR7	5,100
V12XKE AUTO	8,878
XJ12L AUTO	13,491

The screenshot shows the InfoAssist+ interface. On the left, the 'Query' pane displays a tree structure for 'Report1 (car)' and 'Report2 (car)'. Both reports are filtered by 'MODEL'. The 'Document' pane on the right shows two tables side-by-side. The left table, 'Report1 (car)', lists car models, their countries, and dealer costs. The right table, 'Report2 (car)', lists the same car models and their retail costs. Both tables are filtered by the 'MODEL' field.

MODEL	CAR	COUNTRY	DEALER_COST
100 LS 2 DOOR AUTO	AUDI	W GERMANY	5,063
2000 4 DOOR BERLINA	ALFA ROMEO	ITALY	4,915
2000 GT VELOCE	ALFA ROMEO	ITALY	5,660
2000 SPIDER VELOCE	ALFA ROMEO	ITALY	5,660
2002 2 DOOR	BMW	W GERMANY	5,800
2002 2 DOOR AUTO	BMW	W GERMANY	6,000
3.0 SI 4 DOOR	BMW	W GERMANY	10,000
3.0 SI 4 DOOR AUTO	BMW	W GERMANY	11,000
504 4 DOOR	PEUGEOT	FRANCE	4,631
530i 4 DOOR	BMW	W GERMANY	8,300
530i 4 DOOR AUTO	BMW	W GERMANY	8,400
B210 2 DOOR AUTO	DATSUM	JAPAN	2,626
COROLLA 4 DOOR DIX AUTO	TOYOTA	JAPAN	2,886
DORA 2 DOOR	MASERATI	ITALY	25,000
INTERCEPTOR III	JENSEN	ENGLAND	14,940
TR7	TRIUMPH	ENGLAND	4,292
V12XKE AUTO	JAGUAR	ENGLAND	7,427
XJ12L AUTO	JAGUAR	ENGLAND	11,194

MODEL	RETAIL_COST
100 LS 2 DOOR AUTO	5,970
2000 4 DOOR BERLINA	5,925
2000 GT VELOCE	6,820
2000 SPIDER VELOCE	6,820
2002 2 DOOR	5,940
2002 2 DOOR AUTO	6,355
3.0 SI 4 DOOR	13,752
3.0 SI 4 DOOR AUTO	14,123
504 4 DOOR	5,610
530i 4 DOOR	9,097
530i 4 DOOR AUTO	9,495
B210 2 DOOR AUTO	3,139
COROLLA 4 DOOR DIX AUTO	3,339
DORA 2 DOOR	31,500
INTERCEPTOR III	17,850
TR7	5,100
V12XKE AUTO	8,878
XJ12L AUTO	13,491

スケジュールツールから、この複合レポートの [タスクのパラメータ] にアクセスすると、両方のレポートに MODEL の値を指定することができます。

下図のように、MODEL パラメータにはフィルタ値として、3.0 SI 4 DOOR、100 LS 2 DOOR AUTO、XJ12L AUTO、B210 2 DOOR AUTO、2000 SPIDER VELOCE の値が選択されています。

Parameter Value for Amper Variable

Please select value(s) for the Amper Variable:

☐ All Values

100 LS 2 DOOR AUTO
2000 4 DOOR BERLINA
2000 GT VELOCE
2000 SPIDER VELOCE
2002 2 DOOR
2002 2 DOOR AUTO
3.0 SI 4 DOOR
3.0 SI 4 DOOR AUTO
504 4 DOOR
530I 4 DOOR
530I 4 DOOR AUTO
B210 2 DOOR AUTO
COROLLA 4 DOOR DIX AUTO
DORA 2 DOOR
INTERCEPTOR III
TR7
V12XKE AUTO
XJ12L AUTO

☒ Repeat Task for Each Selected Value

☐ Run Pre/Post-RPC Every Time

OK Cancel

下図のように、選択した値は、[タスクのパラメータ] ダイアログボックスで大括弧 ([]) に囲まれて表示されます。

Name	Description	Display Value	Value	Use Default
MODEL	MODEL:		["3.0 SI 4 DOOR","100 LS 2 DOOR AUTO","XJ	

Up Down New Delete Refresh

Parameter Properties

Type: Report Defined

Name: MODEL

Description: MODEL:

Value... ["3.0 SI 4 DOOR","100 LS 2 DOOR AUTO","XJ12L AUTO","B210 2 DOOR AUTO","2000 S

Display Value:

Default Value: ' FOC_NULL'

☐ Always Use Default Value Specified in the Procedure

Data Type: Minimum: Maximum:

OK Cancel

複合レポートのバースト配信をスケジュールする際に、[各選択値でタスクを繰り返す] のチェックがオンの場合、選択したパラメータ値に基づいてバーストレポートが作成されます。下図では、複合レポートは 5 つの複合レポートにバースト配信され、各レポートには、選択した MODEL でフィルタされたデータが表示されます。

Example	
Document2	
Document2	
HTML	Fri, 26 May 2017 03:43 PM EDT Document2_100 LS 2 DOOR AUTO
HTML	Fri, 26 May 2017 03:43 PM EDT Document2_2000 SPIDER VELOCE
HTML	Fri, 26 May 2017 03:43 PM EDT Document2_3.0 SI 4 DOOR
HTML	Fri, 26 May 2017 03:43 PM EDT Document2_B210 2 DOOR AUTO
HTML	Fri, 26 May 2017 03:43 PM EDT Document2_XJ12L AUTO

各バースト複合レポートでは、両方のレポートに選択した MODEL のデータが表示されます。下図は、3.0 SI 4 DOOR という MODEL の情報が選択されたバースト複合レポートを示しています。バースト複合レポート内の両方のレポートに、選択した MODEL の情報のみが表示されます。

MODEL ▼	CAR ▼	COUNTRY ▼	DEALER_COST ▼	MODEL ▼	RETAIL_COST ▼
3.0 SI 4 DOOR	BMW	W GERMANY	10,000	3.0 SI 4 DOOR	13,752
1 of 1 records, Page 1 of 1				1 of 1 records, Page 1 of 1	

パラメータの削除

スケジュール済みジョブが正常に実行されるようにするため、レポートプロシジャ (FEX) をスケジュールする際は、削除するパラメータが次のように処理されることを確認しておくことが重要です。

- ☐ デフォルト値は、スケジュールを作成しているレポートプロシジャ (FEX) で指定されます。
- ☐ パラメータの値は、スケジュール済みジョブが Reporting Server で実行される際に、レポートプロシジャ (FEX) の処理によって、動的に割り当てられます。
- ☐ レポートプロシジャ (FEX) が Reporting Server で処理される際は、パラメータは参照されません。

パラメータを削除してスケジュール情報に表示されないようにするには、パラメータのテーブルでパラメータを選択し、[削除] ボタンをクリックします。

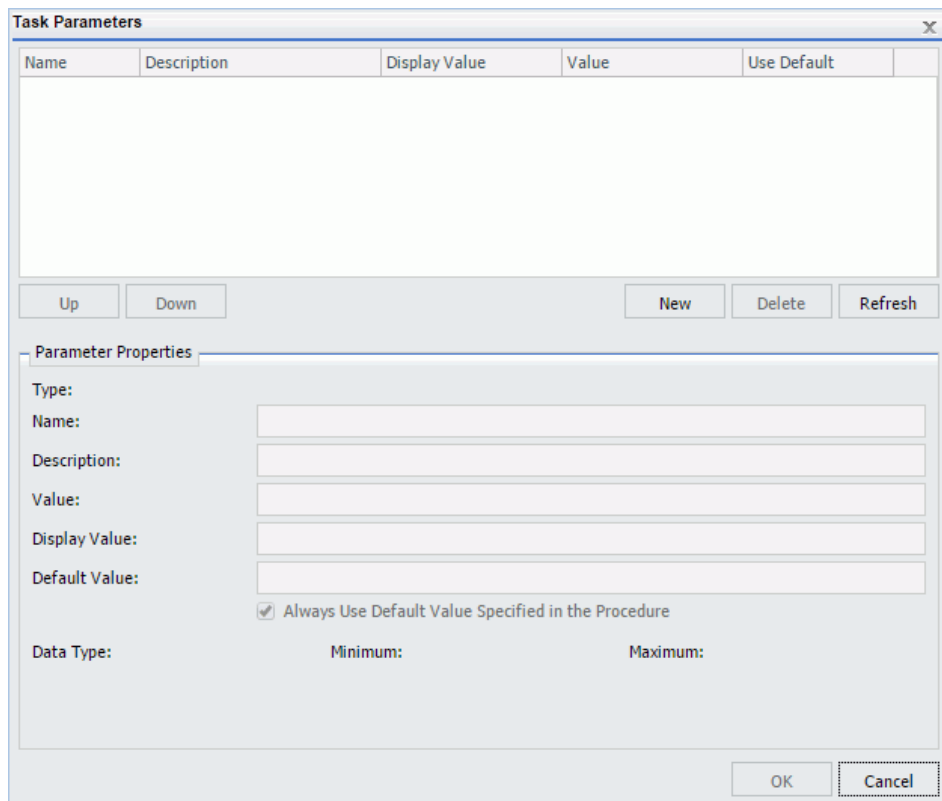
新規パラメータの作成

スケジュール中のレポートプロシジャで未定義のパラメータと値を、スケジュールジョブによって送信する必要がある場合は、[タスクのパラメータ] ダイアログボックスで新しいパラメータを作成することができます。スケジュール済みジョブを正常に実行するには、Reporting Server が処理中に参照するパラメータに、値を割り当てる必要があります。必須のパラメータ値が提供されなかった場合は、スケジュールのジョブログレポートに、その情報が格納されません。

手順 新しいパラメータを作成するには

タスクのパラメータを作成するには、次の手順を実行します。

1. 下図のように、リボンの [パラメータ] をクリックし、[タスクのパラメータ] ダイアログボックスを表示します。



The image shows the 'Task Parameters' dialog box. It has a title bar with a close button (X). Inside, there is a table with the following columns: Name, Description, Display Value, Value, and Use Default. Below the table are buttons for 'Up', 'Down', 'New', 'Delete', and 'Refresh'. Below these buttons is a section titled 'Parameter Properties'. This section contains several input fields: 'Name:', 'Description:', 'Value:', 'Display Value:', and 'Default Value:'. There is also a checkbox labeled 'Always Use Default Value Specified in the Procedure' which is checked. At the bottom of the 'Parameter Properties' section, there are labels for 'Data Type:', 'Minimum:', and 'Maximum:'. At the very bottom of the dialog box are 'OK' and 'Cancel' buttons.

Name	Description	Display Value	Value	Use Default
------	-------------	---------------	-------	-------------

Up Down New Delete Refresh

Parameter Properties

Type:

Name:

Description:

Value:

Display Value:

Default Value:

☒ Always Use Default Value Specified in the Procedure

Data Type: Minimum: Maximum:

OK Cancel

2. [パラメータのプロパティ] セクションの上部にある [新規作成] ボタンをクリックします。

下図のように、[タスクのパラメータ] ダイアログボックスが表示されます。

The image shows a 'Task Parameter' dialog box. It has a title bar with a close button (X). Inside, there are two labels: 'Name:' and 'Value:'. Each label is followed by a text input field. At the bottom right, there are two buttons: 'OK' and 'Cancel'.

3. [名前] および [値] テキストボックスに、値を入力します。
4. [OK] をクリックします。
[タスクのパラメータ] ダイアログボックスの [パラメータ] テーブルの [名前] と [値] に、それぞれの値が表示されます。
5. パラメータ値を変更する場合は、[パラメータ] テーブルでパラメータを選択し、[パラメータのプロパティ] セクションの [値] テキストボックスで値を指定します。
6. タスクのパラメータ設定の入力を完了後、[OK] をクリックします。

レポートフォーマットの選択

フォーマットを選択する際は、次のガイドラインに従います。

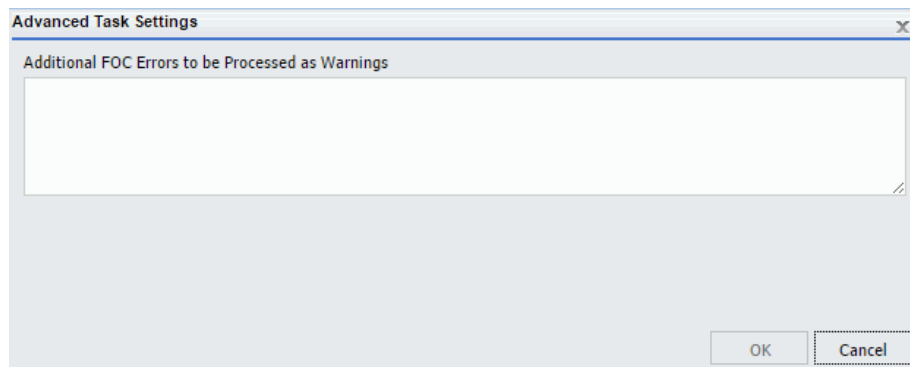
- ❑ バーストをサポートするフォーマットは、AHTML、DHTML、DOC、EXL2K、EXL2K FORMULA、EXL97、HTML、JPEG、PDF、PNG、PS、SVG、WP です。統合された複合レポートのバーストは、DHTML フォーマット、PDF フォーマット、PPT フォーマットのみでサポートされます。
- ❑ フォーマットを選択すると、[保存レポート名] テキストボックスで指定された出力ファイル名には、適切なファイル拡張子が自動的に追加されます。この拡張子は、手動による変更が必要な場合があります。たとえば、スケジュールで DHTML フォーマットを選択し、レポート出力が Web アーカイブファイル以外の場合は、拡張子を .htm に変更します。スケジュールで HTML フォーマットを選択し、レポート出力が Web アーカイブファイルの場合は、拡張子を .mht に変更します。スケジュールで EXL07 TEMPLATE フォーマットを選択し、指定されたテンプレートでマクロが有効な場合は、拡張子を .xlsm に変更する必要があります。DHTML フォーマットおよび EXL07 TEMPLATE フォーマットについての詳細は、205 ページの「[スケジュール出力の Report Broker フォーマット](#)」を参照してください。

- ❑ WP フォーマット、DOC フォーマット、PS フォーマットは、プリンタ配信をサポートします。また、Report Broker で PDF のプリンタ配信が構成され、プリンタで適切なドライバが構成されている場合は、PDF フォーマットのプリンタ配信がサポートされます。
- ❑ [プロシジャで指定されたフォーマットを上書きする] オプションを使用してフォーマットを選択した場合、埋め込み Email 配信が可能なフォーマットは、HTML、DHTML、WP、DOC、DHTML、DOC、GIF、HTML、JPEG、PNG、SVG、WP のみです。[プロシジャで指定されたフォーマットを上書きする] オプションを使用せず、埋め込み配信がサポートされないフォーマットで埋め込みオプションを選択した場合、出力は添付ファイルとして配信されます。また、レポートを Email に埋め込んで配信する場合、レポートの表示がメールサーバの影響を受けたり、Email がブロックされる可能性があります。JavaScript、埋め込みイメージ、CSS 参照を使用するレポートフォーマットとオプションを使用する前に、メールサーバプロバイダの制限を確認してください。

タスクの詳細設定

[タスクの詳細設定] タブでは、[警告として処理する追加の FOC エラー] ダイアログボックスを開き、1 つ以上の FOC エラーメッセージ番号をカンマ区切りで指定することができます。これらの FOCUS エラー番号のいずれかがスケジュール実行中に検出された場合、Report Broker はそのスケジュール実行をエラーではなく、警告として処理します。たとえば、プロシジャから FOC1517 エラーが生成される場合、テキストボックスに「1517」を追加すると、このエラーが警告に変換されます。つまり、レポートが生成された場合、FOCUS エラー番号に関係なくレポートが配信されます。また、エラー発生時に通知を送信するようスケジュールが構成されている場合でも、この FOCUS エラー番号でエラー通知が送信されることはありません。

下図は、[タスクの詳細設定] ダイアログボックスを示しています。



ベーシックスケジュールツールの配信オプション

ベーシックスケジュールツールの [配信] タブには、レポートプロシジャ (FEX) のレポート出力をスケジュール配信する際に指定可能なオプションが表示されます。プロシジャのコンテキストメニューから次のいずれかの配信方法を選択して、レポート出力を配信することができます。

- ☐ Email
- ☐ FTP
- ☐ プリンタ
- ☐ リポジトリ

注意

- ☐ 配信方法は、Report Broker の構成でグローバル (すべてのユーザ向け) に制限することや、セキュリティ処理でグループまたは個別ユーザを対象として制限することができます。
- ☐ マップは、Web Query リポジトリにのみ配信することができます。
- ☐ テキストフォーマットで配信されるレポートから末尾のブランクを削除するには、管理者が管理コンソールの [カスタム設定] テキストボックスに「IBIWF_trimreport=YES」を追加する必要があります。また、この設定を特定のレポートフォーマットに適用するには、たとえば「IBIWF_trimreport=WP」と入力します。

ベーシックスケジュールツールでの Email 配信オプションの使用

Email でレポートを配信する際、レポートは Email の本文に埋め込んで送信することや、添付ファイルとして送信することができます。埋め込み Email 配信が可能なフォーマットは、HTML、DHTML、WP、DOC のみです。

注意： Email 配信を使用するスケジュールを作成するには、Email 配信の権限が必要です。

レポート出力を Email メッセージの本文として配信する方法は、特にモバイルデバイス、または添付ファイルをサポートしない Email システムに配信する際に役立ちます。

後述するとおり、レポートを FAX 配信することも可能です。

注意

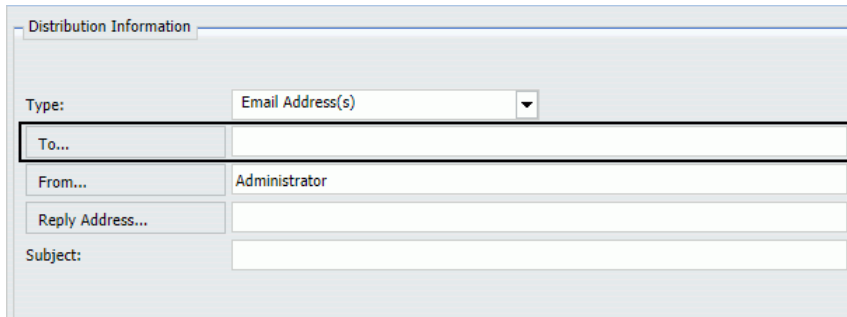
- ☐ スケジュール作成時に Email の本文に埋め込んで送信するオプションが利用できるかどうかは、(Report Broker ステータス) の [埋め込みレポート配信] 設定に応じて異なります。
- ☐ 埋め込み Email メッセージとして配信されたレポートの表示は、使用するメールサーバまたはメールクライアントの設定および制限事項の影響を受けます。

- ❑ Report Broker ステータスの [許可する Email ドメインとアドレス] ダイアログボックスで、[入力をこのリストに制限する] のチェックがオンになっている場合、Email アドレスの入力は、許可する Email ドメインとアドレスのリストに制限されます。詳細は、45 ページの「[許可する Email ドメインおよびアドレスの確認](#)」を参照してください。

参照

複数 Email アドレスへのレポート送信時の考慮事項

Email 配信を使用するスケジュールを作成する際は、下図のように、[選択] テキストボックスに Email アドレスを入力することができます。



[選択] テキストボックスに複数の Email アドレスを入力する場合、各 Email アドレス間にセミコロン (;) またはカンマ (,) を使用して、Distribution Server の情報配信先を指定することができます。

例

選択テキストボックスでのカンマ区切り Email アドレス

Email アドレスの区切り文字にカンマ (,) を使用する場合、すべての Email アドレスがすべての Email 受信者に表示されます。

スケジュールは、「Sales_Metrics_YTD.htm」という名前のレポートをこれらの Email アドレスに配信します。このスケジュールを実行すると、下図のように、ログレポートには、「Sales_Metrics_YTD.htm」という名前の 1 つのレポートが、両方の Email アドレスに単一 Email で送信されたことが記述されます。

例

選択テキストボックスでのセミコロン区切り Email アドレス

Email アドレスの区切り文字にセミコロン (;) を使用する場合、各受信者には受信者本人の Email アドレスのみが表示されます。

スケジュールは、「Sales_Metrics_YTD.htm」という名前のレポートをこれらの Email アドレスに配信します。このスケジュールを実行すると、ログレポートには、「Sales_Metrics_YTD.htm」という名前の 2 つのレポートが、EmailA@tibco.com と EmailB@tibco.com にそれぞれ個別の Email で送信されたことが記述されます。

手順

Email 配信オプションを使用するには

パラメータ (変数) は、スケジュールの Email 設定で値を指定する際に使用することができます。これらのパラメータは、&YYMD などのシステム変数にすることも、スケジュール済みプロセスの実行時に Reporting Server から値が返される任意の変数にすることもできます。変数の後にファイル拡張子を表すピリオド (.) を使用するには、変数の末尾に縦棒 (|) を追加します。たとえば、「&YYMD|.htm」のように指定します。同様に、アンパサンド (&) を文字として使用するには、アンパサンド (&) の後に縦棒 (|) を追加します。たとえば、「Smith&|Jones」のように指定します。スケジュールで指定されたパラメータの値がプロセス実行時に Reporting Server から返されない場合、そのスケジュールは失敗し、「配信するレポートがありません」というエラーメッセージが返されます。スケジュールのタスクでバーストを有効にした場合は、「%BURST」記号を使用してバースト値を含めることもできます。[Email のパッケージ化] が [はい] に設定されている場合、ZIP ファイル名にバースト値は代入されません。

注意: ウォッチリストの Email はスケジュールから配信されるものではないため、ウォッチリストの Email で変数を使用することはできません。ウォッチリストの Email は、Db2 Web Query Reporting Server と接続しない別のプロセスです。

1. レポートプロセス (FEX) を右クリックし、[スケジュール]、[Email] を選択します。
ベーシックスケジュールツールが表示されます。
 2. [配信] タブを選択します。
 3. [タイプ] ドロップダウンリストから、配信先の Email アドレスを提供する方法を選択します。選択肢には、[配信リスト]、[Email アドレス] があります。詳細は、97 ページの「[配信リストの作成と保守](#)」を参照してください。これらのオプションには、すべてレポートプロセス (FEX) の配信先、返信先アドレス、件名が表示されます。また、[Email 情報] セクションで、すべてのレポートを添付ファイルとして送信するか、埋め込みメッセージとして送信するかを選択することもできます。
- ☐ **配信リスト** レポートは、選択した Email 配信リストのすべての Email アドレスに送信されます。詳細は、97 ページの「[配信リストの作成と保守](#)」を参照してください。

- ❑ **Email アドレス** スケジュールツールで Email アドレスを指定する際のデフォルトの指定方法です。このテキストボックスのデフォルト値は、スケジュール作成者の Email アドレスです。[Email アドレス] フィールドには、複数の Email アドレスを指定することができます。各 Email アドレスをカンマ (,) またはセミコロン (;) で区切ります。これらの Email アドレスは、スケジュールの出力の配信先として使用されます。SMTP 規定により、単一 Email アドレスの最大サイズは 130 バイトです。このボックスには、最大 800 バイトの文字を入力可能です。詳細は、106 ページの「[複数 Email アドレスの指定](#)」を参照してください。

また、[Email アドレス] オプションには、(メールサーバで定義された) グループ Email リストを使用することができます。グループメールリストを使用すると、リポジトリに複数の Email アドレスを保持することなく、複数の受信者にレポートまたは通知を配信することができます。グループ Email リストのフォーマットは、使用するメールサーバにより異なります。たとえば、Microsoft Exchange Server を使用しており、グループ Email リストが「#group1」として定義されている場合、[Email アドレス] テキストボックスには「group1@listdomain」と入力します。グループ Email リストの名前にブランクが含まれている場合は、ブランクを二重引用符 (" ") で囲みます。詳細は、メールサーバ管理者に問い合わせてください。

4. [選択] テキストボックスに、受信者の Email アドレスを入力します。
5. 必要に応じて、[選択] ボタンをクリックして [Email アドレスの入力] ダイアログボックスを開き、[宛先]、[CC]、[BCC]、[返信] テキストボックスに Email アドレスを入力します。

注意

- ❑ レポートの各セクションをバーストで異なる Email 受信者に送信するスケジュールを作成することができます。ただし、[CC] または [BCC] テキストボックスに Email アドレスを入力した場合、バーストレポートの各セクションは同一の CC または BCC Email アドレスに送信されます。
 - ❑ [CC] および [BCC] テキストボックスに複数の Email アドレスを入力した場合、アドレスの区切り文字にカンマ (,) を使用するかセミコロン (;) を使用するかに関わらず、[CC] および [BCC] Email は、常に各 Email アドレスに個別に送信されます。
6. [送信者] テキストボックスに、任意の値 (例、スケジュールを作成したユーザ名) を入力します。Report Broker では、この値の入力は必要ではありませんが、メールシステムによっては必須場合があります。
 7. [返信アドレス] テキストボックスに、有効な Email アドレスを入力します。受信者がこの Email に返信する場合、返信メッセージはこのアドレスに送信されます。Email システムがコンテンツを配信できない場合、配信不可能な出力メッセージがこのアドレスに返送されます。Report Broker では、この項目への入力は必須です。

注意：Report Broker 構成ツールで [デフォルト Email 返信アドレス] が指定されていない場合、このフィールドで使用されるデフォルト返信アドレスは、Db2 Web Query にログインしたユーザの Email アドレスになります。Report Broker は、Db2 Web Query セキュリティシステムからユーザの Email アドレスを取得します。

8. [件名] テキストボックスに、Email の件名行に表示するテキストを入力します。Report Broker この情報は、では必要ではありませんが、メールシステムによっては必須場合があります。スケジュールの [タイトル] テキストボックスに入力した値は、[件名] のデフォルト値として使用されます。
9. [レポートを本文に埋め込む] または [レポートを添付ファイルとして送信] ラジオボタンを選択して、レポートを Email 添付と埋め込みのどちらで送信するかを指定します。詳細は、147 ページの「[ベーシックスケジュールツールでの Email 配信オプションの使用](#)」を参照してください。
10. 必要に応じて、Email 本文に表示される「添付ファイルを参照してください」というデフォルトメッセージの代わりに、新しいメッセージを入力することができます。

注意：Report Broker ステータスの [構成] タブの [Email 配信] 設定で、デフォルト配信メッセージをカスタマイズすることもできます。組織に固有のカスタムメッセージを作成することで、デフォルトメッセージの「添付ファイルを参照してください」を上書きすることができます。このメッセージは、Email 配信でスケジュールを作成する際に表示されます。新しいメッセージは既存のスケジュールに影響しません。

11. 必要に応じて [ファイル] オプションを選択し、Email 配信時の配信メッセージが記述されたファイルを Db2 Web Query リポジトリから選択します。

注意：[ファイル] オプションを使用すると、配信メッセージの情報を一元的に管理することができます。このファイルを複数のスケジュールで使用する際は、スケジュールごとにファイルに変更を加えることもできます。メールクライアントとメールサーバでのサポート要件を考慮する以外に、ファイルの内容にサイズ制限はありません。

12. 必要に応じて、[Email のパケット化] オプションの値を指定するか、デフォルト値を受容します。[Email のパケット化] オプションは、管理者が構成したデフォルト値に設定されています。スケジュールのタスクでバーストを有効にした場合、各受信者に送信する Email 数を指定することができます。次のオプションがあります。

☐ **不可** 各添付ファイルをそれぞれ個別の Email で送信します。

☐ **可能** すべての添付ファイルを 1 通の Email で送信します。

☐ **バースト値** バースト値ごとに複数の添付ファイルを 1 通の Email で送信します。

13. [ZIP ファイルとしてレポートを送信] のチェックのオンとオフを切り替えて、レポートを圧縮ファイル (.zip) として送信するかどうかを指定します。

この設定で、配信レポートをパスワード保護の圧縮ファイルに変換することができます。デフォルト設定では、[ZIP ファイルとしてレポートを送信] のチェックはオフで、レポートは圧縮されません。必要に応じて、配信ファイルまたはダイナミック配信リストにパスワードを含めることで、ZIP ファイルをパスワード保護することができます。

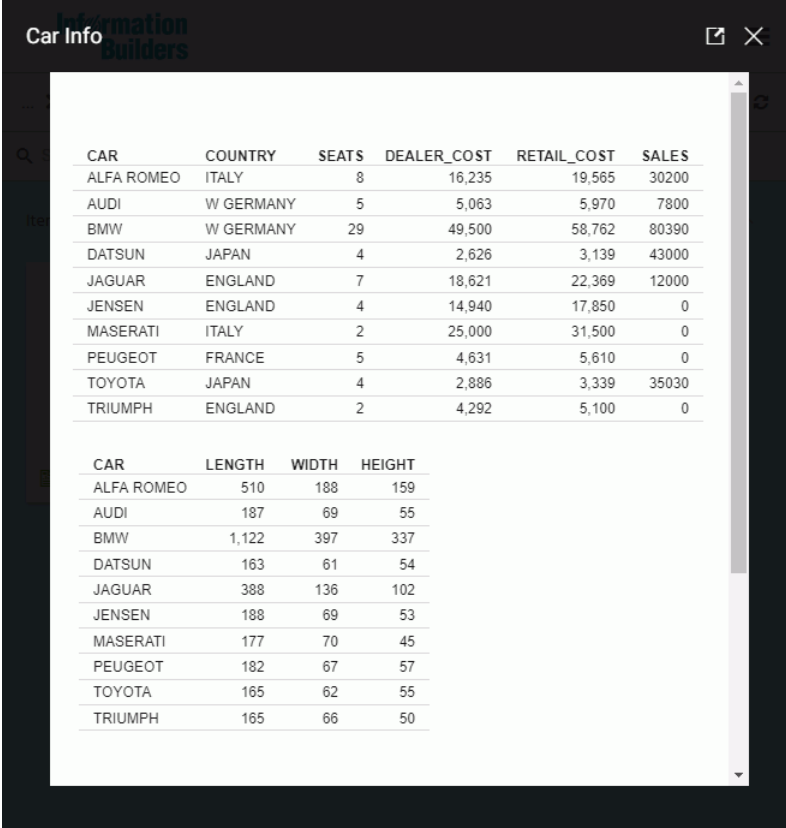
14. [ZIP ファイルとしてレポートを送信] のチェックをオンにした場合は、[ZIP ファイル名] テキストボックスに ZIP ファイル名を入力します。

注意：Windows 7 および Windows 2008 Server R2 で Zip ファイル名および Zip ファイル内のコンテンツに対して Unicode 文字をサポートするには、Microsoft のサイト(<http://support.microsoft.com/kb/2704299/en-us>) から Hotfix を入手する必要があります。この Hotfix を使用しない場合、Windows 7 または Windows 2008 Server R2 で Zip ファイルを解凍した後、ファイル名が文字化けします。

15. 必要に応じて、[ZIP 最小サイズ] (キロバイト) のデフォルト値を上書きすることができます。この最小サイズを超える添付ファイルのみが ZIP ファイルに自動的に追加されます。[ZIP 最小サイズ] オプションは、管理者が構成したデフォルト値に設定されています。デフォルト値を変更し、特定のサイズを超える添付ファイルを自動的に ZIP ファイルに追加するには、この値を適切なサイズに設定します。
16. [通知] タブを選択し、スケジュールジョブステータスの Email 通知を送信するかどうかを指定します。[通知タイプ] として [常に通知] または [エラー時] を選択する場合は、[返信アドレス]、[件名]、[簡易メッセージの宛先]、[詳細メッセージの宛先] を指定する必要があります。
17. [プロパティ] タブを選択し、[タイトル] と [優先度]、再び実行しない場合にスケジュールを削除するかどうか、スケジュールの実行を有効にするかどうかを指定します。詳細は、165 ページの「[ベーシックスケジュールツールのプロパティの概要](#)」を参照してください。
18. [実行間隔] タブを選択し、スケジュールの実行頻度を指定します。スケジュールの実行日時を指定する場合は、[開始日] および [開始時間] をそれ以降の値に設定します。詳細は、166 ページの「[ベーシックスケジュールツールの実行間隔の概要](#)」を参照してください。
19. [保存して閉じる] をクリックして、スケジュールを保存します。

埋め込み Email メッセージとして DHTML レポートを配信する際の考慮事項

通常、埋め込み Email メッセージとして配信された DHTML レポートは正しく表示されません。たとえば、下図は、DHTML フォーマットの複合レポートを示しています。



The screenshot shows a web application window titled "Car Info" with a search bar and a close button. It displays two tables of car information.

CAR	COUNTRY	SEATS	DEALER_COST	RETAIL_COST	SALES
ALFA ROMEO	ITALY	8	16,235	19,565	30200
AUDI	W GERMANY	5	5,063	5,970	7800
BMW	W GERMANY	29	49,500	58,762	80390
DATSUN	JAPAN	4	2,626	3,139	43000
JAGUAR	ENGLAND	7	18,621	22,369	12000
JENSEN	ENGLAND	4	14,940	17,850	0
MASERATI	ITALY	2	25,000	31,500	0
PEUGEOT	FRANCE	5	4,631	5,610	0
TOYOTA	JAPAN	4	2,886	3,339	35030
TRIUMPH	ENGLAND	2	4,292	5,100	0

CAR	LENGTH	WIDTH	HEIGHT
ALFA ROMEO	510	188	159
AUDI	187	69	55
BMW	1,122	397	337
DATSUN	163	61	54
JAGUAR	388	136	102
JENSEN	188	69	53
MASERATI	177	70	45
PEUGEOT	182	67	57
TOYOTA	165	62	55
TRIUMPH	165	66	50

下図は、先の複合レポートを埋め込み Email メッセージで送信した結果を示しています。
Email クライアントでは、レポートが正しく表示されません。

CAR COUNTRY	SEATS DEALER_COST RETAIL_COST SALES
ALFA ROMEO ITALY	8 16,235 19,565 30200
AUDI W GERMANY	5 5,063 5,970 7800
BMW W GERMANY	29 49,500 58,762 80390
DATSUN JAPAN	4 2,626 3,139 43000
JAGUAR ENGLAND	7 18,621 22,369 12000
JENSEN ENGLAND	4 14,940 17,850 0
MASERATI ITALY	2 25,000 31,500 0
PEUGEOT FRANCE	

この問題を回避するため、-HTMLFORM コマンドを使用して複数のテーブルリクエストを含むレポートを埋め込み Email メッセージとして配信することができます。

次のプロシジャは、2 つのテーブルリクエストを含むレポートを生成します。このプロシジャは、-HTMLFORM でコーティングされます。

```
-INCLUDE IBFS:/WFC/Repository/Folder1/car_table1_hold.fex
-INCLUDE IBFS:/WFC/Repository/Folder1/car_table2_hold.fex
-HTMLFORM BEGIN
!IBI.FIL.HOLD2;
!IBI.FIL.HOLD1;
-HTMLFORM END
```

下図は、HTML フォーマットで Email 配信された -HTMLFORM プロシジャの結果を示しています。

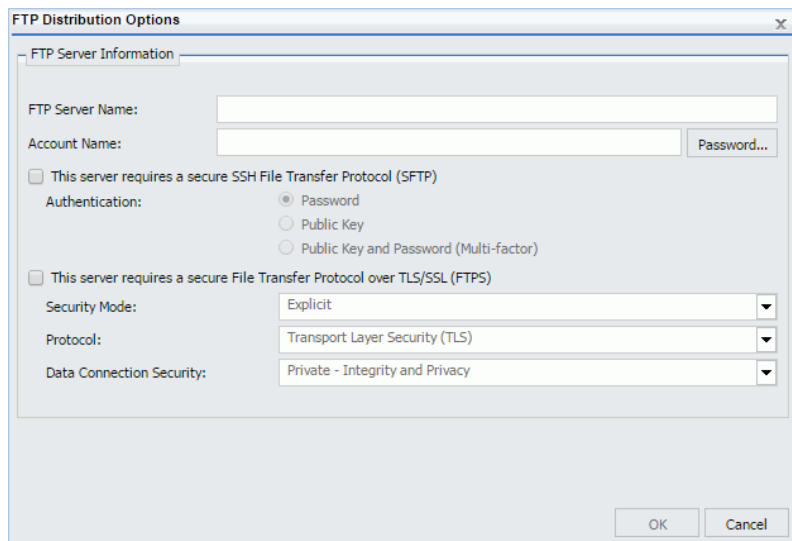
Freight Bill Register - Revenue by Day						
Region	Category	Dollar Sales	Unit Sales	Budget Dollars	Budget Units	Product ID
Midwest	Coffee	4178513	332777	4086032	335526	C142
	Food	4338271	341414	4220721	339263	F101
	Gifts	2883861	230854	2887620	232318	G104
Northeast	Coffee	4164017	335778	4252462	335920	C142
	Food	4379994	353368	4453907	351431	F101
	Gifts	2848289	227529	2870552	227008	G104
Southeast	Coffee	4415408	350948	4431429	355693	C142
	Food	4306731	349629	4409288	351509	F101
	Gifts	2966240	234455	2967254	235045	G104
West	Coffee	4473517	356763	4523963	358784	C142
	Food	4202337	340234	4183244	335361	F101
	Gifts	2977092	235042	2934306	236636	G104

This is an automated email from **OD-Focus**

Freight Bill Register - Revenue by Day										
Region	Category	Product ID	Dollar Sales	Unit Sales	Budget Units	Budget Dollars	State	City	Store ID	Date
Midwest	Coffee	C142	4178513	332777	335526	4086032	IL	Chicago	R1020	1996/11/01
	Food	F101	4338271	341414	339263	4220721	TX	Houston	R1019	1996/09/01
	Gifts	G104	2883861	230854	232318	2887620	IL	Chicago	R1020	1996/08/01
Northeast	Coffee	C142	4164017	335778	335920	4252462	MA	Boston	R1044	1997/05/01
	Food	F101	4379994	353368	351431	4453907	MA	Boston	R1044	1996/01/01
	Gifts	G104	2848289	227529	227008	2870552	NY	New York	R1109	1996/02/01
Southeast	Coffee	C142	4415408	350948	355693	4431429	GA	Atlanta	R1041	1997/04/01
	Food	F101	4306731	349629	351509	4409288	GA	Atlanta	R1041	1996/02/01
	Gifts	G104	2966240	234455	235045	2967254	TN	Memphis	R1038	1997/04/01
West	Coffee	C142	4473517	356763	358784	4523963	CA	Los Angeles	R1040	1997/07/01
	Food	F101	4202337	340234	335361	4183244	WA	Seattle	R1248	1996/11/01
	Gifts	G104	2977092	235042	236636	2934306	CA	San Francisco	R1244	1997/03/01

ベーシックスケジュールツールでの FTP 配信オプションの使用

ここでは、スケジュール済み出力を FTP を使用して配信する方法について説明します。[FTP 配信オプション] ダイアログボックスにアクセスするには、リボンの [オプション] グループで [FTP サーバ] ボタンをクリックします。下図は、[FTP 配信オプション] ダイアログボックスを示しています。



- ❑ FTP 配信を使用するスケジュールを作成するには、FTP 配信の権限が必要です。
- ❑ Reporting Server 認証情報の格納方法と同様に、スケジュールの作成時に FTP サーバの認証情報がユーザごとに格納されます。ユーザは、FTP サーバごとに認証情報を一度だけ入力します。[FTP 配信オプション] ダイアログボックスで認証情報を入力すると、ユーザがベーシックスケジュールツールでその FTP サーバを使用する FTP 配信のスケジュールを作成するたびに、同一の認証情報が使用されます。
- ❑ FTP サーバに FTPS が必要な場合は、[このサーバには FTPS が必要] のチェックをオンにします。次のオプションがあります。
 - ❑ セキュリティモード 選択可能なモードには、[Explicit] および [Implicit] があります。
 - ❑ プロトコル オプションには、[トランスポート層セキュリティ (TLS)] および [セキュアソケットレイヤ (SSL)] があります。
 - ❑ データ接続セキュリティ オプションには、[Clear - データ転送を保護しない] および [Private - 整合性とプライバシーを保護する] があります。

- ❑ HTML レポートを FTP 配信する場合は、スケジュールするレポートプロシジャ (.fex) で、以下のレポートスタイルオプションに対して完全修飾 FOCEXURL および FOCHTMLURL を設定する必要があります。これらは、Client の構成先 Web サーバまたは Application Server の JavaScript コンポーネントを参照します。Distribution Server は、インストール時に入力されたホスト名およびポート番号を使用して、FTP 配信用の完全修飾 FOCEXURL および FOCHTMLURL を設定します。スケジュールするプロシジャでこれらの値を設定することで、元の設定を上書きすることができます。以下はその例です。

```
SET FOCEXURL='hostname:port/ibi_apps/'
```

```
SET FOCHTMLURL='hostname:port/ibi_apps/ibi_html'
```

スタイルオプションには次のものがあります。

- ❑ 目次 (TOC) レポート
- ❑ ピアグラフレポート
- ❑ マルチドリルダウンレポート
- ❑ FREEZE オプション

セキュリティとして SSL を使用する場合は、URL を編集して「https」を指定します。

手順 FTP 配信オプションを使用するには

注意：パラメータ (変数) は、スケジュールの FTP 設定で値を指定する際に使用することができます。これらのパラメータは、&YYMD などのシステム変数にすることも、スケジュール済みプロシジャの実行時に Reporting Server から値が返される任意の変数にすることもできます。変数の後にファイル拡張子を表すピリオド (.) を使用するには、変数の末尾に縦棒 (|) を追加します。たとえば、「&YYMD|.htm」のように指定します。同様に、アンパサンド (&) を文字として使用するには、アンパサンド (&) の後に縦棒 (|) を追加します。たとえば、「Smith&|Jones」のように指定します。スケジュールで指定されたパラメータの値がプロシジャ実行時に Reporting Server から返されない場合、そのスケジュールは失敗し、「配信するレポートがありません」というエラーメッセージが返されます。スケジュールのタスクでバーストを有効にした場合は、'%BURST' 記号を使用してバースト値を含めることもできます。複数のレポートが単一アーカイブファイルで配信される場合、ZIP ファイル名にバースト値は代入されません。

1. レポートプロシジャ (FEX) を右クリックし、[スケジュール]、[FTP] を選択します。

ベーシックスケジュールツールが表示されます。

2. [プロパティ] タブをクリックします。
3. [タイトル] テキストボックスにタイトルを入力するか、デフォルト設定のままにします。必要に応じて、[概要] テキストボックスに概要を入力します。
4. [配信] タブをクリックします。
5. [タイプ] ドロップダウンリストから、FTP サーバに配信する際のファイル名の指定方法を選択します。次のオプションがあります。
 - ❑ **配信リスト** レポートは、選択した配信リストのすべての FTP アドレスに送信されます。詳細は、97 ページの「[配信リストの作成](#)」を参照してください。
6. [通知] タブを選択し、スケジュールジョブステータスの Email 通知を送信するかどうかを指定します。[通知タイプ] として [常に通知] または [エラー時] を選択する場合は、[返信アドレス]、[件名]、[簡易メッセージの宛先]、[詳細メッセージの宛先] を指定する必要があります。
7. [プロパティ] タブを選択し、[タイトル] と [優先度]、再び実行しない場合にスケジュールを削除するかどうか、スケジュールの実行を有効にするかどうかを指定します。詳細は、165 ページの「[ベーシックスケジュールツールのプロパティの概要](#)」を参照してください。
8. [実行間隔] タブを選択し、スケジュールの実行頻度を指定します。スケジュールの実行日時を指定する場合は、[開始日] および [開始時間] をそれ以降の値に設定します。詳細は、166 ページの「[ベーシックスケジュールツールの実行間隔の概要](#)」を参照してください。
9. [FTP サーバ] をクリックし、FTP サーバ名、アカウント名、パスワードを指定します。必要に応じて、[このサーバには SFTP が必要] および [このサーバには FTPS が必要] のチェックをオンにします。
10. [保存して閉じる] ボタンをクリックします。

ベーシックスケジュールツールでのプリンタ配信オプションの使用

プリンタがサポートされるレポートフォーマットは、DOC、PDF (Report Broker が PDF の印刷を許可するよう構成され、プリンタに適切なドライバがインストールされている場合)、PS、WP です。

注意

- ❑ プリンタ配信を使用するスケジュールを作成するには、プリンタ配信の権限が必要です。
- ❑ 配信するレポートに UTF-8 文字が含まれていると、表示された出力で問題が発生する場合があります。

- プリンタ配信スケジュールはレポート出力が有効ではない場合は機能しないため、Report Broker では、プリンタ配信のスケジュールオプションは、常に有効なフォーマットに変換されます。印刷フォーマットの有効なフォーマットとして、デフォルト設定の PDF が構成されている場合は、上書きオプションとして、この PDF が設定されます。構成されていない場合は、上書きフォーマットは DOC に設定されます。このフォーマットは、[タスク] タブで変更することができます。

手順

プリンタ配信オプションを使用するには

注意：パラメータ (変数) は、スケジュールの [プリンタ名] テキストボックスで値を指定する際に使用することができます。これらのパラメータは、&YYMD などのシステム変数にすることも、スケジュール済みプロシジャの実行時に Reporting Server から値が返される任意の変数にすることもできます。変数の後にファイル拡張子を表すピリオド (.) を使用するには、変数の末尾に縦棒 (|) を追加します。たとえば、「&YYMD|.htm」のように指定します。同様に、アンパサンド (&) を文字として使用するには、アンパサンド (&) の後に縦棒 (|) を追加します。たとえば、「Smith&|Jones」のように指定します。スケジュールで指定されたパラメータの値がプロシジャ実行時に Reporting Server から返されない場合、そのスケジュールは失敗し、「配信するレポートがありません」というエラーメッセージが返されます。スケジュールのタスクでバーストを有効にした場合は、「%BURST」記号を使用してバースト値を含めることもできます。

1. レポートプロシジャ (FEX) を右クリックし、[スケジュール]、[プリンタ] を選択します。
ベーシックスケジュールツールが表示されます。
2. [配信] タブをクリックします。
3. [タイプ] ドロップダウンメニューから、プリンタに配信する際のファイル名の指定方法を選択します。次のオプションがあります。
 - **配信リスト** レポートは、選択した配信リストのすべてのプリンタに送信されます。
配信リストを選択するには、[配信リスト] フィールド横のアイコンをクリックします。
 - **配信ファイル** このスケジュールに使用する外部配信ファイルのフルパスとファイル名を入力します。パスとファイル名は、Report Broker Distribution Server からアクセス可能でなければなりません。
 - **プリンタ名** 次のフォーマットでプリンタを指定します。

`queue@printserver`

説明

queue

プリンタキュー名です。

printserver

プリンタのホスト名または IP アドレスです。

Report Broker では、区切り文字「@」により、プリンタキューとプリンタのホスト名 (または IP アドレス) を区別することができます。Report Broker はプリンタのホスト名または IP アドレスのみの指定をサポートしますが、Report Broker 出力をプリンタに配信する場合は、プリンタキューとホスト名 (IP アドレス) の両方を指定することをお勧めします。このボックスには、最大 800 バイトの文字を入力可能です。

- ❑ **ダイナミック配信リスト** ダイナミック配信リストを使用すると、データソース (例、Flat File、SQL データベース、FOCUS データソース、LDAP) から、バースト値と配信先のリストの両方、または配信先のリストのみをメモリに返すことができます。
- 4. [配信リスト] を選択した場合は、[名前] ボタンをクリックして [開く] ダイアログボックスを表示し、配信リストを選択します。[プリンタ名] を選択した場合は、[名前] テキストボックスにプリンタ名を入力します。
- 5. [通知] タブを選択し、スケジュールジョブステータスの Email 通知を送信するかどうかを指定します。[通知タイプ] として [常に通知] または [エラー時] を選択する場合は、[返信アドレス]、[件名]、[簡易メッセージの宛先]、[詳細メッセージの宛先] を指定する必要があります。
- 6. [プロパティ] タブを選択し、[タイトル] と [優先度]、再び実行しない場合にスケジュールを削除するかどうか、スケジュールの実行を有効にするかどうかを指定します。詳細は、165 ページの「[ベーシックスケジュールツールのプロパティの概要](#)」を参照してください。
- 7. [実行間隔] タブを選択し、スケジュールの実行頻度を指定します。スケジュールの実行日時を指定する場合は、[開始日] および [開始時間] をそれ以降の値に設定します。詳細は、166 ページの「[ベーシックスケジュールツールの実行間隔の概要](#)」を参照してください。
- 8. [保存して閉じる] をクリックし、変更を保存します。

ベーシックスケジュールツールでのリポジトリ配信オプションの使用

ベーシックスケジュールツールで、スケジュール済み出力をリポジトリに配信する場合は、レポート出力の配信先としてリポジトリのフォルダパスを指定します。

注意: リポジトリ配信を使用するスケジュールを作成するには、リポジトリへの配信権限が必要です。選択したフォルダにコンテンツを送信するための権限も必要です。

繰り返しスケジュールおよびバーストスケジュールの場合は、同一レポートプロシジャ (FEX) で配信するレポートのそれぞれについて、別のフォルダパスを作成して指定することをお勧めします。セキュリティアクセスはフォルダレベルで定義、管理することができ、また、配信済みレポート出力をバーストする場合は、バースト値は配信するレポートセクションのそれぞれのタイトル値として割り当てられるため、このことは重要です。このタイトルの値は、Db2 Web Query ツリーに表示されます。

レポート出力がリポジトリ配信オプションを使用して配信される際に、スケジュールタスク情報で指定する [保存レポート名] の最初に、曜日と日時の情報が追加されます。たとえば、Product Packaging & Price レポートのスケジュールで [保存レポート名] の値として「Product_Packaging_Price.htm」を割り当てた場合について考察します (ブランクと特殊文字は、アンダースコア文字 (_) に置換されます)。

リポジトリ への配信日時が 2011 年 12 月 19 日 (月曜日) 午後 1 時 35 分 (日本標準時) の場合、「2011 年 12 月 19 日 月 午後 01:35 JST Product Packaging Price」という説明が割り当てられます。

手順 リポジトリ配信オプションを使用するには

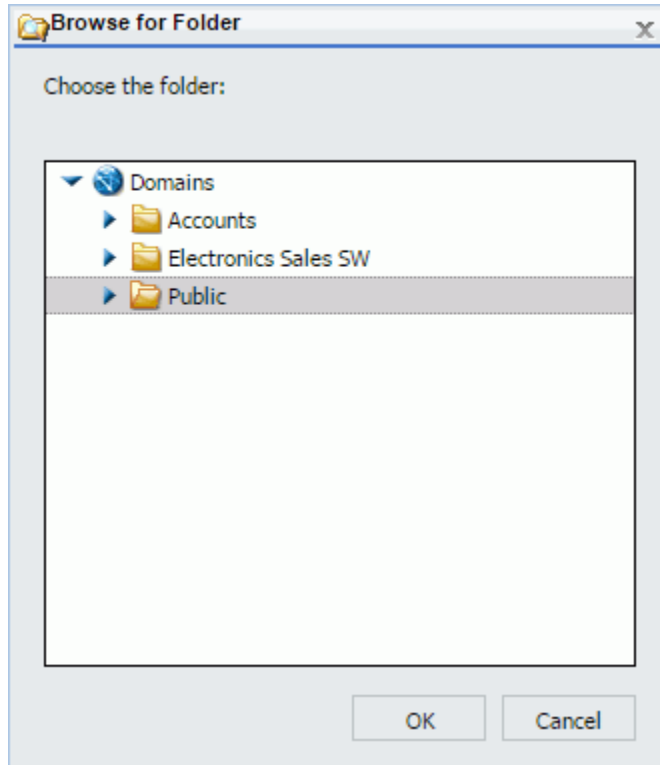
1. レポートプロシジャ (FEX) を右クリックし、[スケジュール]、[リポジトリ] を順に選択します。

新しいウィンドウにベーシックスケジュールツールが表示されます。

2. タスク情報を入力するか、タスク情報を確認します。詳細は、114 ページの「[ベーシックスケジュールツールのタスクの概要](#)」を参照してください。
3. [配信] タブをクリックします。

Distribution Server によって、[タスク] タブの [保存レポート名] で指定した名前の最初に、曜日と日時が追加されます。

フォルダパスとして適切なレポート出力の配信先が指定されていることを確認します。デフォルト設定で、このフォルダパスは、スケジュールの対象として選択したレポートプロシジャ (FEX) と同一のフォルダが指定されています。レポート出力を配信するフォルダを変更するには、[フォルダパス] ボタンをクリックします。下図のように、ダイアログボックスにリソースツリーが表示され、別のフォルダを選択することができます。



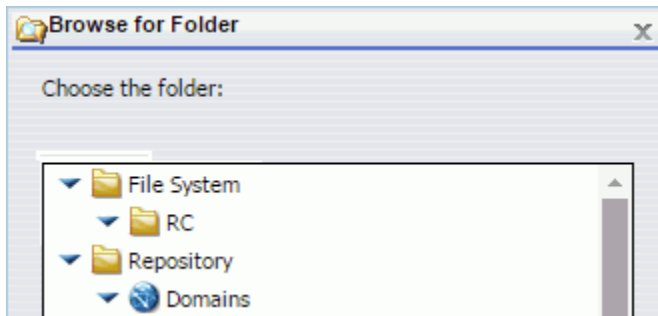
注意：選択したフォルダにコンテンツを送信するための権限も必要です。

4. 配信のたびにレポート出力を上書きする場合は、必要に応じて、[ファイル名にタイムスタンプを追加しない] のチェックをオンにします。
5. [通知] タブを選択し、スケジュールジョブステータスの Email 通知を送信するかどうかを指定します。詳細は、163 ページの「[ベーシックスケジュールツールの通知オプション](#)」を参照してください。[通知タイプ] として [常に通知] または [エラー時] を選択する場合は、[返信アドレス]、[件名]、[簡易メッセージの宛先]、[詳細メッセージの宛先] を指定する必要があります。

6. [プロパティ] タブを選択し、[タイトル] と [優先度]、再び実行しない場合にスケジュールを削除するかどうか、スケジュールの実行を有効にするかどうかを指定します。詳細は、165 ページの「[ベーシックスケジュールツールのプロパティの概要](#)」を参照してください。
7. [実行間隔] タブを選択し、スケジュールの実行頻度を指定します。スケジュールの実行日時を指定する場合は、[開始日] および [開始時間] をそれ以降の値に設定します。詳細は、166 ページの「[ベーシックスケジュールツールの実行間隔の概要](#)」を参照してください。
8. [保存して閉じる] を選択し、変更を保存します。

ベーシックスケジュールツールでのリポジトリ配信方法によるファイルシステム配信

リポジトリファイルシステム配信機能を使用して、Distribution Server がアクセス可能なディレクトリにレポートを送信することができます。ファイルシステムが構成されたリポジトリに配信する場合、下図のようにファイルシステムフォルダを選択することができます。



注意

- ☐ この方法には FTP サーバは必要ありません。
- ☐ レポートが配信される際は、Distribution Server によって、[タスク] タブの [保存レポート名] の最初に曜日と日時が追加されます。

権限が付与されたユーザは、構成済みフォルダに配信するコンテンツをスケジュールすることができます。

ベーシックスケジュールツールの通知オプション

ベーシックスケジュールツールの [通知] タブには、特定の Email 受信者にスケジュールステータスの通知を送信するオプションがあります。

注意

- ❑ 通知は、メールサーバが構成されている場合にのみ機能します。メールサーバが構成されていない場合、通知の送信に失敗し、スケジュールジョブログにエラーメッセージが記録されます。
- ❑ パラメータ (変数) は、スケジュールの通知設定で値を指定する際に使用することができます。これらのパラメータは、&YYMD などのシステム変数にすることも、スケジュール済みプロシジャの実行時に Reporting Server から値が返される任意の変数にすることもできます。変数の後にファイル拡張子を表すピリオド (.) を使用するには、変数の末尾に縦棒 (|) を追加します。たとえば、「&YYMD|.htm」のように指定します。同様に、アンパサンド (&) を文字として使用するには、アンパサンド (&) の後に縦棒 (|) を追加します。たとえば、「Smith&|Jones」のように指定します。スケジュールで指定されたパラメータの値がプロシジャ実行時に Reporting Server から返されない場合、そのスケジュールは失敗し、「配信するレポートがありません」というエラーメッセージが返されます。
- ❑ Report Broker ステータスの [許可する Email ドメインとアドレス] ダイアログボックスで、[入力をもこのリストに制限する] のチェックがオンになっている場合、Email アドレスの入力は、許可する Email ドメインとアドレスのリストに制限されます。詳細は、45 ページの「[許可する Email ドメインおよびアドレスの確認](#)」を参照してください。

[通知タイプ] には、次のオプションがあります。

- ❑ **なし** Report Broker からスケジュールステータスの通知が送信されることはありません。これがデフォルト値です。
- ❑ **常に通知** スケジュールが実行されるたびに指定したユーザに通知が送信されます。
- ❑ **エラー時** スケジュールジョブの実行中にエラーが発生した場合、指定したユーザに通知が送信されます。通常は、[エラー時] オプションの選択をお勧めします。

ベーシックスケジュールツールでのエラー時通知と常に通知の設定

[通知タイプ] として [エラー時] または [常に通知] を選択した場合、追加のオプションが有効になります。

[エラー時] と [常に通知] には、次の通知オプションがあります。

- ❑ **返信アドレス** 送信者の Email アドレスを入力します。レポートの受信者が通知に対して返信すると、返信メッセージはこのアドレスに送信されます。Email システムがレポートを配信できない場合、配信不可能なレポートメッセージもこのアドレスに返送されます。

注意

- ❑ ユーザ ID とパスワードを使用して、メールサーバによる認証を構成した場合、返信アドレスは、このユーザ ID に関連付けられた Email アドレスになります。
- ❑ メールサーバによる認証が構成され、Report Broker 構成ツールで返信アドレスを構成した場合、スケジュールツールの [返信アドレス] テキストボックスは無効になります。返信アドレスが構成されていない場合は、このテキストボックスは有効になり、メールサーバに送信する返信アドレスを指定することはできますが、送信される Email の実際の返信アドレスは、認証アカウントのものになります。
- ❑ **件名** Email メッセージの件名に表示するテキストを入力します。最大 255 バイトまでの文字を入力することができます。このテキストボックスには、デフォルト設定でスケジュールのタイトルが自動的に入力されます。
- ❑ **簡易メッセージの宛先** 簡易通知を配信する Email アドレスを入力します。この項目には、構文エラーチェック機能はありません。

ヒント：携帯電話など、メモリ制限のあるデバイスへ通知を配信する際は、[簡易通知] オプションの使用をお勧めします。複数の受信者に通知する場合、Email のすべてに @ 文字と有効なドメインが含まれていれば、メールサーバで定義されたグループ Email リストを使用することができます。
- ❑ **詳細メッセージの宛先** 詳細通知を配信する Email アドレスを入力します。この項目には、構文エラーチェック機能はありません。

ベーシックスケジュールツールのプロパティの概要

ベーシックスケジュールツールにアクセスすると、[タイトル] および [パス] のプロパティオプションは、選択したレポートプロシジャ (FEX) に基づいて、あらかじめ入力されます。

[プロパティ] タブには、次のオプションがあります。

- ❑ **タイトル** スケジュールの目的を記述する短い説明を入力することができます。ベーシックスケジュールツールでスケジュールを作成する場合、この値として、スケジュール中のレポートプロシジャのタイトルが、あらかじめ入力されます。このタイトルは、スケジュールツールを使用して、スケジュールを作成中またはスケジュールの保存後に編集することができます。スケジュールの保存後は、[プロパティ] オプションからもタイトルを編集できます。

スケジュールのタイトルは、スケジュールを保存する際のスケジュール名として使用されます。選択したリソースツリーフォルダに名前の値がすでに存在する場合は、名前がすでに存在することを示すメッセージが表示されます。[タイトル] テキストボックスの値は、[保存] ダイアログボックスで変更することができます。タイトルの変更を保存すると、スケジュール情報の [タイトル] フィールドも更新されます。

- ☐ **パス** スケジュールの作成で選択するレポートプロシジャ (FEX) のリポジトリパスです。
- ☐ **概要** スケジュールの説明を入力することができます。このフィールドへの入力はおプションです。
- ☐ **優先度** スケジュール済みジョブを Distribution Server で処理する際の優先度を指定します。デフォルト設定の優先度は、[標準 - 3] です。ただし、ドロップダウンリストを使用して、優先度を設定することができます。
- ☐ **配信するレポートがない場合** このオプションは、管理者が設定したデフォルト値に設定されます。レポートが生成されない場合にエラー通知を送信するには、この値を [エラー] に設定します。レポートが生成されない際に通知を送信しない場合は、この値を [警告] に設定します。
- ☐ **ジョブの再実行が不要な場合、スケジュールを削除** このチェックボックスを使用して、スケジュール済みジョブの処理完了後、再実行が予定されていないスケジュールを削除することを指定できます。このオプションを選択すると、フォルダコンテンツが表示されるホームページ、および Report Broker エクスプローラでスケジュールを表示する際の全体的なパフォーマンスが向上するため、スケジュールを再実行する予定がない場合は、このオプションの選択をお勧めします。
- ☐ **有効 (指定された時間にジョブを実行)** このチェックボックスは、デフォルト設定で選択されています。スケジュール済みジョブの実行がポーリングされる際に、Distribution Server がスケジュールの評価を実行することを指定します。スケジュールの配信基準として [次回実行時間] の値を使用しない場合は、このチェックをオフにします。

ベーシックスケジュールツールの実行間隔の概要

ベーシックスケジュールツールの [実行間隔] タブのオプションで、スケジュールの実行頻度を定義することができます。

ユーザによる指定が必要なオプションは、配信頻度、開始時間と終了時間、実行間隔の詳細設定です。配信頻度の設定として、次のいずれかを選択します。

- ☐ 1 回だけ実行

- ☐ 分単位
- ☐ 時間単位
- ☐ 日単位
- ☐ 週単位
- ☐ 月単位
- ☐ 年単位
- ☐ カスタム

ドロップダウンリストを使用して、開始時間と終了時間を割り当てることができます。権限を所有するユーザは、ドロップダウンリストの下向き矢印をクリックしてカレンダーを表示し、スケジュールの配信日を設定することができます。上下の矢印を使用して、スケジュールの配信時間を設定することができます。また、時間を手動で入力することもできます。

[詳細設定] の設定権限を所有するユーザは、[実行間隔] のチェックをオンにして、詳細設定オプションを有効にすることができます。配信スケジュールの繰り返しの頻度、配信スケジュールの [終了時間]、[継続時間] を設定します。この情報は手動で入力するか、上下の矢印を使用してパラメータを設定します。

1 回だけ実行

[1 回だけ実行] オプションは、ジョブの即時実行を設定します。これがデフォルト値です。スケジュールを即時実行しない場合は、日付および時間を変更できます。[開始] オプションを使用して、実行スケジュールの日付と時間を指定することができます。

日付を選択するには、日付のドロップダウンをクリックし、カレンダーから日付を選択します。時間を選択するには、時間または分を選択し、上下矢印を使用して数値を上下させます。また、時間を手動で入力することもできます。

分単位

[分単位] オプションは、スケジュールの n 分間隔での実行を設定します。

[分単位] テキストボックスで、1 から 59 までの分間隔を入力または選択し、スケジュールを実行する曜日のチェックをオンにしてから、スケジュールの [開始]、[終了] の日付と時間を選択して、スケジュール実行期間を指定します。

注意：5 分以下の間隔で実行するようスケジュールを設定すると、システムのパフォーマンスに影響する場合がありますため、30 分以上に指定することをお勧めします。[分単位] オプションは、主にアラートスケジュールに役立ちます。

時間単位

[時間単位] オプションは、スケジュールの n 時間間隔での実行を設定します。

[時間単位] テキストボックスで、1 から 24 までの時間間隔を入力または選択し、スケジュールを実行する曜日のチェックをオンにしてから、スケジュールの [開始] および [終了] で日付と時間を選択して、スケジュール実行期間を指定します。

日単位

[日単位] オプションで、n 日ごとにスケジュールを実行するよう設定することができます。

[日] テキストボックスで、スケジュールを実行する日単位の間隔を選択または入力後、[開始] および [終了] の日付と時間を選択してスケジュール実行期間を定義します。

セカンダリ実行間隔を指定することもできます。この設定についての詳細は、170 ページの「[詳細設定](#)」を参照してください。

週単位

[週単位] オプションで、n 週ごとにスケジュールを実行するよう設定することができます。

[週単位] テキストボックスで、スケジュールを実行する週間隔を入力または選択し、スケジュールを実行する曜日のチェックをオンにしてから、[開始] および [終了] で日付と時間を選択して、スケジュール実行期間を指定します。

注意：実行間隔として [週単位] を選択する場合、[開始] の値として、スケジュールを実行する週の初日 (現在または以降) の日付を設定します。実行日として現在の日付を選択した場合、スケジュールの開始時間として、スケジュールを保存した時間よりも後の値が設定されていることを確認してください。スケジュールの開始時間が現在の時間以前の場合、スケジュールの次回実行時間の計算から、現在の日付は除外されます。

セカンダリ実行間隔を指定することもできます。この設定についての詳細は、170 ページの「[詳細設定](#)」を参照してください。

月単位

[月単位] オプションは、スケジュールの n か月間隔での実行を設定します。月間隔の実行間隔の詳細は、次のいずれかのオプションで設定することができます。これらのオプションは互いに排他的に動作することに注意してください。

- ☐ 第 1 週、第 2 週、第 3 週、第 4 週、または最終 n 曜日 (ここで、n は月曜日、火曜日、水曜日、木曜日、金曜日、土曜日、日曜日のいずれか)。n か月ごとに実行。
- ☐ n か月ごとの特定日。

また、スケジュール開始と終了の日付と時間も選択し、スケジュール実行期間を指定します。

月末日にスケジュールを実行するには、カレンダーの日付の最後にある [月の最終日] ボタンをクリックします。

注意：実行間隔として [月単位] を選択する場合、[開始] を使用して、スケジュールを実行する月の初日の日付を設定します。実行日として現在の日付を選択した場合、スケジュールの開始時間として、スケジュールを保存した時間よりも後の値が設定されていることを確認してください。スケジュールの開始時間が現在の時間以前の場合、スケジュールの次回実行時間の計算から、現在の日付は除外されます。

セカンダリ実行間隔を指定することもできます。この設定についての詳細は、170 ページの「[詳細設定](#)」を参照してください。

年単位

[年単位] オプションは、スケジュールの n 年間隔での実行を設定します。

セカンダリ実行間隔を指定することもできます。この設定についての詳細は、170 ページの「[詳細設定](#)」を参照してください。

カスタム実行間隔

[カスタム] オプションでは、特定のパターンに従わない日付を選択することができます。たとえば、四半期レポートを各四半期の異なる日に実行する場合は、カスタム実行間隔を使用して、3 月 3 日 (土曜日)、6 月 4 日 (月曜日)、9 月 7 日 (金曜日)、12 月 2 日 (日曜日) など、指定した日に実行するようスケジュールを設定することができます。

[開始] および [終了] で日付と時間を選択し、スケジュールが実行される時間範囲を指定します。カレンダーの日付をクリックし、スケジュールを実行する日付を選択します。カレンダー上部の矢印を使用し、月および年を変更します。日付を選択すると、[カスタム日付リスト] に表示されます。[カスタム日付リスト] ノードの下に選択した年月日のフォルダが (存在しない場合は) 自動的に作成されます。

リストから日付を削除する場合は、カレンダーでその日をクリックします。カレンダーで日付は選択が解除され、[カスタム日付リスト] にも表示されません。必要に応じて、左側の一重矢印を使用して日付をリストから削除することもできます。二重矢印は、定義済みリストからすべての日付を削除します。

セカンダリ実行間隔を指定することもできます。この設定についての詳細は、170 ページの「[詳細設定](#)」を参照してください。

詳細設定

[詳細設定] オプションを使用して、スケジュール実行日のセカンダリ実行間隔を作成することができます。セカンダリ実行間隔は、n 分または n 時間単位で特定の時間 (期間または何時何分) まで適用することができます。このオプションは、日単位、週単位、月単位、年単位に実行するスケジュールで利用することができます。

注意: スケジュールを保存する際に、時間の設定は分に変換されます。スケジュールを編集する際、この値は分として表示されます。

スケジュールの作成時には、セカンダリ実行間隔は検証されません。この検証は、スケジュールがセカンダリ実行間隔で実行される際に、スケジュールの次回実行時間が計算されるたびに行われます。セカンダリ実行間隔は、プライマリ実行間隔の次回実行時間を超えることはできません。たとえば、毎日のスケジュールに「1 日ごとのスケジュール」を超えるセカンダリ実行間隔を設定することはできません。セカンダリ実行間隔を次のプライマリ実行間隔の後にスケジュールした場合は、セカンダリ実行間隔は停止され、エラーメッセージが表示されます。このエラーメッセージもログファイルに書き込まれます。

[詳細設定] セクションでは、繰り返しオプションと時間間隔オプションを設定することができます。

[詳細設定] セクションには、次のオプションがあります。

- ☐ **実行間隔** スケジュール実行日に n 分または n 時間ごとにセカンダリ実行間隔を適用します。この例では、10 分ごとに適用します。
- ☐ **終了時間** セカンダリ実行間隔の適用を終了する時間です。この例では、スケジュールは 10 分ごとに実行され、[終了時間] オプションで選択した午後 4 時 10 分に終了します。
- ☐ **継続時間** セカンダリ実行間隔を適用する継続時間を時間と分単位で指定します。このオプションと [終了時間] オプションは、互いに排他的に動作します。

注意: スケジュールが更新される際、次の実行時間の再計算には、プライマリ実行間隔のみが使用されます。つまり、スケジュールにセカンダリ実行間隔が設定されている場合、セカンダリスケジュールが実行可能になる前にスケジュールが更新されると、そのセカンダリ実行間隔は無視され、プライマリ実行間隔に基づいて NEXTRUNTIME が再計算されます。

たとえば、スケジュールが毎日午後 2 時に実行されるよう設定されており、午後 2 時から 3 時まで 10 分ごとのセカンダリ実行間隔が適用されている場合を想定します。スケジュールが午後 2 時に実行される際、セカンダリ実行間隔が尊重され、次回実行時間は 2 時 10 分に再設定されます。このスケジュールが午後 2 時 3 分に更新された場合、NEXTRUNTIME は再計算され、同日の午後 2 時 10 分ではなく、翌日の午後 2 時に設定されます。

CL コマンドによるスケジュールの実行

Report Broker のスケジュールを作成した後は、そのスケジュールを Db2 Web Query Report Broker アプリケーションからいつでも実行することができます。

トピックス

- [Report Broker スケジュールの実行](#)

Report Broker スケジュールの実行

Db2 Web Query にログインしていない状態で、ビジネスユーザがビジネスワークフロープロセスの一部としてスケジュールを実行したい場合があります。Report Broker CL プログラムを使用すると、Db2 Web Query 以外からスケジュールを実行することができます。

Db2 Web Query のライセンスを所有するユーザまたは開発者は、所有するスケジュールを実行することができます。Report Broker 管理者は、任意のスケジュールを実行することができます。

Report Broker のスケジュールを Db2 Web Query 以外から実行するには、5250 エミュレーションセッションの CL コマンドラインで、次のように入力します。

RUNBRSCHED

```

Run a Report Broker Schedule (RUNBRSCHED)

Type choices, press Enter.

Schedule ID . . . . . _____

Run Report with User ID . . . . . *CURRENT__ Character value

Bottom
F3=Exit   F4=Prompt   F5=Refresh   F12=Cancel   F13=How to use this display
F24=More keys
    
```

Schedule ID

注意: スケジュール ID は、スケジュールが作成された際に割り当てられた 12 バイトの英数文字です。スケジュールのフルパスは、Web Query リポジトリ内のスケジュールの物理ロケーションです。スケジュール ID およびフルパスを特定するには、下図のように、BI Portal ツリーでスケジュールを右クリックし、[パスの表示] を選択します。

Full Path: IBFS:/WFC/Repository/Rob/Rob1_1b11c15d_42dc_4b52_9a2c

Hit Ctrl-C to copy

OK

Run Report with User ID

別のユーザ ID でのジョブの実行を可能にします。デフォルト値は「*CURRENT」で、ジョブの実行に現在のユーザ ID を使用します。

6

スケジュールの保守

スケジュールを保守することで、スケジュールのプロパティの編集や、不要になったスケジュールの削除が行えます。スケジュールのプロパティを新しいスケジュールでも使用する必要がある場合は、複製またはコピーのオプションを使用して、新しいスケジュールに適用するプロパティが記述されたテンプレートを作成することができます。また、スケジュールのステータスを確認することや、ログレポートを実行してスケジュールの詳細情報を取得することもできます。

トピックス

- ❑ [ここから ベーシックスケジュールツールによるスケジュール保守の概要](#)
 - ❑ [ベーシックスケジュールツールによるスケジュールの編集](#)
 - ❑ [スケジュールのコピー](#)
 - ❑ [ベーシックスケジュールツールによるスケジュールの削除](#)
 - ❑ [スケジュールの公開](#)
-

ここから ベーシックスケジュールツールによるスケジュール保守の概要

リソースツリーでスケジュールを右クリックすると、次のオプションが表示されます。

編集

既存のスケジュールを開いて編集することができます。

実行

スケジュールを実行します。

ログの表示

選択した 1 つまたは複数のスケジュールのログレポートを表示することができます。

有効にする/無効にする

リソースツリー内のスケジュールを有効または無効することができます。有効、無効にするオプションは、ベーシックスケジュールツールの [プロパティ] タブにも表示されます。

複製の作成

同一プロパティの新しいスケジュールを、同一フォルダ内に作成します。新しいスケジュールは既存のスケジュールの複製であることから、自動的に無効になります。

切り取り

[貼り付け] 操作を使用して、元のフォルダから対象フォルダに、スケジュールを移動することができます。

コピー

既存のスケジュールをコピーし、新しいスケジュールを作成することができます。

コピーとパスの更新

1 つまたは複数のスケジュールをある場所から別の場所にコピーします。内部パス参照が自動的に更新され、コピー先の場所と一致させることができます。このオプションは、App Studio で作成したグラフ、レポート、ドキュメント、ビジュアルイゼーション、ページ、ブック、HTML ファイルでも利用できます。

注意：この機能は、リポジトリ内の同一階層レベルに存在するフォルダ間で、スケジュールをコピーする場合にのみ動作します。

ショートカットの作成

選択したスケジュールへのショートカットを作成することができます。

削除

既存のスケジュールを削除します。

タイトルの変更

スケジュール名を変更します。

公開/非公開

スケジュールのオーナーは、スケジュールが存在する最上位フォルダの他のメンバーがスケジュールを使用できるよう公開することができます。スケジュールオーナーの実行 ID は保持されます。下表は、最上位フォルダに関連付けられている各グループに許可される公開済みスケジュールのコンテキストメニューオプションを示しています。

注意：デフォルト設定は [非公開] です。

表示/非表示

オーナーがスケジュールを公開した後、オーナーはフォルダ内でコンテンツの作成が許可されていないグループに対して、そのスケジュールを非表示にすることができます。スケジュールの表示と非表示を切り替えるには、スケジュールを右クリックし、[非表示] または [表示] を選択します。

注意：デフォルト設定は [表示] です。

セキュリティ

スケジュールのオーナーを設定することができます。

プロパティ

このオプションは、スケジュールのプロパティを表示する Web Query 管理者のみが使用できます。WebQueryAdministrator グループに属するユーザはすべて、Web Query 管理者です。

ベーシックスケジュールツールによるスケジュールの編集

リソースツリーから既存のスケジュールにアクセスし、アクセス権限を所有するスケジュールを編集することができます。

手順

ベーシックスケジュールツールでスケジュールを編集するには

1. 編集するスケジュールを右クリックし、[編集] を選択します。
2. スケジュールに必要な変更を行います。ベーシックスケジュールツールのオプションについての詳細は、111 ページの「[ベーシックスケジュールツールによるスケジュールの作成](#)」を参照してください。
3. [保存して閉じる] をクリックします。

参照

ベーシックスケジュールツールでスケジュールを編集する際の考慮事項

- ❑ 配信方法など、無効なオプションが使用されているスケジュールを開いた場合、スケジュールを有効にするために必要な変更についての情報が表示されます。有効なオプションを使用するまでは、スケジュールの変更は保存されません。
- ❑ [実行間隔] で [1 回だけ実行] を選択した場合、開始時間の値を現在の時間よりも後の時間に変更しない限り、スケジュールは即時実行されます。その他すべての実行間隔は、スケジュールの次のプライマリ実行時間に実行されます。
- ❑ スケジュールツールからスケジュールを実行するには、変更を保存する必要があります。
- ❑ 選択したスケジュールを即時に実行する場合は、[実行] をクリックします。
- ❑ 既存のスケジュールをベーシックスケジュールツールで開き、[プロシジャで指定されたフォーマットを上書きする] のチェックがオンになっている場合は、フォーマットのリストが表示されます。[プロシジャで指定されたフォーマットを上書きする] のチェックをオフにすると、フォーマットのリストが非表示になります。
- ❑ 既存のスケジュールをベーシックスケジュールツールで開き、[プロシジャで指定されたフォーマットを上書きする] のチェックがオフになっている場合は、フォーマットのリストが表示されません。[プロシジャで指定されたフォーマットを上書きする] のチェックをオンにすると、フォーマットのリストが表示されます。

スケジュールのコピー

既存のスケジュールの複製を作成してテンプレートとして使用し、新しいスケジュールを作成する、便利な機能が用意されています。コピーされたスケジュールは、スケジュールの複製であることから、作成時に無効になります。

手順 ベーシックスケジュールツールでスケジュールをコピーするには

注意：切り取り、コピー、貼り付けオプションを表示するには、これらの操作の実行権限が必要です。

1. リソースツリーで、コピーするスケジュールを格納するワークスペースまたはフォルダを選択します。
2. ホームページで、コピーするスケジュールを右クリックし、[コピー]を選択します。
3. スケジュールのコピー先ワークスペースまたはフォルダを右クリックし、[貼り付け]を選択します。

ベーシックスケジュールツールによるスケジュールの削除

スケジュールを削除するには、リソースツリーで次の手順を実行します。

手順 ベーシックスケジュールツールでスケジュールを削除するには

[削除] オプションを表示するには、選択したスケジュールの削除権限が必要です。

1. 削除するスケジュールを右クリックし、[削除]を選択します。

注意：複数のスケジュールを選択するには、標準の Windows インターフェイスでの操作と同様に、Shift キーまたは Ctrl キーを使用します。選択したスケジュールの削除を確認するメッセージが表示されます。

2. [OK] をクリックして、選択したスケジュールを削除します。

スケジュールの公開

公開されたスケジュールは、スケジュールが存在するフォルダへのアクセス権限を所有するユーザーすべてに表示されます。スケジュールのコンテキストメニューに表示されるオプションは、ログインしたユーザーの権限に応じて異なります。たとえば、スケジュール権限を所有するユーザーは、公開済みスケジュールを実行することができます。公開済みスケジュールを実行する際は、その実行を開始したログインユーザーとしてではなく、そのスケジュールの作成者として実行されます。

注意：公開済みスケジュールは、そのスケジュールの作成者として実行されます。公開済みスケジュールの編集権限を所有するユーザは、スケジュール作成者が権限を所有しない変更をスケジュールに加えることができます。この場合、スケジュールは実行時に失敗します。たとえば、編集権限を所有するユーザは、スケジュールで使用されている配信リストを、スケジュール作成者が編集権限を所有しないプライベート配信リストに変更することができます。変更されたスケジュールを実行すると、作成者がリポジトリから配信リストを取得できないため、スケジュールの実行に失敗します。

手順

スケジュールを公開するには

スケジュールを公開するには、ホームページで、次の手順を実行します。スケジュールを公開する前に、スケジュールを格納するワークスペースおよびフォルダを公開する必要があります。

1. ホームページで、公開するスケジュールが格納されたドメインを右クリックし、[公開]を選択します。
2. スケジュールがフォルダにも格納されている場合、公開するスケジュールを格納するフォルダを右クリックし、[公開]を選択します。
3. スケジュールを右クリックし、[公開]を選択します。

スケジュールが公開されます。

Report Broker エクスプローラ

Report Broker エクスプローラでは、Report Broker 項目のリストをタイプ別に取得し、選択した項目タイプに特化した詳細情報を表示することができます。

注意：ここでは、Report Broker エクスプローラを「エクスプローラ」と記述しています。

トピックス

- ❑ [Report Broker エクスプローラの使用](#)
 - ❑ [エクスプローラのツールバー](#)
 - ❑ [エクスプローラのツリー](#)
 - ❑ [エクスプローラの項目リストパネル](#)
 - ❑ [エクスプローラのスケジュール詳細情報](#)
 - ❑ [エクスプローラの配信リスト詳細情報](#)
 - ❑ [エクスプローラの項目オプション](#)
 - ❑ [サブフォルダの検索](#)
-

Report Broker エクスプローラの使用

エクスプローラでは、Report Broker 項目のリストをタイプ別に取得し、選択した項目タイプに特化した詳細情報を表示することができます。このリストは、スケジュールおよび配信リスト別にフィルタすることができます。また、このリストには、選択したフォルダ下のサブフォルダ内の項目も含めることもできます。

エクスプローラへのアクセスは、Db2 Web Query Client セキュリティ認可モデルにより制御されます。エクスプローラへのユーザアクセスが [コンテンツ] フォルダレベルで許可されている場合もあれば、特定の低位フォルダで許可されている場合もあります。

権限を所有するユーザは、フォルダのコンテキストメニューから [エクスプローラ] オプションにアクセスすることができます。[ワークスペース][Db2 Web Query] フォルダからエクスプローラにアクセスする権限を所有しているユーザは、ホームページの [ツール] メニューから [エクスプローラ] オプションにアクセスすることもできます。

[ツール] メニューから [Report Broker エクスプローラ] を選択した場合、エクスプローラが新しいタブで開きます。リポジットリノードがデフォルトのフォルダパスになり、ユーザがアクセス権限を所有するフォルダのリストがその下に展開表示されます。

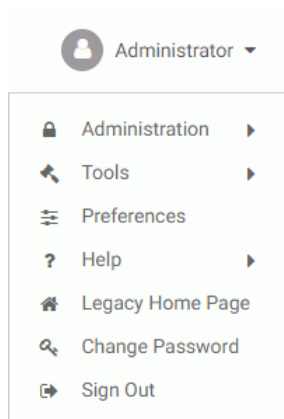
フォルダのコンテキストメニューから [Report Broker エクスプローラ] を選択した場合、選択したフォルダパスがエクスプローラに渡され、そのフォルダがエクスプローラツリーで選択された状態になります。右側パネルには、ユーザがアクセスを許可されているスケジュールのリストが表示されます。

注意： ホームページから Report Broker エクスプローラを起動した後、ホームページからログアウトするか、ホームページを閉じた場合、Report Broker エクスプローラは開いた状態で保持されます。この場合、ホームページからログアウトするか、ホームページを閉じた後に、Report Broker エクスプローラを手動で閉じる必要があります。Report Broker エクスプローラの前のセッションが開いた状態でホームページに別のユーザ名で再度ログインすると、前のセッションの Report Broker コンテンツが Report Broker エクスプローラに表示されます。

手順

ホームページから Report Broker エクスプローラツールにアクセスするには

1. @IBM@下図のように、ホームページ右上の [ユーザ] メニューをクリックします。



注意： 必要に応じてブラウザウィンドウを拡大して、[ユーザ] メニューを表示します。

2. [ツール] オプションを選択し、[ツール] メニューを表示します。
3. [ツール] メニューから、[Report Broker エクスプローラ] を選択します。

Report Broker エクスプローラツールが表示されます。

エクスプローラのツールバー

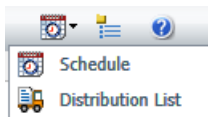
下図は、エクスプローラのツールバーを示しています。ツールバーを使用すると、選択した Report Broker 項目で使用可能なオプションにすばやくアクセスすることができます。リストに表示する Report Broker 項目のタイプを指定するオプションや、現在のフォルダ内の項目のみを表示するか、現在のフォルダとそのサブフォルダ内の項目を表示するかを切り替えるオプションがあります。オンラインヘルプにアクセスすることもできます。



[編成] メニューには、右側パネルで選択した Report Broker 項目に対して、ユーザが使用を許可されているオプションが表示されます。

注意：[編成] メニューは、右側パネルで項目が選択されている場合にのみ有効になります。

[フィルタの変更] オプションを使用して、リストに表示する項目タイプとして、Report Broker スケジュールまたは配信リストのいずれかを指定することができます。デフォルトのフィルタは [スケジュール] です。下図は、エクスプローラのツールバー右側で展開された [フィルタの変更] オプションを示しています。



Report Broker 項目のリストは、選択したフィルタに基づいて表示されますが、[選択したフォルダとサブフォルダのファイルを表示] オプションを使用することで、現在のフォルダ内の項目のみを表示するか、現在のフォルダとそのサブフォルダ内の項目を表示するかを切り替えることができます。デフォルト設定では、現在のフォルダ内の項目のみがリストに表示されます。

注意：ツールバーの [選択したフォルダとサブフォルダのファイルを表示] アイコンは、切り替えボタンです。このボタンをクリックして、フォルダ検索の深さ (選択したフォルダのみ、または選択したフォルダとそのサブフォルダ) を切り替えることができます。この操作は、現在のリストのフォルダの深さには影響しません。右側パネルの [パス] 列で、Report Broker 項目のフォルダパスを確認します。

下図のアイコンは、[選択したフォルダとサブフォルダのファイルを表示] オプションを示しています。このオプションが選択されている場合、選択したフォルダとそのサブフォルダ内の Report Broker 項目のリストが、選択済みのフィルタに基づいて表示されます。



下図のアイコンは、[選択したフォルダのファイルを表示] オプションを示しています。このオプションが選択されている場合、選択したフォルダ内の Report Broker 項目のリストが、選択済みのフィルタに基づいて表示されます。



下図のアイコンは、[コンテンツが存在するフォルダのみを表示] オプションを示しています。このオプションを選択すると、コンテンツが存在するフォルダのみが表示されます。



下図のアイコンは、[すべてのフォルダを表示] オプションを示しています。このオプションを選択すると、元のフォルダ表示に戻り、すべてのフォルダが表示されます。このオプションは、[コンテンツが存在するフォルダのみを表示] オプションが選択されている場合にのみ表示されます。



下図のアイコンは、[ヘルプ] オプションを示しています。このアイコンをクリックすると、Report Broker エクスプローラのヘルプ情報が表示されます。



エクスプローラのツリー

エクスプローラのツリーでは、ホームページと同様の操作でフォルダ間を移動することができます。フォルダをダブルクリックして、フォルダを展開したり折りたたんだりします。

エクスプローラの項目リストパネル

エクスプローラの右側パネルには、ツールバーの [フィルタの変更] および [選択したフォルダとサブフォルダのファイルを表示] オプションの設定に基づいて Report Broker 項目が表示されます。選択した Report Broker 項目タイプごとに、表示される列が異なります。選択した Report Broker 項目で使用可能なオプションは、ツールバーの [編成] メニューまたは項目のコンテキストメニューからアクセスすることができます。

エクスプローラのスケジュール詳細情報

スケジュールのリスト権限を所有するユーザは、エクスプローラの右側パネルに、スケジュールに関する情報を表示することができます。

- ☐ **タイトル** スケジュールのタイトルを表示します。
- ☐ **スケジュール ID** スケジュールの一意の ID を表示します。
- ☐ **パス** スケジュールが格納されているリポジトリパスを表示します。
- ☐ **最新の実行時間** スケジュールが最後に実行された日時を表示します。
- ☐ **最新のジョブステータス** 最後に実行されたスケジュールジョブでエラーが発生したかどうかを表示します。
- ☐ **次回実行時間** 次回のスケジュール実行日時を表示します。
- ☐ **優先度** スケジュールが Distribution Server で処理される際の優先度を表示します。最上位の優先度は 1、最下位の優先度は 5 です。

エクスプローラの配信リスト詳細情報

権限を所有するユーザは、エクスプローラの右側パネルに、配信リストに関する情報を表示することができます。

- ☐ **タイトル** 配信リストのタイトルを表示します。
- ☐ **パス** 配信リストが格納されているリポジトリパスを表示します。
- ☐ **方法** 配信リストの作成時に指定された配信方法 (Email、FTP) を表示します。
- ☐ **オーナー** 配信リストのオーナーの名前を表示します。

エクスプローラの項目オプション

権限を所有するユーザは、Report Broker 項目 (スケジュール、配信リスト) を選択し、[編集] メニューまたはコンテキストメニューのオプションを使用して、次の操作を実行することができます。

- ❑ スケジュールを開く。詳細は、188 ページの「[スケジュールを開くには](#)」を参照してください。
- ❑ スケジュールを実行する。詳細は、188 ページの「[スケジュールを実行するには](#)」を参照してください。
- ❑ スケジュールを有効または無効にする。詳細は、189 ページの「[スケジュールを有効または無効にするには](#)」を参照してください。
- ❑ 複数のスケジュールを有効または無効にする。詳細は、189 ページの「[複数のスケジュールを有効または無効にするには](#)」を参照してください。
- ❑ スケジュールを削除する。詳細は、189 ページの「[スケジュールを削除するには](#)」を参照してください。
- ❑ 配信リストを開く。詳細は、190 ページの「[配信リストを開くには](#)」を参照してください。
- ❑ 配信リストを削除する。詳細は、190 ページの「[配信リストを削除するには](#)」を参照してください。

注意：Report Broker エクスプローラでは、複数のファイルを同時に選択して、[編集]、[実行]、[ログの表示]、[切り取り]、[コピー]、[削除]、[共有する] の操作を実行することができます。

手順

スケジュールを開くには

1. アクセスする項目が格納されているフォルダを選択し、ツールバーの [選択したフォルダのファイルを表示] オプションを選択します。
2. [フィルタの変更] ドロップダウンリストから [スケジュール] を選択します。デフォルトのフィルタオプションは [スケジュール] です。
3. エクスプローラで、開くスケジュールを選択します。
4. 選択したスケジュールを右クリックし、コンテキストメニューから [編集] を選択します。

手順

スケジュールを実行するには

1. アクセスする項目が格納されているフォルダを選択し、ツールバーの [選択したフォルダのファイルを表示] オプションを選択します。

2. [フィルタの変更] ドロップダウンリストから [スケジュール] を選択します。デフォルトのフィルタオプションは [スケジュール] です。
3. エクスプローラで、実行するスケジュールを選択します。
4. スケジュールを右クリックし、[実行] を選択します。
5. 必要に応じて、複数のスケジュールを同時に実行する場合は、Ctrl キーを押しながら、実行する各スケジュールを選択します。Ctrl キーを離し、選択したスケジュールのいずれかを右クリックして [実行] を選択します。

手順

スケジュールを有効または無効にするには

1. アクセスする項目が格納されているフォルダを選択し、ツールバーの [選択したフォルダのファイルを表示] オプションを選択します。
2. ドロップダウンリストで [スケジュール] を選択します。デフォルトのフィルタオプションは [スケジュール] です。
3. 有効なスケジュールを右クリックします。
コンテキストメニューが表示されます。
4. [無効にする] をクリックします。スケジュールがすでに無効になっている場合、このオプションは [有効にする] と表示されます。

手順

複数のスケジュールを有効または無効にするには

1. アクセスする項目が格納されているフォルダを選択し、ツールバーの [選択したフォルダのファイルを表示] オプションを選択します。
2. ドロップダウンリストで [スケジュール] を選択します。デフォルトのフィルタオプションは [スケジュール] です。
3. Ctrl キーを押しながら、有効または無効にするスケジュールを選択します。
4. 選択したスケジュールのいずれかを右クリックします。
コンテキストメニューが表示されます。
5. 選択したスケジュールをすべて有効にするには [有効にする] をクリックし、選択したスケジュールをすべて無効にするには [無効にする] をクリックします。

手順

スケジュールを削除するには

1. アクセスする項目が格納されているフォルダを選択し、ツールバーの [選択したフォルダのファイルを表示] オプションを選択します。
2. [フィルタの変更] ドロップダウンリストから [スケジュール] を選択します。デフォルトのフィルタオプションは [スケジュール] です。

3. エクスプローラで、削除するスケジュールを選択します。
4. スケジュールを右クリックし、[削除] を選択します。

手順

配信リストを開くには

1. アクセスする項目が格納されているフォルダを選択し、ツールバーの [選択したフォルダのファイルを表示] オプションを選択します。
2. [フィルタの変更] ドロップダウンリストから [配信リスト] を選択します。
3. エクスプローラで、開く配信リストを選択します。
4. 配信リストを右クリックし、[編集] を選択します。

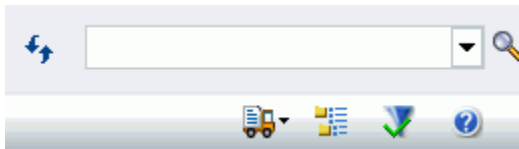
手順

配信リストを削除するには

1. アクセスする項目が格納されているフォルダを選択し、ツールバーの [選択したフォルダのファイルを表示] オプションを選択します。
2. [フィルタの変更] ドロップダウンリストから [配信リスト] を選択します。
3. エクスプローラで、削除する配信リストを選択します。
4. 配信リストを右クリックし、[削除] を選択します。

サブフォルダの検索

エクスプローラへのアクセス権限を所有するユーザは、下図のように、エクスプローラ右上の [検索] 機能を使用して、選択した Report Broker 項目フィルタに基づいて、Report Broker 項目およびフォルダを検索することができます。



リポジトリ内の項目を検索中に、Report Broker エクスプローラ最下部のステータスバーに [処理中] または [完了] が表示されます。[処理中] は検索項目の取得中に表示され、[完了] は検索結果が取得された際に表示されます。

注意

- ❑ サブフォルダを検索する場合、検索を実行する前に設定済みのフィルタ (例、スケジュール、配信リスト) を変更しない限り、そのフィルタが引き続き使用されます。フィルタの使用についての詳細は、185 ページの「[エクスプローラのツールバー](#)」を参照してください。
- ❑ Report Broker エクスプローラで検索を実行した後、検索テキストボックスに入力した内容をクリアした場合に、エクスプローラの右側ウィンドウの項目リストがリフレッシュされません。エクスプローラの表示を元の状態に戻すには、ブラウザのリフレッシュ機能を使用します。

8

スケジュールのトラッキング

スケジュールに関する情報 (例、配信ジョブの日付、時間、実行ステータス、受信者) にアクセスするには、ログレポートを実行するか、Report Broker ステータスで [ジョブステータス] をクリックします。スケジュールのリソース利用を分析することもできます。

トピックス

□ ログレポート

ログレポート

ログレポートはスタイルが設定された HTML フォーマットで、別のブラウザウィンドウに表示されます。ログレポートは、検索、印刷、保存が可能です。ログレポートは個別のブラウザウィンドウに表示され、情報の表示方法は指定した内容により異なります。指定された期間内に実行された各スケジュール済みジョブに対して、ログレコードが作成されます。

コンソールによるスケジュールのトラッキング

日付、実行ステータス、配信ジョブの受信者などの情報には、ログレポートの実行およびジョブステータスの確認によって、アクセスすることができます。

スケジュールログの使用

ログレポートを使用して、配信されたジョブの情報を表示することができます。この情報には、ジョブの完了状況、スケジュール出力が配信された時間、使用された配信出力フォーマット、配信方法などがあります。ログレポートは HTML フォーマットで、別のブラウザウィンドウに表示されます。ログレポートは、検索、印刷、保存が可能です。ログレポートには、スケジュールツールでスケジュールを編集する際にアクセスすることも、リソースツリーで既存のスケジュールを右クリックする方法でもアクセスすることができます。

ログファイルには、情報が累積されます。リポジトリに格納されている多くのログレポートを管理し、表示されるログレポート情報のパフォーマンスを向上させるには、ログレコードを定期的に消去する必要があります。

右側パネルのリストは、ジョブ ID、ジョブの実行開始時間、ジョブの実行が完了するまでの所要時間、ジョブの全般的なステータスなど、ジョブの実行についての基本的な情報を提供します。ジョブの詳細なレポートを表示するには、ジョブリストでジョブをダブルクリックします。

ジョブステータスの確認

スケジュールのトラッキングを行うには、ジョブのステータスを確認する方法もあります。スケジュールステータスは、Distribution Server で実行待ち中の、スケジュール済みジョブリストを提供します。ステータス情報には、スケジュール ID、スケジュールの開始時間、ジョブのステータスなどがあります。

スケジュールのジョブステータス情報にアクセスするには、Report Broker ステータスの [ジョブステータス] タブを表示します。詳細は、20 ページの「[ジョブステータス](#)」を参照してください。

手順 ログレポートを表示するには

1. ホームページでスケジュールを右クリックし、[ログの表示] を選択します。

[スケジュールのログオプション] ダイアログボックスが開きます。 .

2. [最新の実行ジョブ]、[すべて]、[日付] から、表示するログレポートを選択します。

[日付] を選択すると、[開始日時] および [終了日時] パラメータを使用して検索するオプションが表示されます。

3. [OK] をクリックします。

検索条件に一致するログレポートが表示されます。

ログレポートの先頭行には、[ジョブの説明] が表示されます。これは、スケジュールの作成時に指定した一意の説明 ID です。[ジョブの説明] の下の 1 列目には、次の情報が表示されます。

- ❑ **ユーザ** Report Broker ユーザ ID です。スケジュールのオーナーを示します。
 - ❑ **プロシジャ** Report Broker により生成される一意のキーです。スケジュール済みジョブの特定の実行を識別します。
 - ❑ **スケジュール ID** Report Broker により生成される一意のキーです。ジョブのスケジュールの作成時に割り当てられます。
 - ❑ **開始時間** ジョブが開始した日付と時間です。
 - ❑ **終了時間** ジョブが終了した日付と時間です。
- 2 列目には、次の内容を含むメッセージが表示されます。
- ❑ 特定のジョブへの配信方法 (例、Email 配信) などの一般情報。

- ❑ リクエストの開始、配信の完了、リクエストの完了などを示すプロセス情報。プロセス情報には、リクエストの失敗の原因 (例、データソースの使用不可) などの情報も含まれます。

手順 スケジュールツールでログレポートを表示するには

1. ホームページでログを表示するスケジュールを右クリックし、[編集] を選択します。
ベーシックスケジュールツールが開きます。
2. スケジュールツールで、[ログレポート] タブをクリックします。
[ログレポート] パネルが表示されます。
3. 実行済みのジョブ番号を確認します。
4. ジョブのログレポート情報を表示するには、ジョブリスト下部のウィンドウで、[ジョブ番号] をクリックします。

参照 ログレポート表示時の考慮事項

ログレポートを表示する際は、次のことを考慮する必要があります。

タスク名とレポート名

Report Broker ログは、Db2 Web Query フォルダとプロシジャ (FEX) を、説明ではなくパスおよびファイル名で参照します。

Email アドレス

Email の有効性の確認はメールサーバで行われるため、Report Broker は Email アドレスを確認できません。メールサーバで認可され、Report Broker に送信された Email アドレスがすべてログレポートに記述されています。

バーストレポート

- ❑ 有効なバースト値が、配信リストで省略された場合、Report Broker は有効なバースト値をブランクと見なします。バースト値がブランクであるため、ログファイルには値が表示されません。これにより、ログファイルのサイズが大幅に減少します。これは、データベースがプロシジャ中の最初の BY 項目に多くの値を含み、これらの値がバーストされる場合に顕著です。
- ❑ バースト値が、配信リストに指定されており、データベース上に存在しない場合、ログファイルには次のメッセージが表示されます。

`Burst Value: value is not in the database.`

- ❑ レポートプロシジャ (FEX) のバーストレポート配信が完了すると、ログファイルには、各バースト値に対する次のメッセージが表示されます。

`FILE filename SUCCESSFULLY DISTRIBUTED TO destination FOR burst value.`

無効なオプション

- ❑ タスクタイプ、配信方法が使用不可のスケジュールの実行が許可されていない場合は、エラー通知が送信されます。ジョブプロセスログレポートでは、エラーが赤色のテキストで表示されます。ログレポート、詳細通知、簡易通知には、スケジュールのオーナーが変更する必要のある無効なオプションに関する情報が記載されています。
- ❑ スケジュールで無効なタスクタイプまたは配信方法が指定されている場合でも、スケジュールの実行が許可されている場合は、通常どおりジョブが実行され、ログレポートにメッセージが記録されます。このメッセージは、無効なタスクタイプまたは配信方法が指定された既存のスケジュールが実行可能であることを通知するものです。

Report Broker

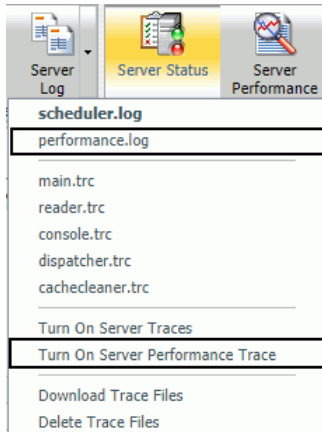
のパフォーマンスログによるスケジュール実行のトラッキング

パフォーマンスログを使用して、Report Broker を使用したスケジュールでのリソース利用を分析することができます。このログは、各スケジュールおよびスケジュールコンポーネントの処理期間を記録します。

パフォーマンスログを使用するには、Report Broker ステータスにアクセスします。リボンの [表示] グループで、[サーバステータス] タブをクリックします。次に、[サーバの管理] グループで [サーバログ] ドロップダウン矢印をクリックし、[サーバログ] メニューを表示します。

パフォーマンスログ機能は、デフォルト設定で無効になっています。パフォーマンスログの記録を有効にするには、[サーバパフォーマンストレース オン] を選択します。

下図は、[performance.log] および [サーバパフォーマンストレース オン] のオプションを示しています。



[performance.log] は、各レコードに次の情報を記録します。

- ☐ ジョブ ID
- ☐ スケジュール ID
- ☐ スケジュール名
- ☐ ユーザ ID
- ☐ 時間
- ☐ タイプ - (開始、終了)
- ☐ イベント - (QUEUED、JOB、WF_REPORTING_SERVER、DESTINATION_MAPPING、COMPRESSION、EMAIL、FTP、REPOSITORY、PRINT)
- ☐ ソース - (スケジュール ID、タスク ID、配信 ID)
- ☐ サーバ名 - (EDASERVE、FTP サーバ名、Print Name@...)
- ☐ サーバユーザ - (実行 ID)
- ☐ オブジェクト - スケジュール済みプロシジャ

9

トレースの使用

Report Broker で権限を所有するユーザは、トレースを使用して、Report Broker コンポーネントの内部処理に関する情報を取得することができます。Report Broker リクエストのトレースを実行すると、実行されたイベントを記述する一連の詳細なステートメントが生成され、トレースファイルに格納されます。

トピックス

- ☐ [トレースの有効化](#)
 - ☐ [Servlet トレース](#)
 - ☐ [Distribution Server スタートアップトレースファイル](#)
 - ☐ [スケジュールトレースおよびレポートトレース](#)
 - ☐ [Distribution Server 初期化トレース](#)
 - ☐ [Reporting Server のトレース](#)
-

トレースの有効化

Distribution Server スケジュールトレースは、Report Broker Servlet トレースは、管理コンソールで有効または無効にします。

Servlet トレース

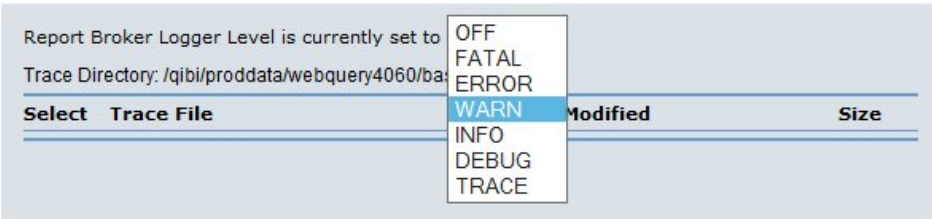
Servlet トレースは、Report Broker API を含めて、Web アプリケーションに展開済みのすべての Report Broker Servlet のトレースを有効にします。Servlet トレースは、リポジトリへのクエリおよび保守に関する情報を提供します。これには、スケジュールの作成時に発生するイベントも含まれます。

手順

Servlet トレースにアクセスするには

1. 管理コンソールを開きます。
2. [機能診断] タブをクリックします。
3. [機能診断] タブで [ログファイル] をクリックします。

4. 下図のように、アクセスするログファイルの情報タイプを選択します。



5. トレースを表示するログファイルをクリックします。

Distribution Server スタートアップトレースファイル

スケジュールトレースを有効にすると、次の Distribution Server のコアトレースファイルが / qibm/userdata/qwebqry/base80/ReportCaster/trc ディレクトリに作成されます。Distribution Server の新しいインスタンス開始時に、これらのトレースファイルが以前のトレースファイルと置き換わります。

- ☐ **main.trc** Distribution Server のメインスレッドにより処理されるコマンドをトレースします。これらのコマンドには、初期化、シャットダウン、ジョブの即時実行があります。
- ☐ **reader.trc** Distribution Server のスケジュールチェックをトレースします。デフォルトのポーリング間隔は 1 分です。
- ☐ **disp.trc** Distribution Server と Reporting Server 間のスレッドをトレースします。最大スレッド数は、管理コンソールの [Report Broker Servlet トレース] の [最大スレッド] の設定で定義します。デフォルトのスレッド数は 3 です。
- ☐ **console.trc** Report Broker API および Report Broker Servlet と Distribution Server との通信をすべてトレースします。

スケジュールトレースおよびレポートトレース

Distribution Server スケジュールトレースを有効にするには、コンソールの [構成] タブで [Distribution Server] フォルダ下の [その他の設定] フォルダを選択し、[スケジュールジョブトレース] を [スケジュール] (レポートトレースも有効にする場合は [スケジュールとレポート]) に設定します。

Report Broker では、オンデマンドでスケジュールを実行する場合に、スケジュールごとに [スケジュール] または [スケジュールとレポート] のトレースを有効にすることもできます。スケジュールを実行する際は、Report Broker 構成ツールで指定したスケジュールトレース設定が、そのスケジュールのみの設定を変更するオプションとともに表示されます。

特定のジョブに関連付けられたトレースファイル

[スケジュールジョブトレース] パラメータを [スケジュール] に設定した場合、Report Broker が生成するトレースファイルに、実行中の特定のジョブに関連する Report Broker Distribution Server 情報が記録されます。次のトレースファイルがジョブごとに作成され、/qibm/userdata/qwebqry/base80/ReportCaster/trc ディレクトリに格納されます。ファイル名には一意のジョブプロセス ID (Jobid) が付けられます。

- ❑ **Jobid.trc** (例、J0ud2a6kqk01.trc) ジョブの実行に関連した情報がすべて格納されます。スケジュールプロシジャ、配信情報、ログ作成とそのコンテンツに関する情報が格納されます。[スケジュールとレポート] トレースを選択した場合、このファイルには、Reporting Server から返信されたレポートも含まれます。
- ❑ **procedure.log** 配信情報、レポートパラメータ (存在する場合)、プロシジャコード (Db2 Web Query の場合)、または -INCLUDE FOCEXEC (サーバプロシジャの場合) が格納されます。
- ❑ **Jobid.err** プロセスエラーが発生した場合、Report Broker により、レポートの配信が失敗した原因に関連する情報を記述した jobid.err ファイルが作成されます。
- ❑ **DistRun.trace** IBFS トレース情報が格納されます。
- ❑ **DistRun.html** レポートの .html バージョンが格納されます。
- ❑ **session.log** IBFS セッションに関する情報が格納されます。

注意：ターゲットジョブのジョブプロセス ID は、ログレポートを実行することで特定できます。詳細は、193 ページの「[スケジュールのトラッキング](#)」または 21 ページの「[ジョブログ](#)」を参照してください。ジョブプロセス ID は「J」で始まり、その後に一連の乱数と小文字が続きます。

トレースエラーファイル

Report Broker に予測外のエラーや異常終了が発生した場合は、次のエラーファイルが作成されます。

- ❑ **console.err** コンソールの終了時に作成されます。

- ❑ **disp.err** ディスパッチャの終了時に作成されます。
- ❑ **main.err** メインスレッドの終了時に作成されます。
- ❑ **reader.err** リーダの終了時に作成されます。
- ❑ **Jobid.err** ジョブの処理でのエラー発生時に作成されます。

スケジュールトレースファイルのクリーンアップ

スケジュールトレースの設定をオフにした場合、Distribution Server の /temp ディレクトリ内のファイルとフォルダ、および /trc ディレクトリ内のスケジュールトレースファイル (J*.*) は、Distribution Server の起動時に削除されます。このため、これらのファイルを保持するには、ファイルのバックアップを作成するか、スケジュールトレースを有効にします。スケジュールトレースを有効にするには、管理コンソールの [Report Broker Servlet トレース] で [スケジュールトレース] の値を [スケジュール] または [スケジュールとレポート] に設定します。

Report Broker ジョブトレースファイルのダウンロード

スケジュールの実行後またはジョブログの削除のいずれかの機能の使用後に、Report Broker ステータスに保存された対応するジョブログを選択し、各ジョブで作成されたトレースファイルをダウンロードすることができます。

手順 Report Broker ジョブトレースファイルをダウンロードするには

1. スケジュールを実行するか、ジョブログの削除機能のいずれかを使用します。
注意： Report Broker ジョブのトレースファイルを取得するには、このジョブのトレースを有効にしておく必要があります。
2. Report Broker ステータスを開きます。リボンの [表示] グループで、[ジョブログ] ボタンをクリックします。
3. [ジョブログ] ウィンドウで、表示するジョブログが格納されたフォルダを選択します。
右側のウィンドウに、ジョブログが表示されます。
4. ジョブログをクリックします。
5. リボンの [ジョブログの管理] グループで、[トレースの表示] ボタンの下向き矢印をクリックします。
[トレースファイルのダウンロード] メニューオプションが表示されます。
6. [トレースファイルのダウンロード] オプションを選択します。

Windows の [保存] ダイアログボックスが表示されます。ここで、トレースファイルをユーザのマシンに保存することができます。ログのジョブ ID が、開くまたは保存する ZIP ファイルの名前になります。

Distribution Server 初期化トレース

scheduler.log トレースファイルは、常に /qibm/userdata/qwebqry/base80/ReportCaster/log ディレクトリ内に作成されます。このファイルは、Distribution Server の初期化をトレースし、管理コンソールの [Report Broker Servlet トレース] で有効にしたオプションを表示します。また、ログファイルに書き込まれた情報も表示します。

Distribution Server がインストールされ、Windows サービスとして開始されると、次のファイルが生成されます。

- ❑ **service.log** サービスのインストール時に作成されます。
- ❑ **commons-daemon.log** サービスの開始と終了をトラッキングします。
- ❑ **wf82-stdout.log** さまざまな Distribution Server が開始されたことを示します。
- ❑ **wf82-stderr.log** サービスの潜在的な問題に関する情報が記録されます。

注意：同日中に複数の scheduler.log ファイルが作成されると、Report Broker が日付時間スタンプを使用して、インスタンスごとに一意のファイルを作成します。使用されるフォーマットは、scheduler_DD-MM-YY_HH-MM-SS です。

Reporting Server のトレース

Reporting Server トレースは、ジョブの実行と配信に関する情報を提供します。サーバトレースを有効にするには、次の手順を実行します。

1. Reporting Server コンソールにアクセスします。
2. [ツール] メニューから [ワークスペース] を選択し、ナビゲーションウィンドウの [ログとトレース] を展開して [トレース] を右クリックします。
3. [トレースを有効にする] をクリックします。

10

スケジュール出力の Report Broker フォーマット

スケジュールを作成すると、Report Broker は、プロシ ज्याで定義されているフォーマットでレポートを出力します。また、プロシ ज्याでフォーマットが指定されていない場合は、デフォルトフォーマットが使用されます。必要に応じて、プロシ ज्याで指定されているフォーマットを上書きし、スケジュールで別のフォーマットを指定することができます。ここでは、Report Broker で使用可能なフォーマットについて説明します。また、これらのフォーマットの使用および配信の際の考慮事項も記載しています。フォーマットによっては、プロシ ज्याで定義されているフォーマットを上書きする方法で出力できないものもあります。これらのフォーマットで出力するには、スケジュールするレポート自体でフォーマットを定義する必要があります。上書きする方法で出力できないフォーマットは、スケジュールツールでフォーマットを選択する際のリストに表示されません。詳細は、各フォーマットの考慮事項を参照してください。

トピックス

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> AHTML | <input type="checkbox"/> HTML5 |
| <input type="checkbox"/> APDF | <input type="checkbox"/> JPEG |
| <input type="checkbox"/> DHTML | <input type="checkbox"/> PDF |
| <input type="checkbox"/> DOC | <input type="checkbox"/> PNG |
| <input type="checkbox"/> EXL07 | <input type="checkbox"/> PPT |
| <input type="checkbox"/> EXL2K | <input type="checkbox"/> PPTX |
| <input type="checkbox"/> EXL2K FORMULA | <input type="checkbox"/> PS |
| <input type="checkbox"/> EXL97 | <input type="checkbox"/> SVG |
| <input type="checkbox"/> HTML | <input type="checkbox"/> WP |

AHTML

フォーマット：AHTML (.htm, .html)

説明：カスタマイズ可能なオプションを備えた HTML フォーマットのレポートを作成します。このレポートでは、Excel ブックなどで使用可能な機能を使用することができます。

用途 (推奨) : Web ブラウザでの Email 表示

考慮事項

- ☐ 複合レポート以外のバーストをサポートします。
- ☐ Email の添付ファイルでのみ配信が可能です。Email メッセージ本文として配信することはできません。

APDF

フォーマット : APDF (.pdf)

説明 :「Active PDF」とも呼ばれ、PDF に Flash ファイルが埋め込まれたレポートを作成します。

用途 (推奨) : レポートの動的な表示に使用します。

DHTML

フォーマット : DHTML (.htm, .mht)

説明 :ハイパーリンクおよびその他の WWW (World Wide Web) 機能をサポートします。スタイルシートのフォーマットを保持します。

HTML の機能に加えて、DHTML は Web アーカイブフォーマット (.mht) をサポートします。 .mht ファイルには、複数のレポートおよびグラフを含めることができ、統合された複合レポートに利用することができます。

用途 (推奨) : Web ブラウザでの Email 表示

考慮事項

- ☐ DHTML フォーマットのデフォルトファイルタイプは .mht です。プロシージャから取得される出力が HTML の場合、出力ファイルを適切に開くには、ファイルタイプを .html に手動で変更する必要があります。
- ☐ バーストをサポートします。
- ☐ Reporting Server から取得されるファイルが Web アーカイブファイル (.mht) 以外の場合、DHTML を Email メッセージの本文として配信することができます。取得されるファイルが Web アーカイブファイルの場合は、このフォーマットを本文として配信することはできません。
- ☐ 出力が .mht ではなく .htm の場合は、DHTML を Email の添付ファイルとして配信し、Email メッセージの本文として送信することができます。

- ❑ DHTML には、2 つのフォーマットがあります。
 - ❑ リクエストに SET HTMLARCHIVE=ON コマンドが設定されていない場合、スケジュールプロシジャは HTML ファイルを出力します。Email または FTP で配信する場合は、ファイルタイプ .htm を使用します。
 - ❑ リクエストに SET HTMLARCHIVE=ON コマンドが指定されている場合、スケジュールプロシジャは Web アーカイブファイル (.mht) ファイルを出力します。Email または FTP で配信する場合は、ファイルタイプ .mht を使用します。

DOC

フォーマット：DOC (.txt)

説明：スケジュール出力をワードプロセッサ用テキストとして開きます。テキストは、すべてのワードプロセッサアプリケーションで開くことができます。ASCII フォームフィード文字を保持し、ページ出力を正しく表示します。

用途 (推奨)：ワードプロセッサアプリケーション、Email に使用します。

考慮事項

- ❑ ほとんどのフォーマットを保持しません。ハイパーリンクやアラートはサポートしません。
- ❑ Email の添付ファイルまたは Email メッセージの本文として配信することができます。
- ❑ バーストをサポートします。

EXL07

フォーマット：EXL07 (.xlsx)

説明：スケジュール出力を Excel 2007 または 2010 以降のバージョンで開きます。

用途 (推奨)：ReportLibrary に使用します。

考慮事項

- ❑ このフォーマットによるレポート配信をスケジュールする場合、プロシジャ、Report Broker の構成設定、Excel サーバ URL のいずれかで、Excel 2007 ファイルコンポーネントを配信用に圧縮する Application Server が指定されていることを確認します。プロシジャの Excel サーバ URL は、Report Broker 構成ツールで指定された値を上書きします。
- ❑ 複合レポート以外のバーストをサポートします。

EXL2K

フォーマット：EXL2K (.xls)

説明：スケジュール出力を Excel 2000 以降のバージョンで開きます。

ほとんどのスタイルシート属性をサポートしているため、完全なレポートのフォーマット設定が可能です。

用途 (推奨)：ReportLibrary に使用します。

考慮事項

- ☐ Excel2000 以降のバージョンをインストールする必要があります。
- ☐ フォーマットは ASCII です。
- ☐ .xht 拡張子を持つすべての EXL2K 出力は、Email または FTP 配信用に、動的に .xls に変更されます。Web サーバの MIME テーブルを編集して、.xls 拡張子をバイナリではなく ASCII アプリケーションデータにする必要があります。
- ☐ 複合レポート以外のバーストをサポートします。

EXL2K FORMULA

フォーマット：EXL2K FORMULA (.xls)

説明：スケジュール出力を Excel 2000 以降のバージョンで開きます。

列合計、行合計、中間合計など、集計情報はすべて Excel 関数として格納され、結果が計算、表示されます。

用途 (推奨)：ReportLibrary に使用します。

考慮事項

- ☐ Excel2000 以降のバージョンをインストールする必要があります。
- ☐ フォーマットは ASCII です。
- ☐ .xht 拡張子を持つすべての EXL2K 出力は、Email または FTP 配信用に、動的に .xls に変更されます。Web サーバの MIME テーブルを編集して、.xls 拡張子をバイナリではなく ASCII アプリケーションデータにする必要があります。
- ☐ 複合レポート以外のバーストをサポートします。

EXL97

フォーマット：EXL97 (.xls)

説明：スケジュール出力を Excel97 ワークシートファイルとして開きます。レポートフォーマットおよびドリルダウンをサポートをする HTML ベースの表示フォーマットです。

用途 (推奨)：ReportLibrary に使用します。

考慮事項

- ☐ Excel97 以降のバージョンをインストールする必要があります。
- ☐ バーストをサポートします。

HTML

フォーマット：HTML (.htm、.html)

説明：ハイパーリンクおよびその他の Web ベースの機能をサポートします。スタイルシートのフォーマットを保持します。

用途 (推奨)：ReportLibrary、Web ブラウザでの Email 表示

考慮事項

- ☐ HTML フォーマットのデフォルトファイルタイプは .htm です。プロシジャから取得される出力が .mht ファイルの場合、出力ファイルを適切に開くには、ファイルタイプを .mht に手動で変更する必要があります。
- ☐ グラフを HTML フォーマットでスケジュールし、配信する場合、バースト配信されません。グラフを正常にバースト配信するためには、次のフォーマットが選択できます。
 - ☐ バースト可能なイメージフォーマットは、次のとおりです。
 - ☐ PNG
 - ☐ SVG
 - ☐ JPEG
 - ☐ GIF
 - ☐ バースト可能なファイルフォーマットは、次のとおりです。
 - ☐ PDF
 - ☐ PPTX

❑ EXL07

- ❑ 通常、イメージが含まれた HTML ページを出力するには、フォーマットとして DHTML を選択し、出力を拡張子が .mht のファイルとして配信します。配信フォーマットとして HTML を選択することができます。Report Broker のデフォルト設定では、HTML を選択すると、拡張子が .htm の出力が作成されます。

注意：HTML レポートにイメージを表示するには、プロシジャで SET BASEURL="" コマンドを指定する必要があります。

スケジュールプロシジャに SET WEBARCHIVE = ON コマンドが含まれている場合は、イメージが含まれたページが出力されますが、フォーマットとして HTML を選択する場合は、[保存レポート名] テキストボックスの拡張子を .htm から .mht に変更してください。

- ❑ HTML レポートを Email または FTP 配信する場合は、スケジュールするレポートプロシジャ (.fex) で、以下のレポートスタイルオプションに対して完全修飾 FOCEXURL および FOCHTMLURL を設定する必要があります。これらは、Client の構成先 Web サーバまたは Application Server の JavaScript コンポーネントを参照します。以下はその例です。

```
SET FOCEXURL='hostname:port/ibi_apps/'
```

```
SET FOCHTMLURL='hostname:port/ibi_apps/ibi_html'
```

スタイルオプションには次のものがあります。

- ❑ アコーディオンレポート
- ❑ 目次 (TOC) レポート
- ❑ ピアグラフレポート
- ❑ マルチドリルダウンレポート
- ❑ HFREEZE オプション

セキュリティとして SSL を使用する場合は、URL を編集して「https」を指定します。

- ❑ バーストをサポートします。
- ❑ Email の添付ファイルまたは Email メッセージの本文として配信することができます。

- ❑ GRAPH FILE 構文を含むプロシジャで 사용할 수 있습니다. GRAPH FILE で 사용할 경우, Report Broker は 그래프를 Reporting Server (JSCOM3 を使用) 上で自動的に 생성し、HTML5EMBEDIMG=ON を 사용하여 HTML 出力에 埋め込みます. 스케줄러 프로시저에서 HTML5ARCHIVE=ON 이 지정されている 경우, 이 설정은 HTML5EMBEDIMG=ON 을 上書きし, 이전 버전의 Internet Explorer で 表示 가능한 출력을 생성합니다.

HTML5

フォーマット: HTML5 (.htm)

説明: 스케줄러 출력을 그래픽 이미지로 開きます. これらの 그래픽 이미지는, 비트맵으로, 1600 万色을 지원합니다. 또한, HTML5 그래프를 压缩しても 데이터 손실이 발생하지 않기 때문에, 压缩한 파일을 解冻하여 元の 상태에 戻할 수 있습니다. 因此, HTML5 이미지를 保存, 変更, 再保存해도, 全体の 画質이 低下하지 않습니다.

用途 (推奨): Email および FTP

考慮事項

- ❑ HTML5 で 配信された 리포트는, Internet Explorer 8 에는 正しく 表示されない 場合があります. Internet Explorer 8 에는 HTML5 이 支持되지 않기 때문에, Internet Explorer 8 은, HTML5 포맷 (JSCHART) 에 配信された 그래프를 最初에 Adobe Flash 플랫폼을 사용하여 表示하려고 합니다. 表示할 수 없는 경우, Microsoft VML 標準이 사용됩니다.
- ❑ GRAPH FILE 構文を含む 프로시저에 仅限하여 사용할 수 있습니다.
- ❑ 바스트는 支持하지 않습니다.
- ❑ 이 포맷은 정적 이미지를 생성하기 위해, 드릴다운은 支持하지 않습니다.
- ❑ Email 및 FTP 配信에서는, 完全修飾 FOCXURL 을 使用할 必要가 있습니다. SSL 安全性을 使用할 場合, URL 에 「https」를 지정합니다.

JPEG

フォーマット: JPEG (.jpg, .jpeg, .jpe, .jfif)

説明: 스케줄러 출력을 JPEG 포맷의 그래픽 이미지로 開きます.

用途 (推奨): ReportLibrary に 使用합니다.

考慮事項

- ❑ GRAPH FILE 構文を含むプロシジャにのみ使用することができます。
- ❑ バーストはサポートされ、GRAPH FILE リクエストの 2 番目の BY フィールドで実行されます。
- ❑ JPEG フォーマットは静的イメージを作成するため、ドリルダウンはサポートしません。
- ❑ 見出しまたは脚注が含まれたグラフをイメージフォーマット (JPEG、PNG、または SVG) で配信する場合は、InfoAssist+ で見出しおよび脚注をイメージとして埋め込むオプションを選択する必要があります。埋め込みオプションを選択しない場合、配信される JPEG ファイルに見出しと脚注は含められません。この場合、見出しまたは脚注を含むグラフは、HTML、HTML5、または PDF を使用して配信する必要があります。

PDF

フォーマット：PDF (.pdf)

説明：スケジュール出力が PDF として保存され、Adobe Reader で表示することができます。関連するすべてのスタイルシートフォーマットが保持されます。

用途 (推奨)：Email に使用します。

考慮事項

- ❑ Email 添付ファイル内のハイパーリンクはサポートしません。受信者は、Adobe Reader を使用して表示する必要があります。
- ❑ 印刷がサポートされるのは、PDF を印刷できるように Report Broker が構成され、プリンタの適切なドライバがインストールされている場合です。
- ❑ バーストをサポートします。
- ❑ Report Broker で BY HIGHEST primarysortfield 構文を含む TABLE リクエストで作成された PDF レポートを配信する場合、レポートには主ソートフィールド値ごとにページ区切りが挿入されます。
- ❑ PDF ドリルスルー機能をサポートします。

PNG

フォーマット：PNG (.png)

説明：スケジュール出力をグラフィイメージとして開きます。これらのグラフィイメージは、ビットマップで、1600 万色をサポートします。さらに、PNG グラフは、データ損失が生じない方法で圧縮されるため、データは完全に元どおりに解凍されます。そのため、PNG を保存、変更、再保存しても、全体の画質が低下することはありません。

用途 (推奨)：ReportLibrary に使用します。

考慮事項

- ☐ GRAPH FILE 構文を含むプロシジャにのみ使用することができます。
- ☐ バーストはサポートされ、GRAPH FILE リクエストの 2 番目の BY フィールドで実行されます。
- ☐ このフォーマットは静的イメージを作成するため、ドリルダウンはサポートしません。
- ☐ 見出しまたは脚注が含まれたグラフをイメージフォーマット (JPEG、PNG、または SVG) で配信する場合は、InfoAssist+ で見出しおよび脚注をイメージとして埋め込むオプションを選択する必要があります。埋め込みオプションを選択しない場合、配信される PNG ファイルに見出しと脚注は含められません。この場合、見出しまたは脚注を含むグラフは、HTML、HTML5、または PDF を使用して配信する必要があります。

PPT

フォーマット：PPT (.ppt)

説明：Web アーカイブフォーマットで新しい PowerPoint ファイルを作成します。

用途 (推奨)：ReportLibrary に使用します。

考慮事項

- ☐ バーストをサポートします。
- ☐ PowerPoint ファイルは、単一レポートとして出力することができます。レポート (TABLE) のスタイルシートに埋め込み、必要な数のグラフを含めることができます。

PPTX

フォーマット：PPTX (.pptx)

説明：Open XML 形式を使用して作成される新しい PowerPoint ファイルを Web アーカイブフォーマットで生成します。

用途 (推奨) : ReportLibrary に使用します。

考慮事項

- ☐ バーストは、Reporting Server バージョン 8.1 SP05 でサポートされ、プロシジャの当初のフォーマットを変更せずにスケジュールする場合に使用できます。つまり、プロシジャで ON TABLE PCHOLD FORMAT PPTX が指定され、ユーザが [上書き] オプションを選択せずにスケジュールを作成する必要があります。
- ☐ PPTX を選択した場合、スケジュール実行時に、Distribution Server が実行するプロシジャ (.fex) に SET DISTRIBUTE=PPTX を追加します。
- ☐ PowerPoint (PPTX) ファイルは、単一レポートとして出力することができます。レポート (TABLE) のスタイルシートに埋め込み、必要な数のグラフを含めることができます。

PS

フォーマット : PS (.ps)

説明 : スケジュール出力を PostScript として保存することができます。関連するすべてのスタイルシートフォーマットが保持されます。

用途 (推奨) : 印刷に使用します。

考慮事項

- ☐ ハイパーリンクはサポートしません。
- ☐ PostScript をサポートするプリンタを使用する必要があります。受信者は、PostScript をサポートするアプリケーションを使用する必要があります。
- ☐ バーストをサポートします。

SVG

フォーマット : SVG (.svg)

説明 : スケジュール出力をグラフィイメージとして開きます。このファイルフォーマットは、XML ベースで、強力でインタラクティブなイメージを提供します。

用途 (推奨) : ReportLibrary に使用します。

考慮事項

- ☐ 受信者は、SVG グラフィイメージをサポートするブラウザ、または Adobe SVG Viewer for Windows などの SVG ビューアを使用する必要があります。Adobe SVG Viewer for Windows をダウンロードするには、<http://www.adobe.com> にアクセスしてください。

- ❑ GRAPH FILE 構文を含むプロシジャにのみ使用することができます。
- ❑ バーストはサポートされ、GRAPH FILE リクエストの 2 番目の BY フィールドで実行されます。
- ❑ 見出しまたは脚注が含まれたグラフをイメージフォーマット (JPEG、PNG、または SVG) で配信する場合は、InfoAssist+ で見出しおよび脚注をイメージとして埋め込むオプションを選択する必要があります。埋め込みオプションを選択しない場合、配信される SVG ファイルに見出しと脚注は含められません。この場合、見出しまたは脚注を含むグラフは、HTML、HTML5、または PDF を使用して配信する必要があります。
- ❑ このフォーマットは静的イメージを作成するため、ドリルダウンはサポートしません。

WP

フォーマット：WP (.txt)

説明：スケジュール出力を Web ブラウザ上のワードプロセッサ用テキストとして開きます。テキストは、すべてのワードプロセッサアプリケーションで開くことができます。

用途 (推奨)：ワードプロセッサアプリケーション、Email に使用します。

考慮事項

- ❑ 改ページやほとんどのフォーマットを保持しません。
- ❑ ハイパーリンクやアラートはサポートしません。
- ❑ Email の添付ファイルまたは Email メッセージの本文として配信することができます。
- ❑ バーストをサポートします。

Legal and Third-Party Notices

SOME TIBCO SOFTWARE EMBEDS OR BUNDLES OTHER TIBCO SOFTWARE. USE OF SUCH EMBEDDED OR BUNDLED TIBCO SOFTWARE IS SOLELY TO ENABLE THE FUNCTIONALITY (OR PROVIDE LIMITED ADD-ON FUNCTIONALITY) OF THE LICENSED TIBCO SOFTWARE. THE EMBEDDED OR BUNDLED SOFTWARE IS NOT LICENSED TO BE USED OR ACCESSED BY ANY OTHER TIBCO SOFTWARE OR FOR ANY OTHER PURPOSE.

USE OF TIBCO SOFTWARE AND THIS DOCUMENT IS SUBJECT TO THE TERMS AND CONDITIONS OF A LICENSE AGREEMENT FOUND IN EITHER A SEPARATELY EXECUTED SOFTWARE LICENSE AGREEMENT, OR, IF THERE IS NO SUCH SEPARATE AGREEMENT, THE CLICKWRAP END USER LICENSE AGREEMENT WHICH IS DISPLAYED DURING DOWNLOAD OR INSTALLATION OF THE SOFTWARE (AND WHICH IS DUPLICATED IN THE LICENSE FILE) OR IF THERE IS NO SUCH SOFTWARE LICENSE AGREEMENT OR CLICKWRAP END USER LICENSE AGREEMENT, THE LICENSE(S) LOCATED IN THE "LICENSE" FILE(S) OF THE SOFTWARE. USE OF THIS DOCUMENT IS SUBJECT TO THOSE TERMS AND CONDITIONS, AND YOUR USE HEREOF SHALL CONSTITUTE ACCEPTANCE OF AND AN AGREEMENT TO BE BOUND BY THE SAME.

This document is subject to U.S. and international copyright laws and treaties. No part of this document may be reproduced in any form without the written authorization of TIBCO Software Inc.

TIBCO, the TIBCO logo, the TIBCO O logo, FOCUS, iWay, Omni-Gen, Omni-HealthData, and WebFOCUS are either registered trademarks or trademarks of TIBCO Software Inc. in the United States and/or other countries.

Java and all Java based trademarks and logos are trademarks or registered trademarks of Oracle Corporation and/or its affiliates.

All other product and company names and marks mentioned in this document are the property of their respective owners and are mentioned for identification purposes only.

This software may be available on multiple operating systems. However, not all operating system platforms for a specific software version are released at the same time. See the readme file for the availability of this software version on a specific operating system platform.

THIS DOCUMENT IS PROVIDED "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, OR NON-INFRINGEMENT.

THIS DOCUMENT COULD INCLUDE TECHNICAL INACCURACIES OR TYPOGRAPHICAL ERRORS. CHANGES ARE PERIODICALLY ADDED TO THE INFORMATION HEREIN; THESE CHANGES WILL BE INCORPORATED IN NEW EDITIONS OF THIS DOCUMENT. TIBCO SOFTWARE INC. MAY MAKE IMPROVEMENTS AND/OR CHANGES IN THE PRODUCT(S) AND/OR THE PROGRAM(S) DESCRIBED IN THIS DOCUMENT AT ANY TIME.

THE CONTENTS OF THIS DOCUMENT MAY BE MODIFIED AND/OR QUALIFIED, DIRECTLY OR INDIRECTLY, BY OTHER DOCUMENTATION WHICH ACCOMPANIES THIS SOFTWARE, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO ANY RELEASE NOTES AND "READ ME" FILES.

This and other products of TIBCO Software Inc. may be covered by registered patents. Please refer to TIBCO's Virtual Patent Marking document (<https://www.tibco.com/patents>) for details.

Copyright © 2021. TIBCO Software Inc. All Rights Reserved.